

第46回県政世論調査結果報告書

令和5年7月実施

岐阜県

目 次

I	調査概要	1
1. 1	調査の目的	1
1. 2	調査の経緯	1
1. 3	調査項目	1
1. 4	調査の設計	1
1. 5	回収結果	1
1. 6	標本誤差	2
1. 7	報告書の見方	2
1. 8	対象者の属性	3
II	調査結果	8
2. 1	暮らしについて	8
問1	暮らしの前年比較	8
問1-2	暮らしが苦しくなったと感じる理由	13
問2	暮らしの満足度	19
問3	生活面での不安	24
問4	今後の暮らしの中で重視していきたいこと	33
問5	生活に必要な情報の入手媒体	42
問6	現在住んでいる地域は住みやすいか	49
問6-2	住んでいる地域が住みやすいと感じる点	53
問6-3	住んでいる地域が住みにくいと感じる点	60
問7	今後も岐阜県に住み続けたいか	67
2. 2	県の取組み全般について	71
問8	施策や事業についての情報の入手方法	71
問9	県事業への関心の有無	78
問9-2	県事業に関心がない理由	83
問10	県の取組でよくやっていると思う分野、 努力が足りないと思う分野	87
問11	重点的に進めるべきだと思う分野	101

I 調査概要

1. 1 調査の目的

県下全域の県民意識の把握とともに、県行政に対する県民の関心、満足度等を調査し、県政推進の基礎資料とする。

1. 2 調査の経緯

昭和42年から実施、今回46回目

※昭和42年～昭和61年：毎年実施 昭和63年～平成18年：隔年実施 平成20年～：毎年実施

1. 3 調査項目

- (1) 暮らしについて
- (2) 県の取組み全般について

1. 4 調査の設計

- (1) 調査地域 岐阜県全域
- (2) 調査対象 県内に居住する満18歳以上の男女個人
- (3) 標本数 3,000人
- (4) 抽出方法 層化二段無作為抽出法
- (5) 調査方法 郵送法・オンライン調査法の併用
- (6) 調査時期 令和5年7月3日～7月26日
- (7) 調査実施機関 株式会社中部タイム・エージェント

1. 5 回収結果

	調査時期	標本数 (A)	回収数 (B)	有効回答数 (C)	回収率 (B/A)	有効回答率 (C/A)	有効回答数の うちオンライン 回答数・割合
第46回 (令和5年度)	令和5年 7月	3,000	1,758	1,758	58.6%	58.6%	416 23.7%
第45回 (令和4年度)	令和4年 8月	3,000	1,616	1,616	53.9%	53.9%	434 26.9%
第44回 (令和3年度)	令和3年 7月	3,000	1,553	1,553	51.8%	51.8%	383 24.7%

1. 6 標本誤差

調査結果には統計上多少の誤差が生じることがあるため、調査結果をみる場合、一定の幅を持たせてみる必要がある。その幅を標本誤差といい、以下の式で表される。

$$\text{標本誤差} = \pm 1.96 \sqrt{\frac{P(100-P)}{n}} \quad (\text{ただし、} P: \text{回答比率 } n: \text{回答者数})$$

すなわち、標本誤差の幅は①回答者数 (n) 及び②回答比率 (P) によって異なる。上式を用いた各回答者数、回答比率における標本誤差を以下の表に示す。

		P (回答比率 %)									
		5 又 は 95	10 又 は 90	15 又 は 85	20 又 は 80	25 又 は 75	30 又 は 70	35 又 は 65	40 又 は 60	45 又 は 55	50
n (回答者数 人)											
総数	1,758	1.0	1.4	1.7	1.9	2.0	2.1	2.2	2.3	2.3	2.3

(注) 1. 層化を行った場合、誤差は上表より若干増減することもある。

2. この表の見方は以下のとおりである。

「ある設問の回答者数が 1,758 人であり、その設問中の選択肢の回答比率が 50%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも±2.3%である。」

1. 7 報告書の見方

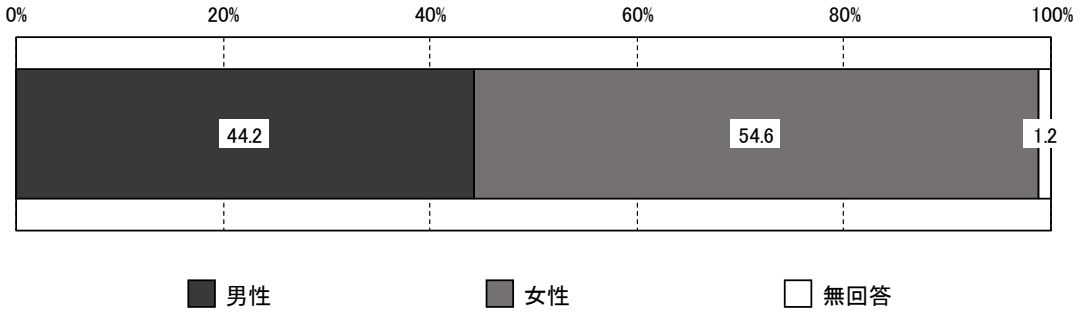
- (1) 比率は全てパーセントで表し、小数点第 2 位を四捨五入して算出した。そのため、パーセントの合計が 100.0%にならない場合がある。
- (2) 基数となるべき実数は「n」(件数)として掲載した。したがって比率は、n を 100%として算出している。
- (3) 複数回答が可能な設問では総回答数を「N」として掲載した。その場合、その項目を選んだ人が、回答者全体のうち何%を占めるのかという見方をする。したがって、各項目の比率の合計は、通常 100%を超える。
- (4) 本報告書中の表、グラフ及び本文で使われている選択肢の表現は、本来の意味を損なわない程度に省略している場合がある。
- (5) クロス集計において、年代別の 18～19 歳の属性はサンプル数が少なく、分析に堪えないことから、グラフへの表示及び分析を行っていない。

1. 8 対象者の属性

F-1 性別

図 F-1 性別

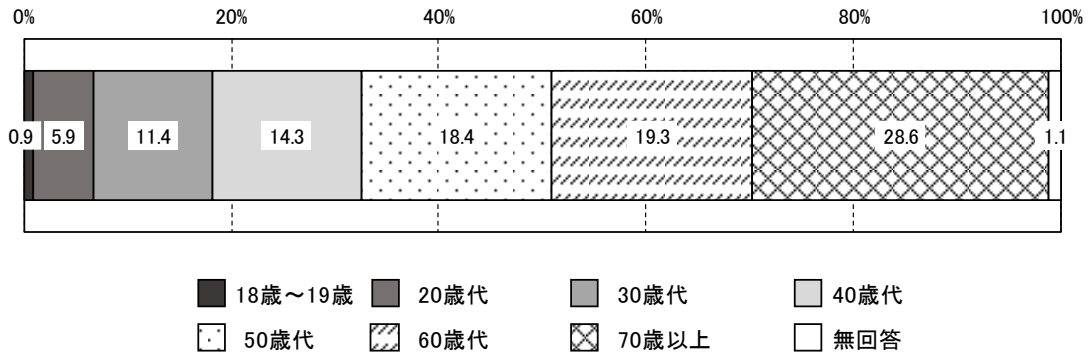
回答者数 (n = 1,758)



F-2 年代

図 F-2 年代

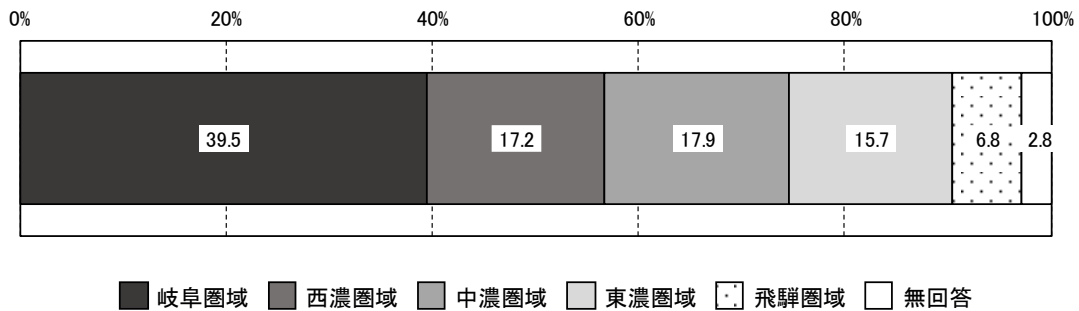
回答者数 (n = 1,758)



F-3 居住圏域（5分類）

図 F-3 居住圏域（5分類）

回答者数 (n = 1,758)

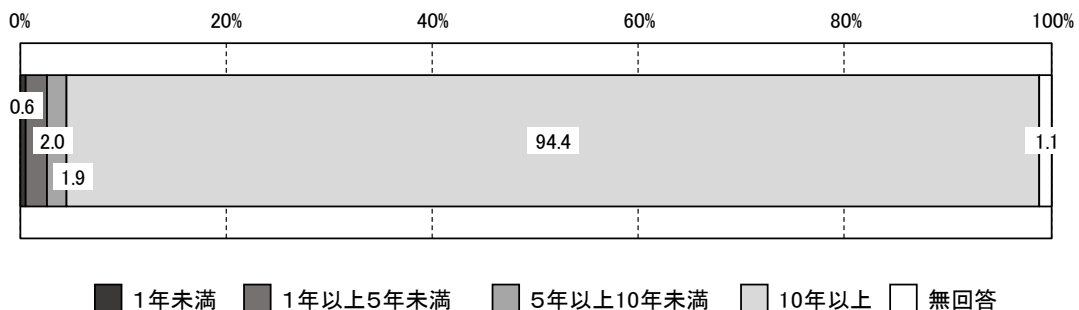


岐阜圏域（岐阜市・羽島市・各務原市・山県市・瑞穂市・本巣市・岐南町・笠松町・北方町）
 西濃圏域（大垣市・海津市・養老町・垂井町・関ヶ原町・神戸町・輪之内町・安八町・揖斐川町・大野町・池田町）
 中濃圏域（関市・美濃市・美濃加茂市・可児市・郡上市・坂祝町・富加町・川辺町・七宗町・八百津町・白川町・東白川村・御嵩町）
 東濃圏域（多治見市・中津川市・瑞浪市・恵那市・土岐市）
 飛騨圏域（高山市・飛騨市・下呂市・白川村）

F-4 居住年数

図 F-4 居住年数

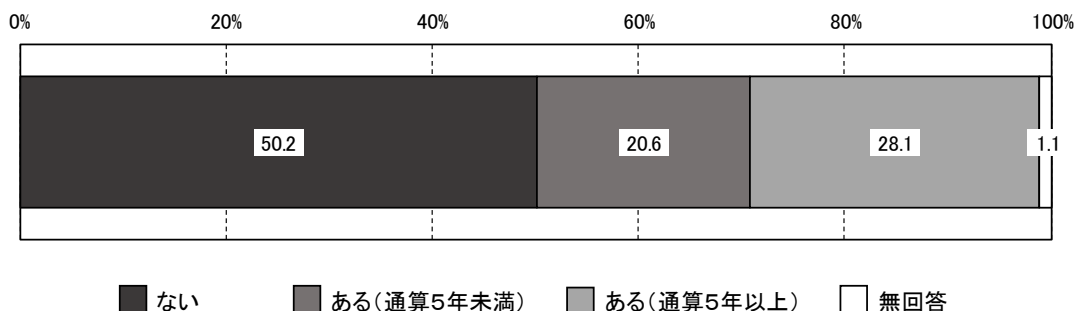
回答者数 (n = 1,758)



F-5 県外居住経験の有無

図 F-5 県外居住経験の有無

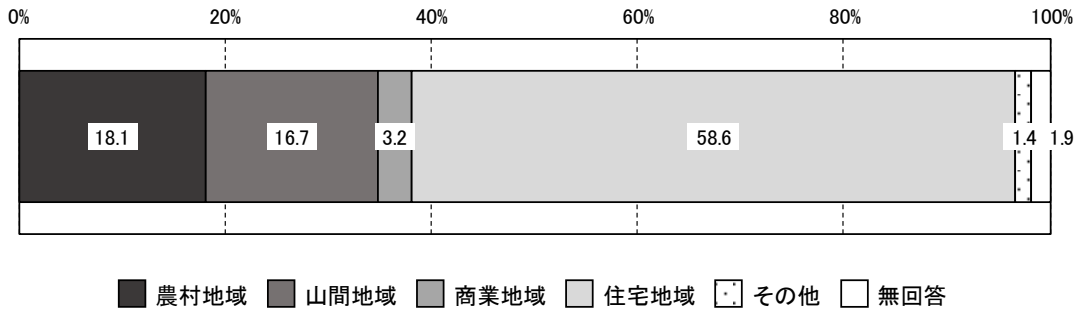
回答者数 (n = 1,758)



F-6 居住地周囲の環境

図 F-6 居住地周囲の環境

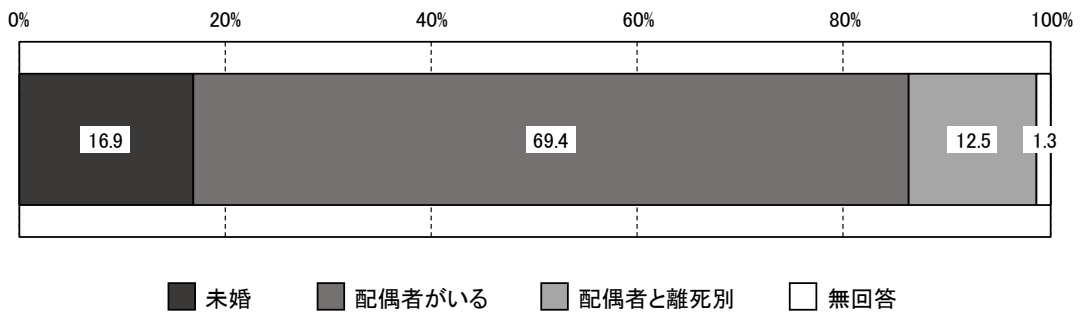
回答者数 (n = 1,758)



F-7 配偶者の有無

図 F-7 配偶者の有無

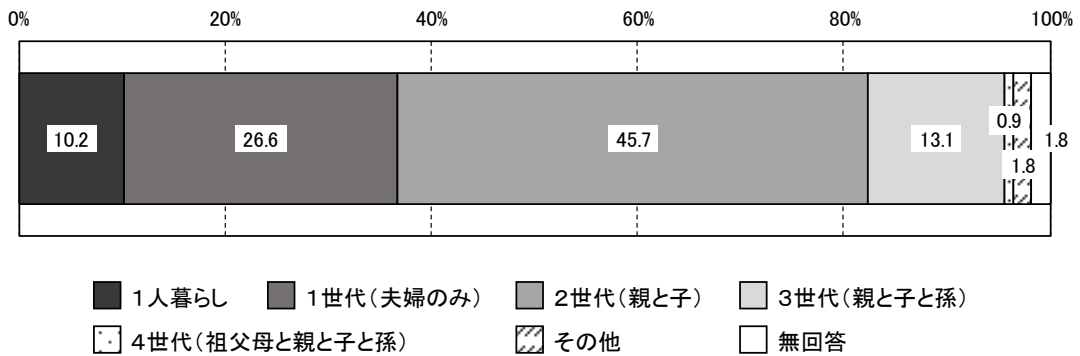
回答者数 (n = 1,758)



F-8 家族形態

図 F-8 家族形態

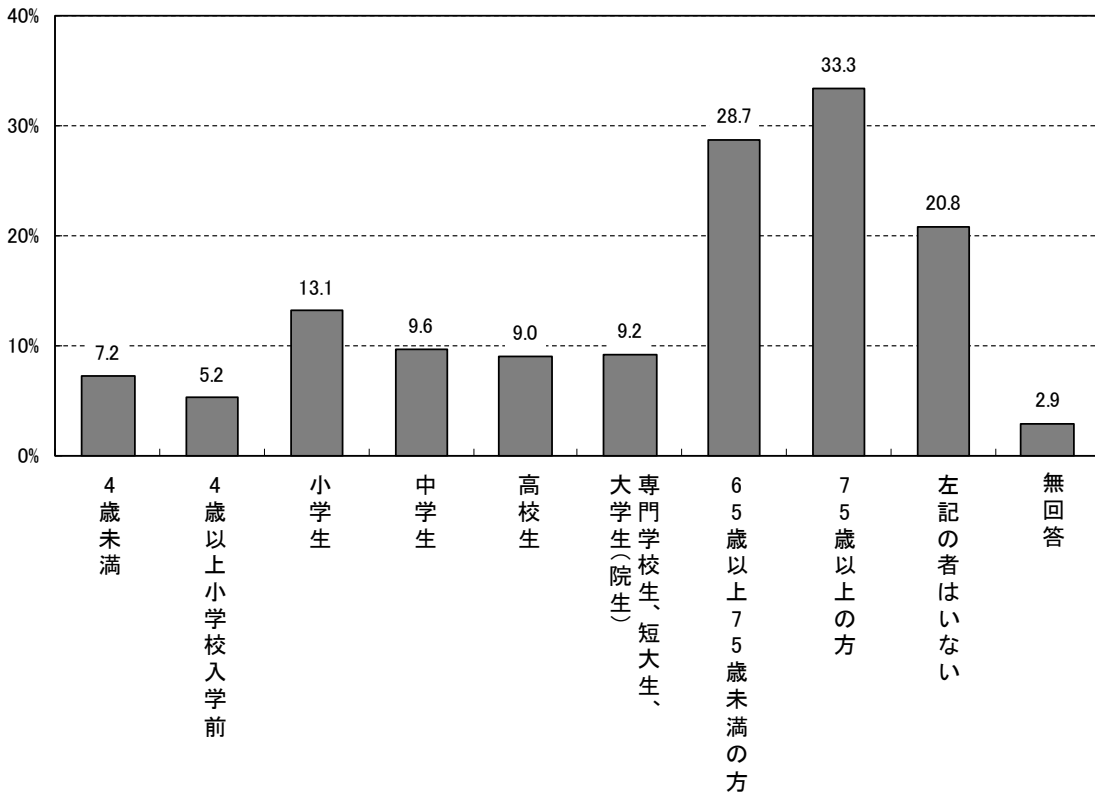
回答者数 (n = 1,758)



F-9 家族構成

図 F-9 家族構成

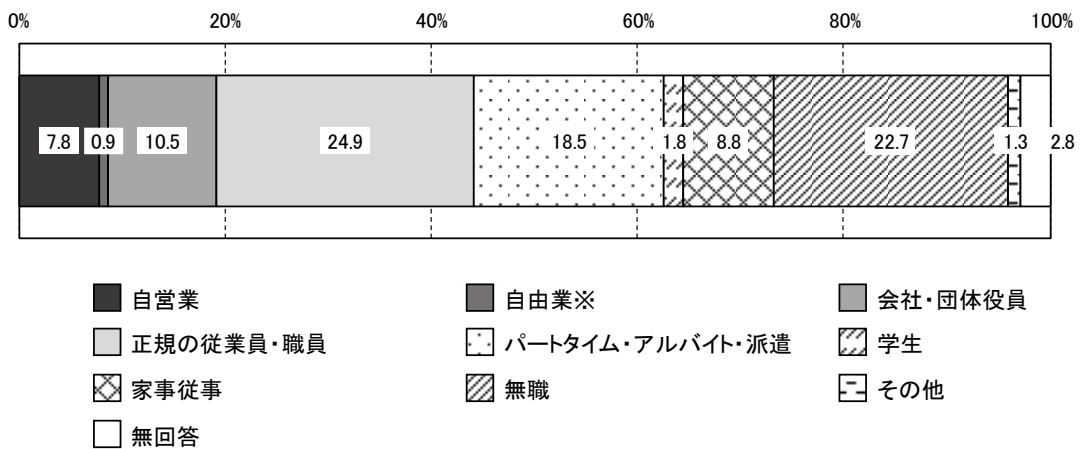
回答者数 (n = 1,758)
 総回答数 (N = 2,443)



F-10 職業

図 F-10 職業

回答者数 (n = 1,758)

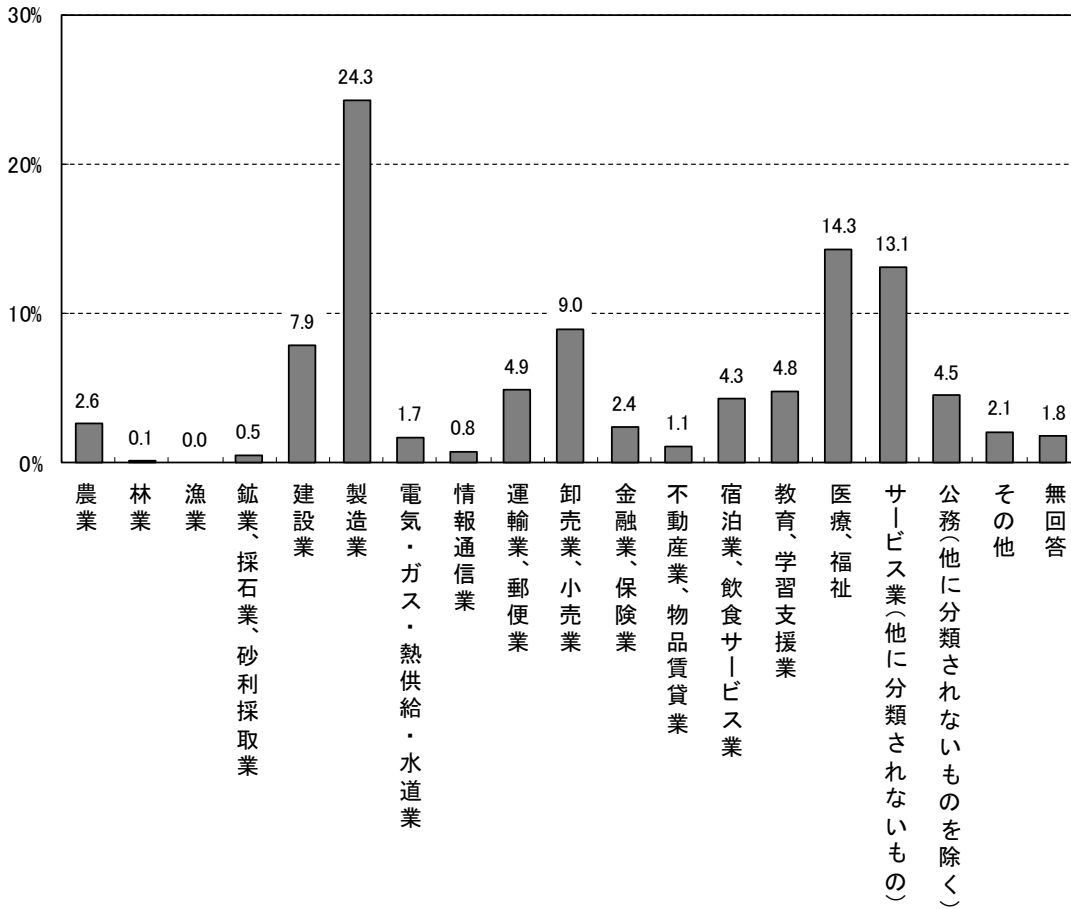


※ 自由業：一定の雇用関係によらず、勤務時間その他の制約を受けない職業で、作家、弁護士、医師、会計士、税理士、芸術家など

F-11 業種

図 F-11 業種

回答者数 (n = 1,101)※

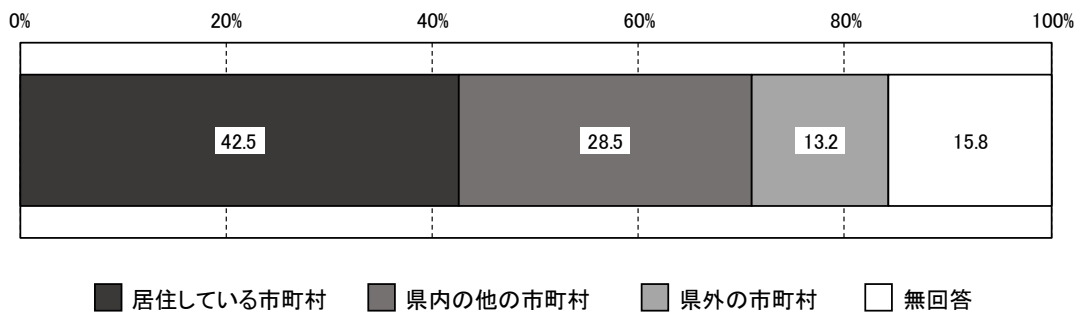


※ 「F-10 職業」で、自営業、自由業、会社・団体役員、正規の従業員・職員、パートタイム・アルバイト・派遣と答えた方のみ

F-12 通勤、通学先

図 F-12 通勤、通学先

回答者数 (n = 1,132)※



■ 居住している市町村 ■ 県内の他の市町村 ■ 県外の市町村 □ 無回答

※ 「F-10 職業」で、自営業、自由業、会社・団体役員、正規の従業員・職員、パートタイム・アルバイト・派遣、学生と答えた方のみ

Ⅱ 調査結果

2. 1 暮らしについて

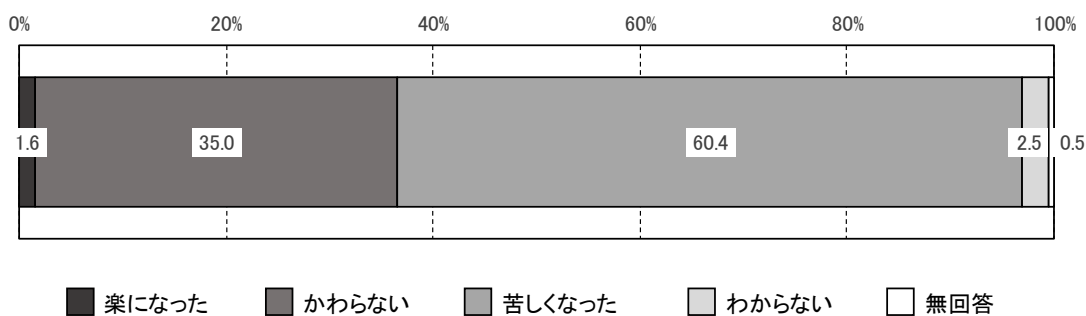
問1 暮らしの前年比較

問1 あなたやあなたの家庭の暮らし向き(家計など)は、去年の今頃と比べてどうですか。
(1つだけ)

全体(図1-1)で見ると、「苦しくなった」が60.4%と最も高く、次いで「かわらない」(35.0%)、「わからない」(2.5%)、「楽になった」(1.6%)の順となっている。

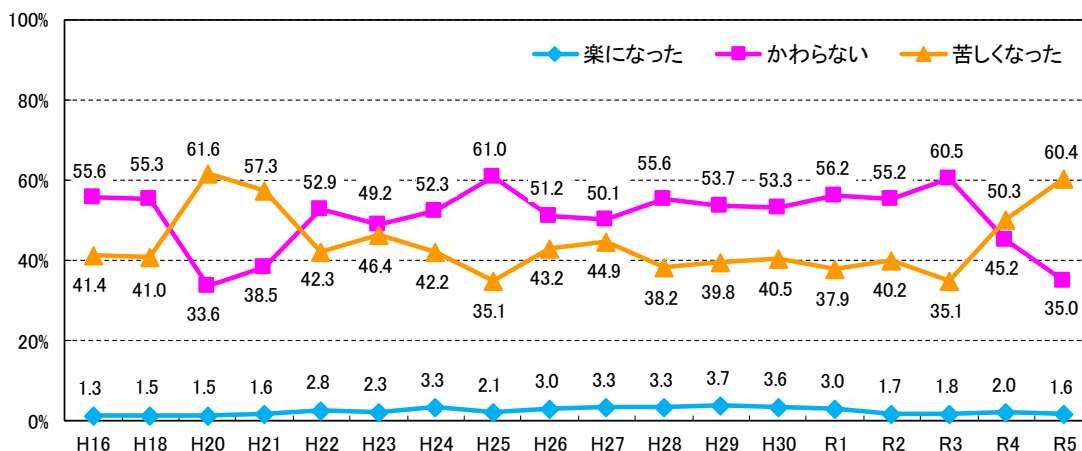
図1-1 暮らしの前年比較

回答者数(n=1,758)



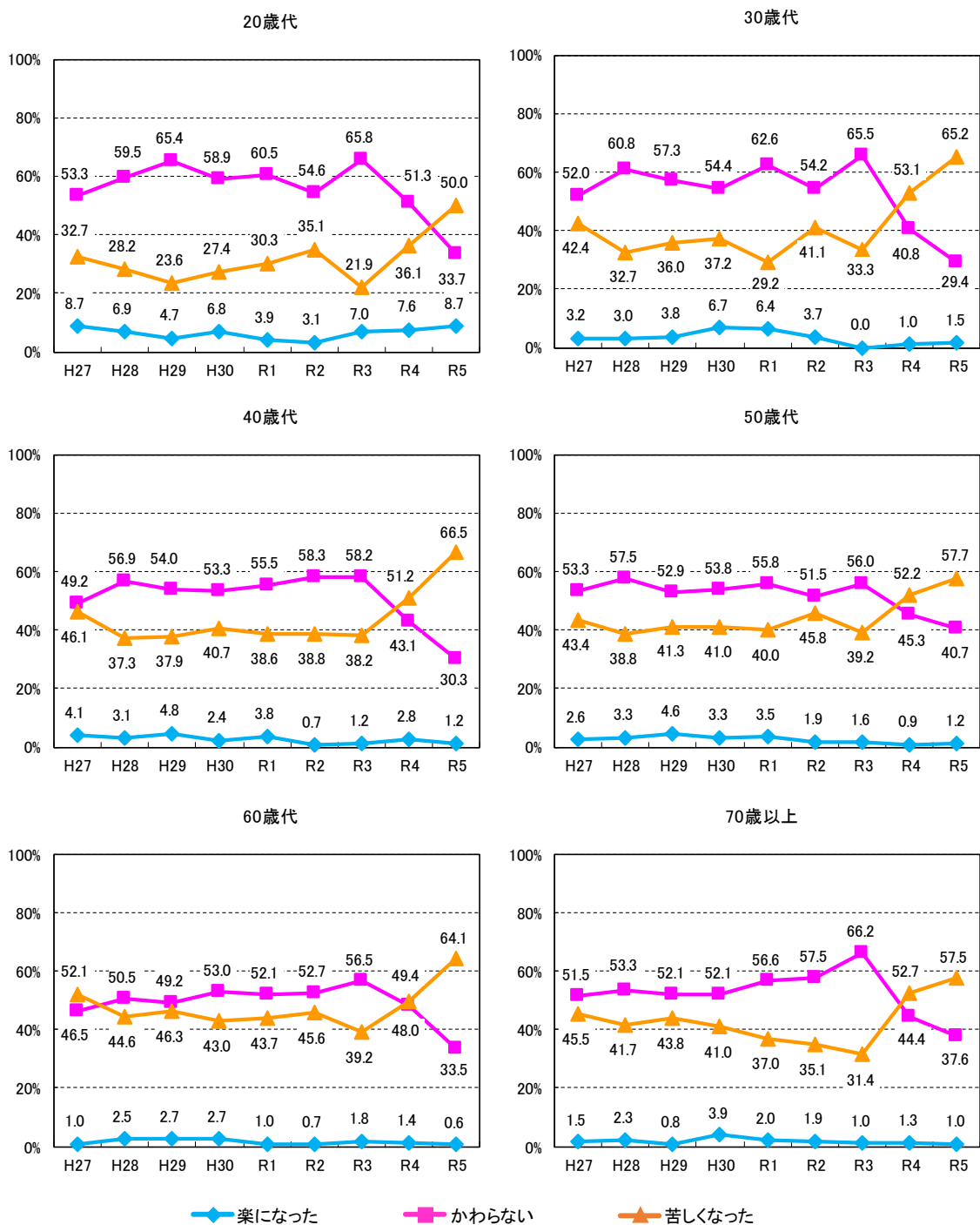
経年変化(図1-2)で見ると、平成22年から令和3年までは一貫して「かわらない」が最も高くなっていたが、令和4年から「苦しくなった」が「かわらない」を上回り、令和5年では、令和4年より「かわらない」が10.2ポイント減少し、「苦しくなった」が10.1ポイント増加している。

図1-2【経年変化】暮らしの前年比較



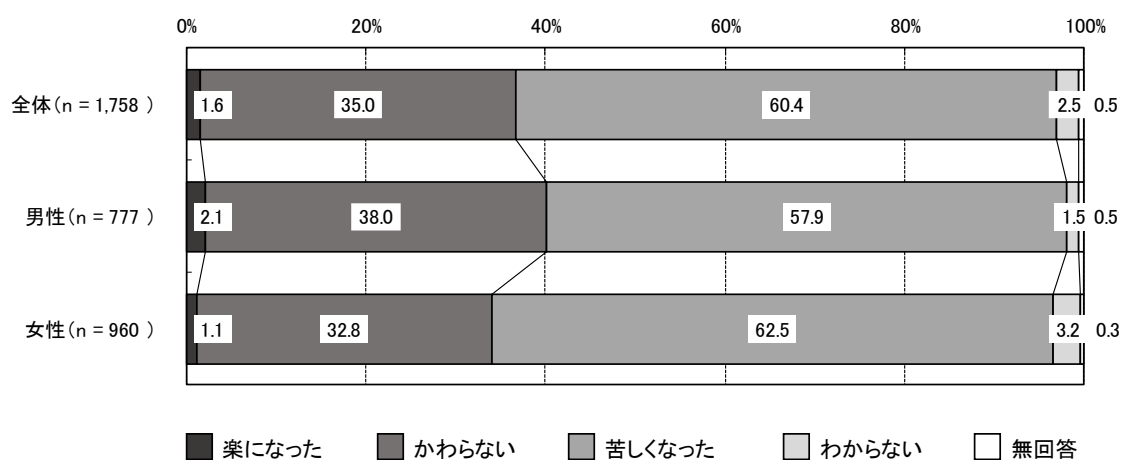
年代別の経年変化（図 1-3）でみると、令和 5 年では令和 4 年と同じく、いずれの年代においても「苦しくなった」が増加しており、そのうち 40 歳代が 15.3 ポイントと最も増加幅が大きい。一方、「かわらない」は、いずれの年代においても減少している。

図 1-3 【経年変化(年代別)】 暮らしの前年比較



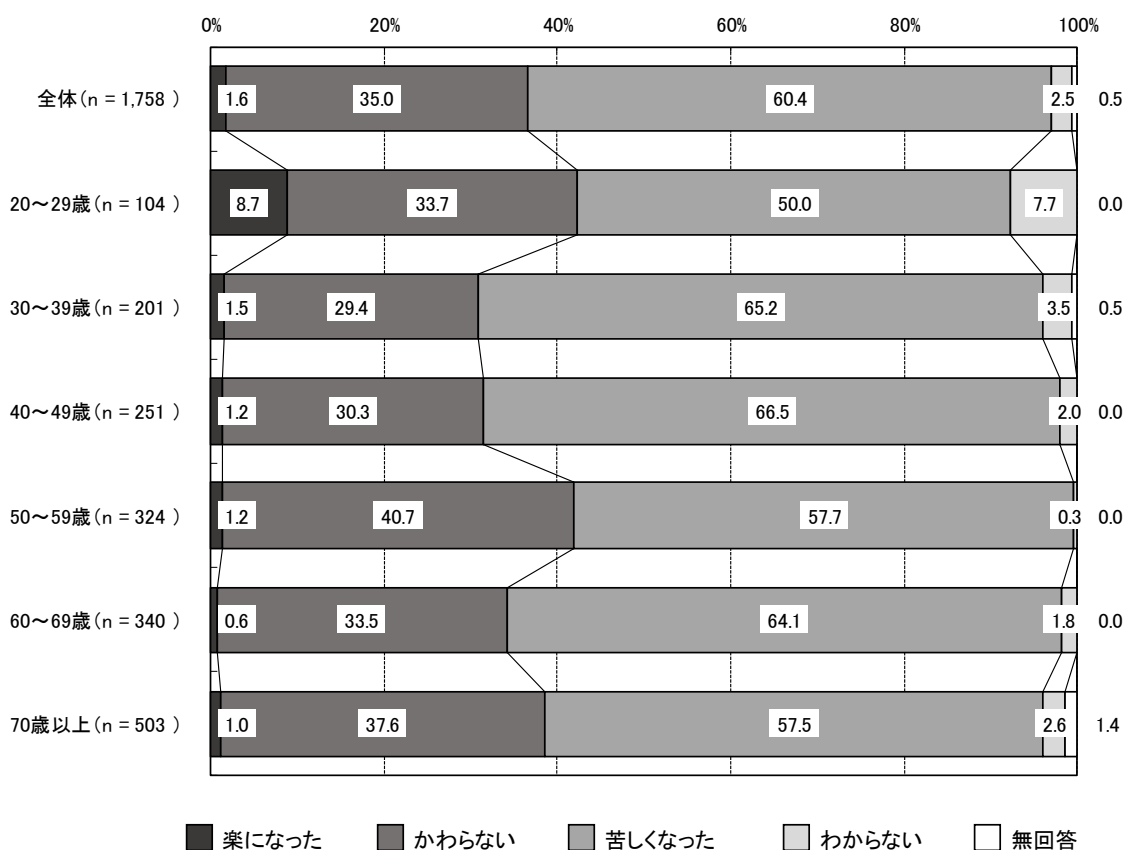
性別（図 1-4）で見ると、男女ともに「苦しくなった」が最も高く、男性が 57.9%、女性が 62.5%となっており、女性が男性より 4.6 ポイント高くなっている。

図 1-4 【性別】くらしの前年比較



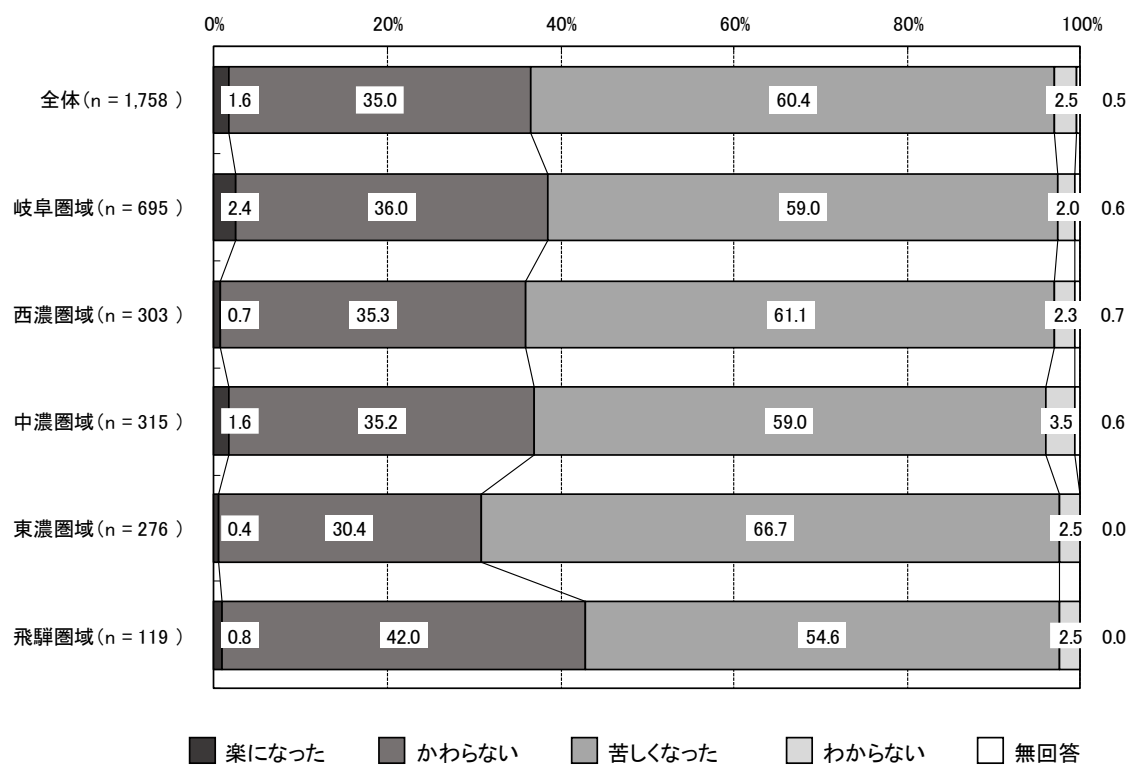
年代別（図 1-5）で見ると、いずれの年代においても「苦しくなった」が最も高く、そのうち 40 歳代が 66.5%と最も高くなっている。一方、「楽になった」は、20 歳代が 8.7%と最も高くなっている。

図 1-5 【年代別】くらしの前年比較



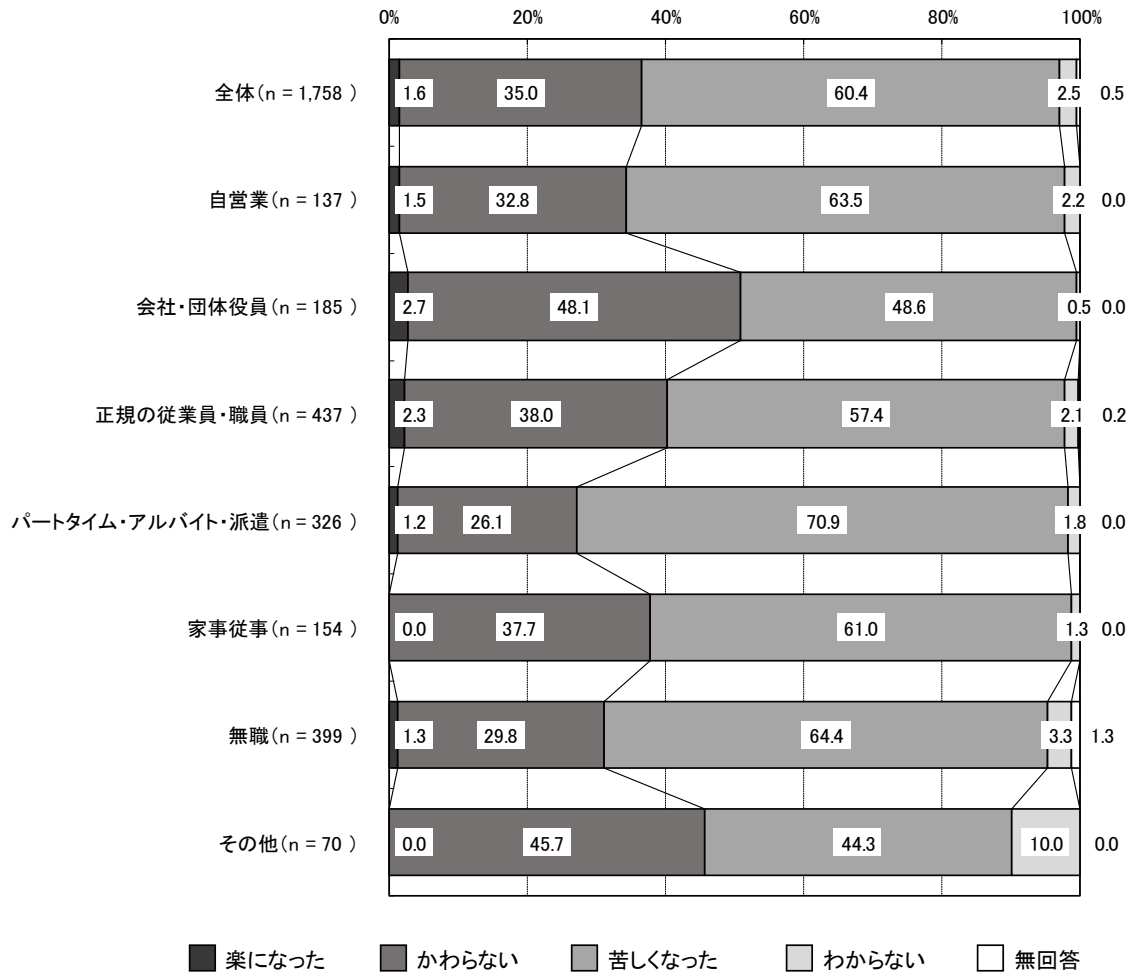
居住圏域別（図 1-6）で見ると、いずれの圏域においても「苦しくなった」が最も高く、そのうち東濃圏域が 66.7%と最も高くなっている。

図 1-6 【居住圏域別】くらしの前年比較



職業別（図 1-7）で見ると、「その他」を除くいずれの職業においても「苦しくなった」が最も高く、パートタイム・アルバイト・派遣では 70.9%と最も高くなっている。「その他」では「かわらない」が最も高くなっている。

図 1-7 【職業別】くらしの前年比較



※ その他には、自由業、学生を含む。

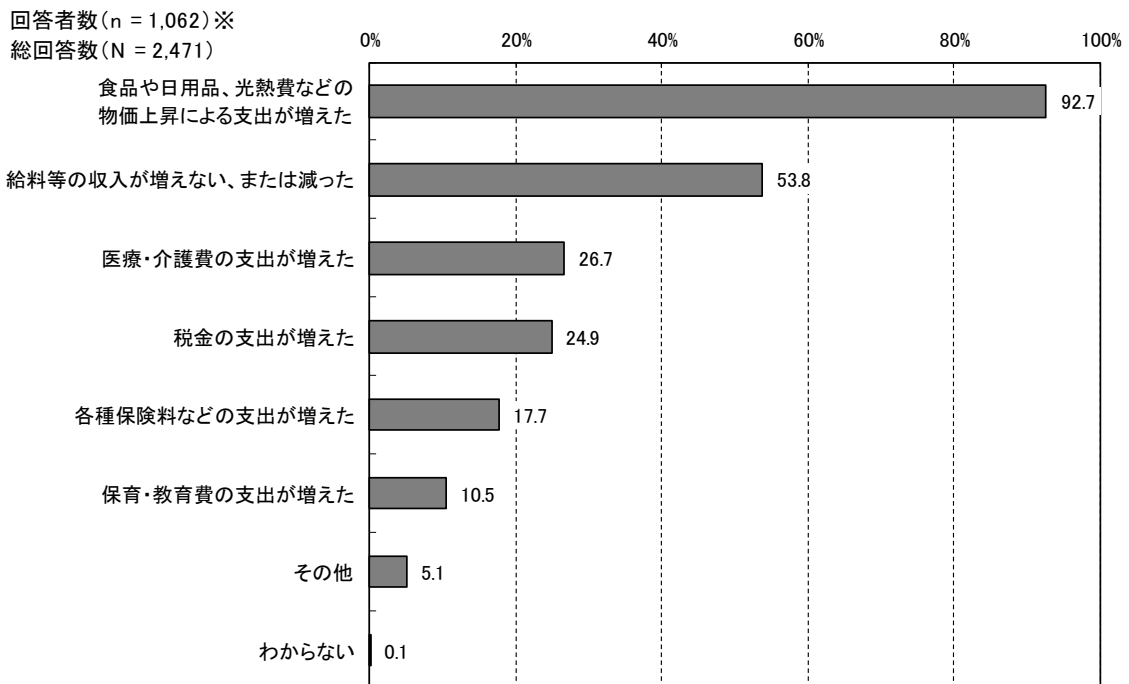
問1-2 暮らしが苦しくなったと感じる理由

問1-2 「苦しくなった」と答えた方にお尋ねします。

あなたが、暮らしが苦しくなったと感じるのは、どのような理由からですか。
(3つまで)

全体(図1-2-1)で見ると、「食品や日用品、光熱費などの物価上昇による支出が増えた」が92.7%と最も高く、次いで「給料等の収入が増えない、または減った」(53.8%)、「医療・介護費の支出が増えた」(26.7%)の順となっている。

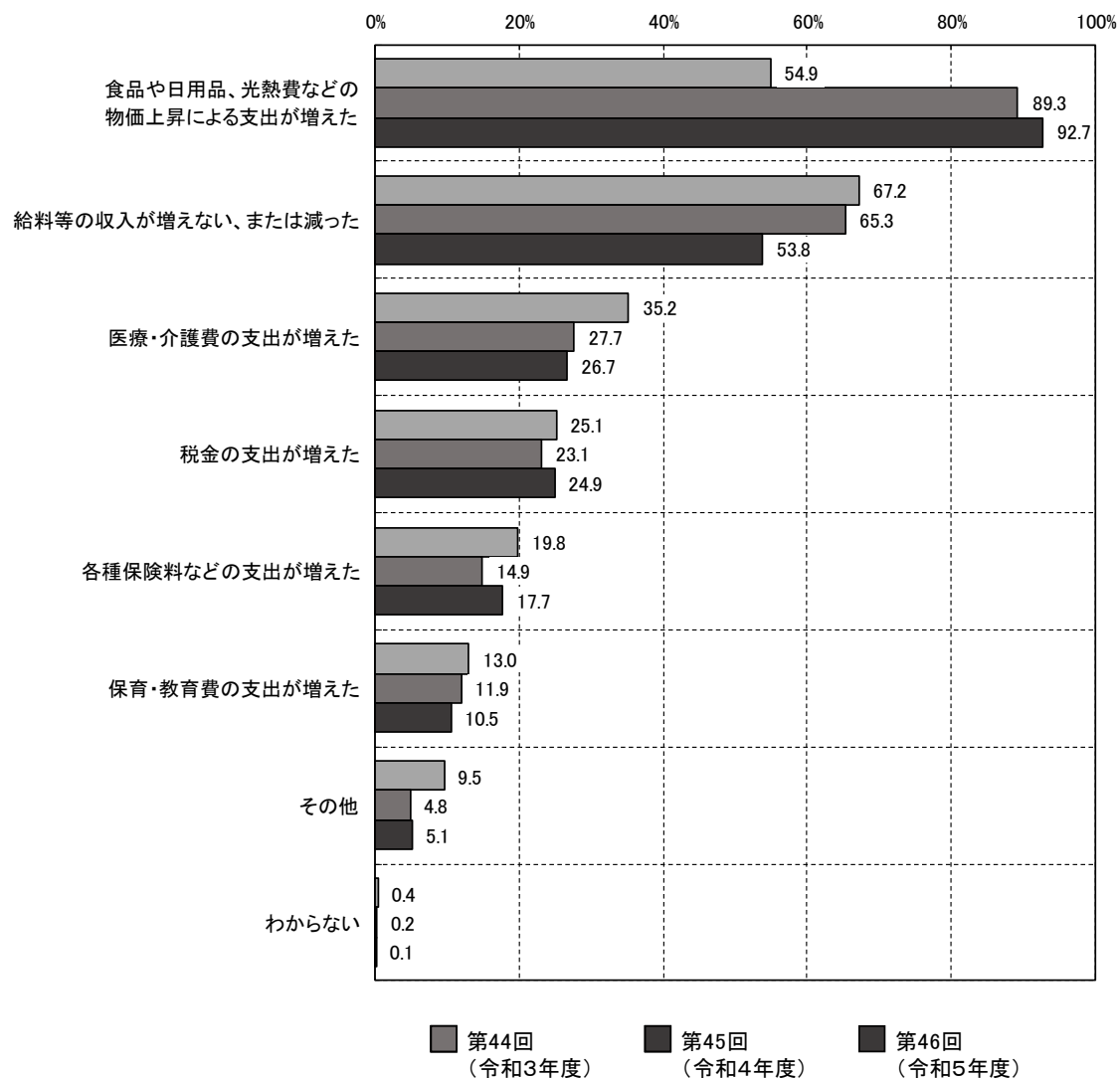
図1-2-1 暮らしが苦しくなったと感じる理由



※ 問1で「苦しくなった」と答えた方のみ

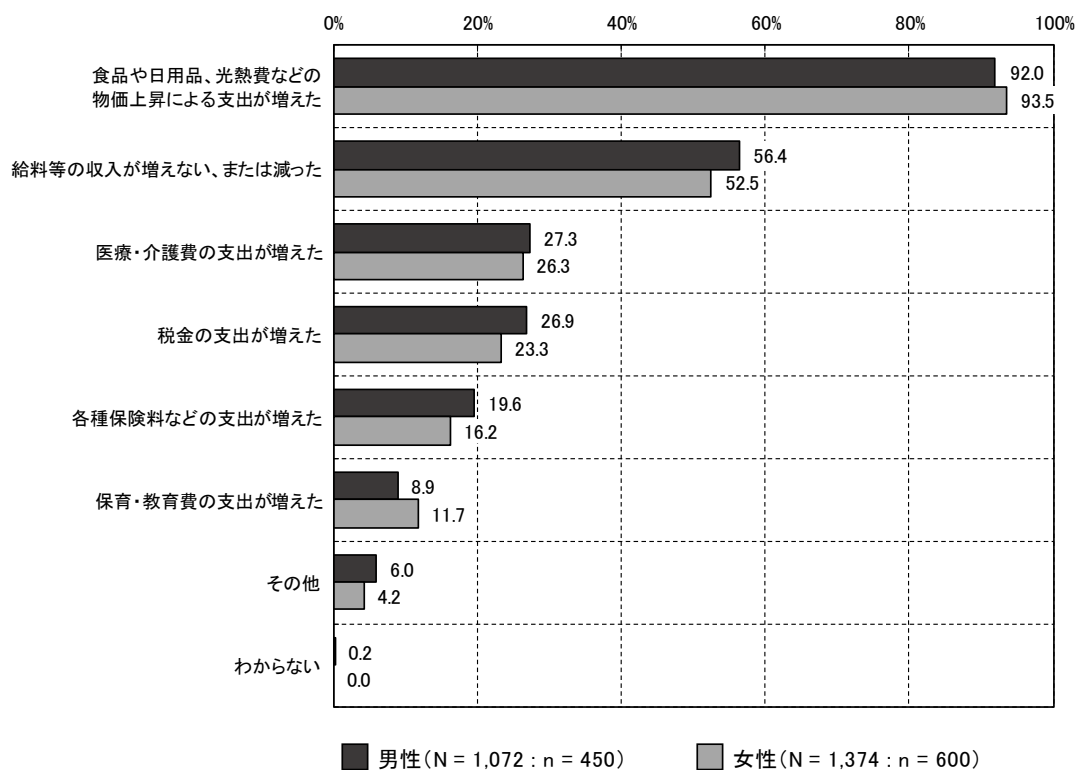
前々回・前回比較（図 1-2-2）で見ると、「食品や日用品、光熱費などの物価上昇による支出が増えた」が年々高くなっている。一方、「給料等の収入が増えない、または減った」は、前回に比べて11.5ポイント減少している。

図 1-2-2 【前々回・前回比較】くらしが苦しくなったと感じる理由



性別（図 1-2-3）で見ると、男女ともに「食品や日用品、光熱費などの物価上昇による支出が増えた」が最も高く、男性が 92.0%、女性が 93.5%となっている。「給料等の収入が増えない、または減った」では、男性が女性よりも 3.9 ポイント高くなっている。

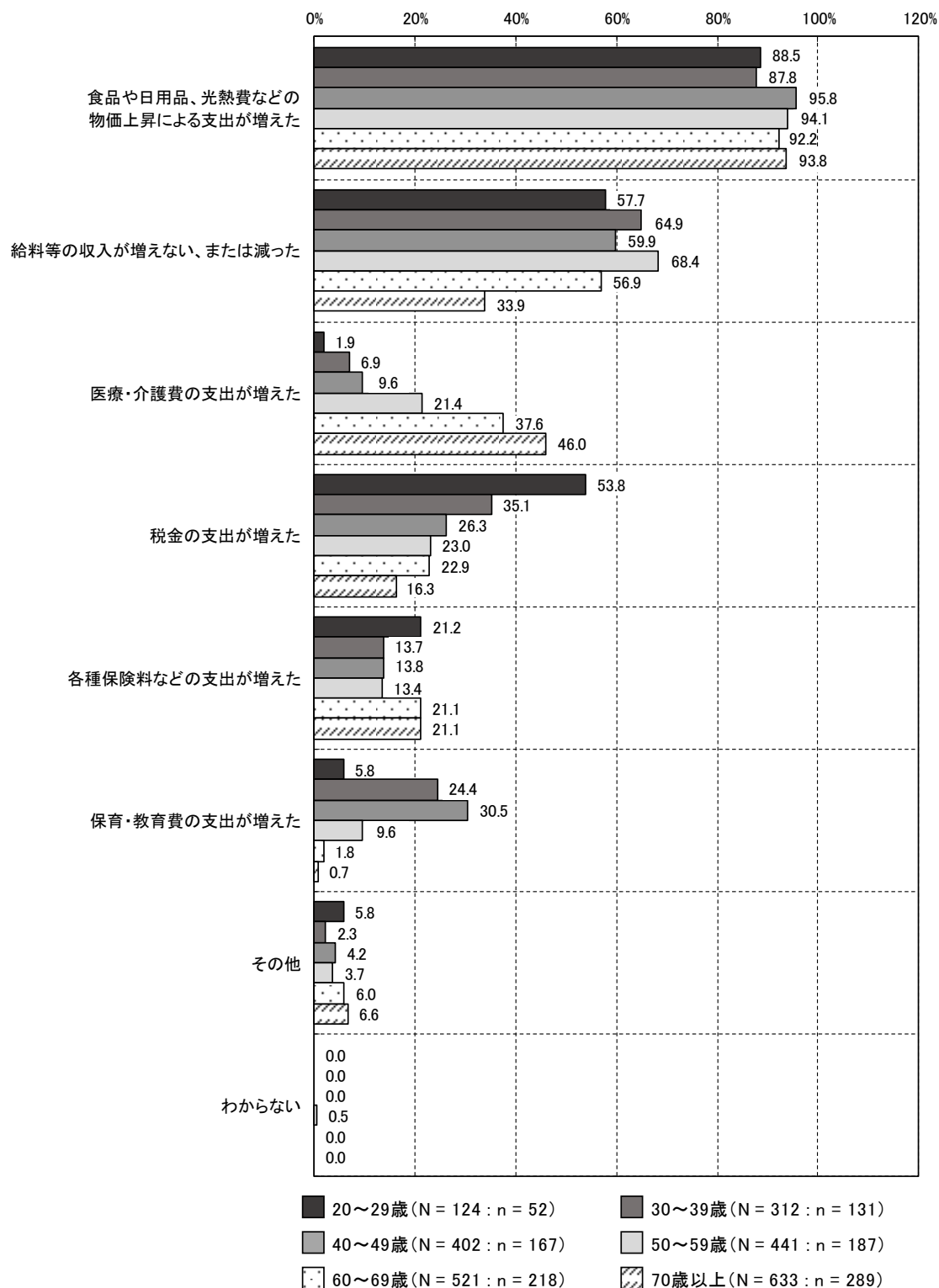
図 1-2-3 【性別】 暮らしが苦しくなったと感じる理由



※ N=総回答数 n=回答者数

年代別（図 1-2-4）で見ると、いずれの年代においても「食品や日用品、光熱費などの物価上昇による支出が増えた」が最も高くなっている。また、「医療・介護費の支出が増えた」は年代があがるにつれて高くなっており、「税金の支出が増えた」は年代がさがるにつれて高くなっている。

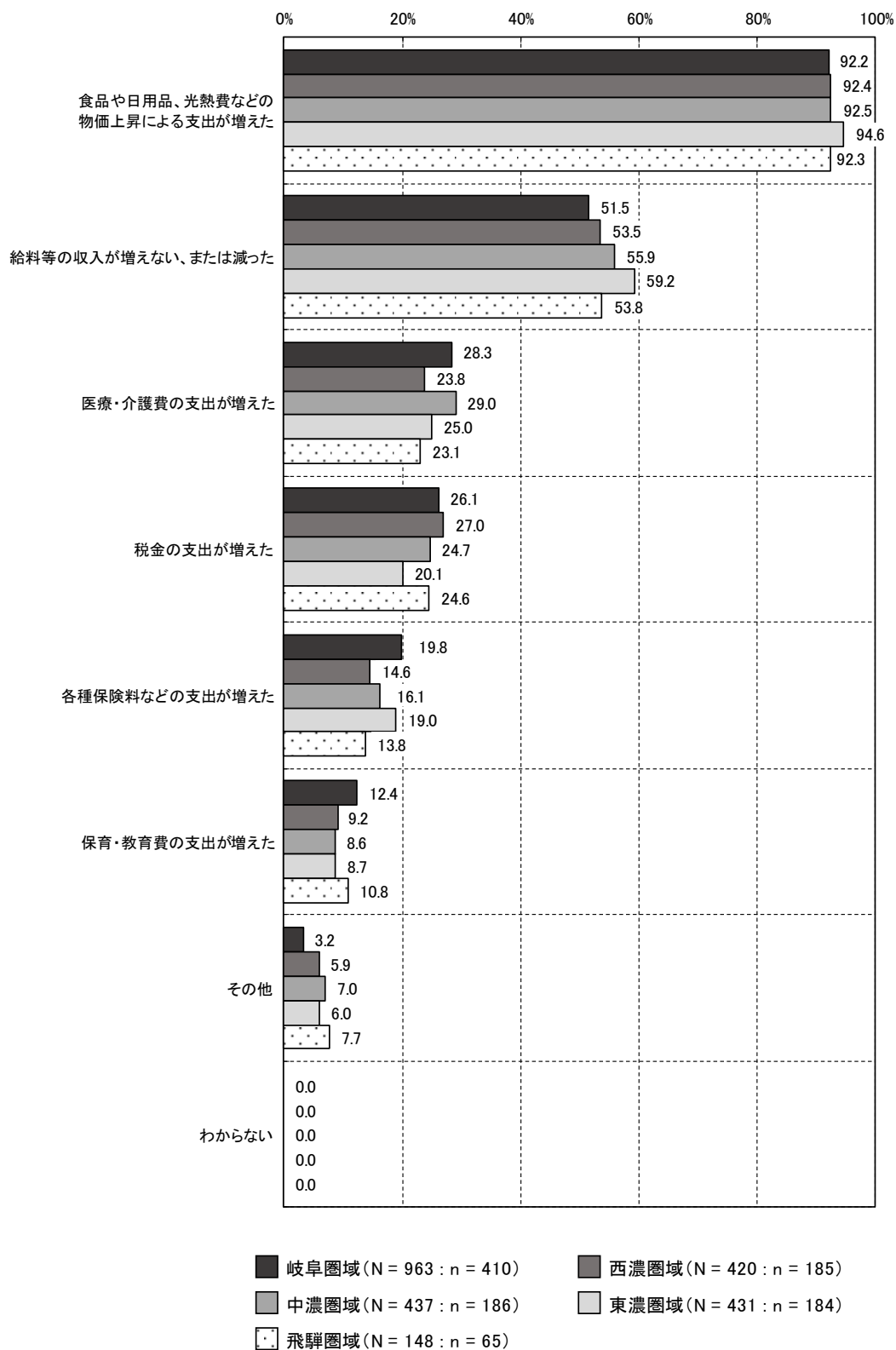
図 1-2-4 【年代別】くらしが苦しくなったと感じる理由



※ N=総回答数 n=回答者数

居住圏域別（図 1-2-5）で見ると、いずれの居住圏域においても「食品や日用品、光熱費などの物価上昇による支出が増えた」が最も高く、次いで「給料等の収入が増えない、または減った」の順となっている。

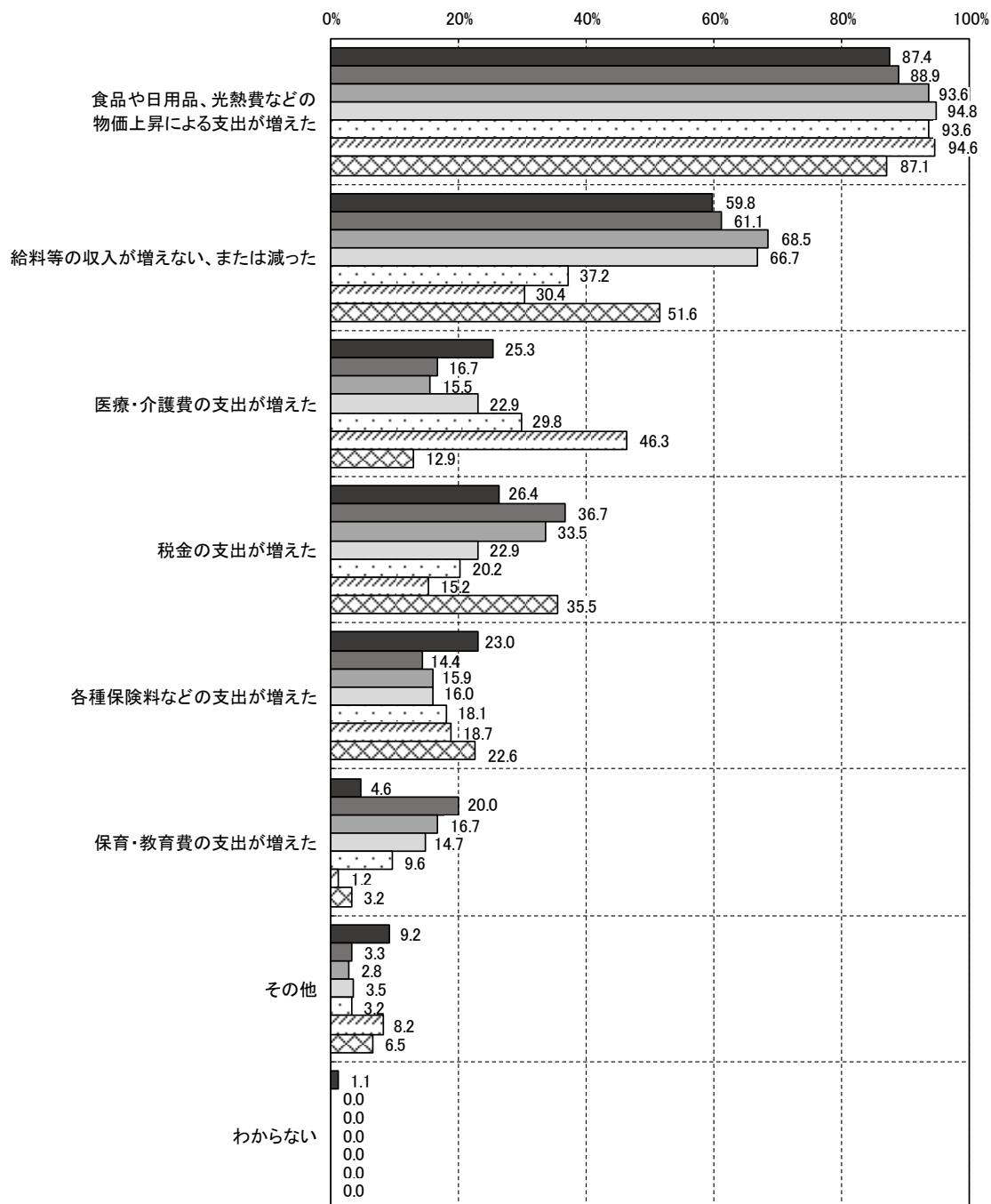
図 1-2-5 【居住圏域別】くらしが苦しくなったと感じる理由



※ N=総回答数 n=回答者数

職業別（図 1-2-6）でみると、いずれの職業においても「食品や日用品、光熱費などの物価上昇による支出が増えた」が最も高くなっている。正規の従業員・職員、パートタイム・アルバイト・派遣では「給料等の収入が増えない、または減った」が他の職業に比べて高くなっている。

図 1-2-6 【職業別】くらしが苦しくなったと感じる理由



- 自営業 (N = 207 : n = 87)
- 会社・団体役員 (N = 218 : n = 90)
- 正規の従業員・職員 (N = 621 : n = 251)
- パートタイム・アルバイト・派遣 (N = 559 : n = 231)
- 家事従事 (N = 201 : n = 94)
- 無職 (N = 554 : n = 257)
- その他 (N = 69 : n = 31)

※ その他には、自由業、学生を含む。

※ N=総回答数 n=回答者数

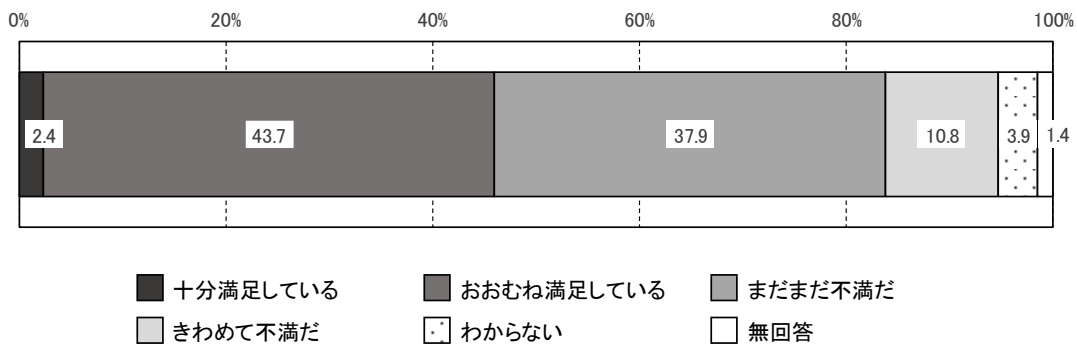
問2 暮らしの満足度

問2 あなたは、現在の暮らし全般（生活環境など）についてどう思いますか。（1つだけ）

全体（図2-1）で見ると、「おおむね満足している」が43.7%と最も高く、次いで「まだまだ不満だ」（37.9%）、「きわめて不満だ」（10.8%）の順となっている。

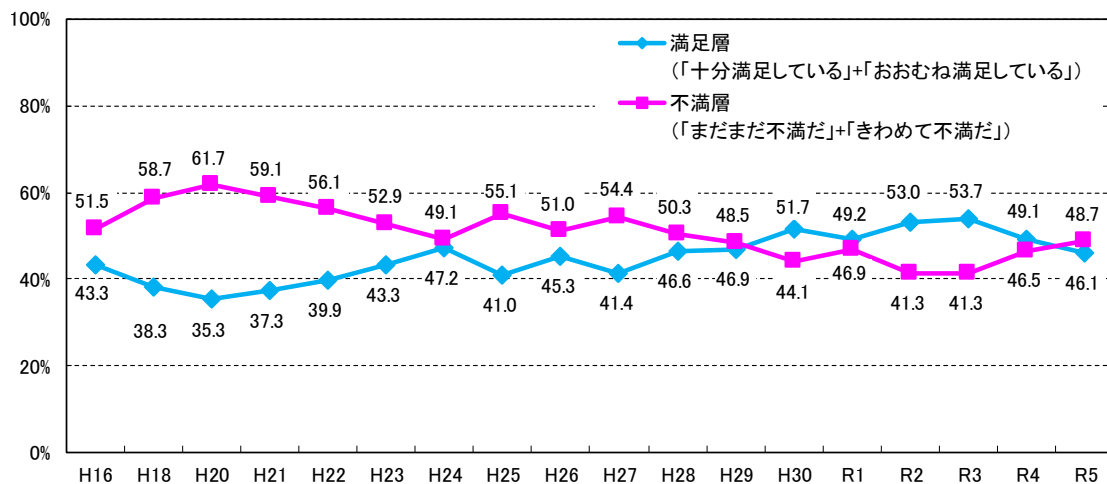
図2-1 暮らしの満足度

回答者数(n = 1,758)



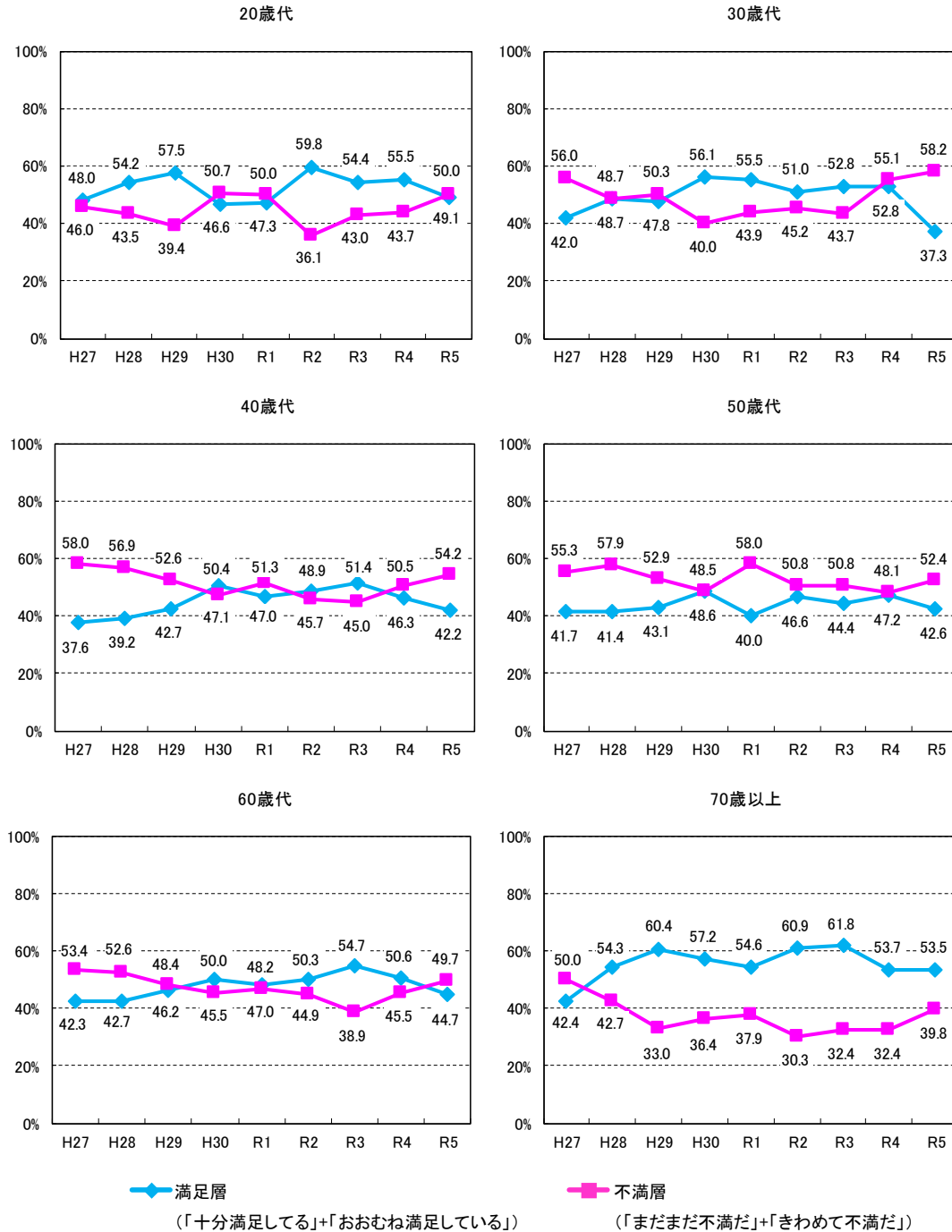
経年変化（図2-2）で見ると、平成30年以降、「満足層」（「十分満足している」+「おおむね満足している」）が「不満層」（「まだまだ不満だ」+「きわめて不満だ」）を上回っていたが、令和5年では、前年に比べて「満足層」が3.0ポイント減少、「不満層」が2.2ポイント増加し、「不満層」が「満足層」を上回った。

図2-2【経年変化】暮らしの満足度



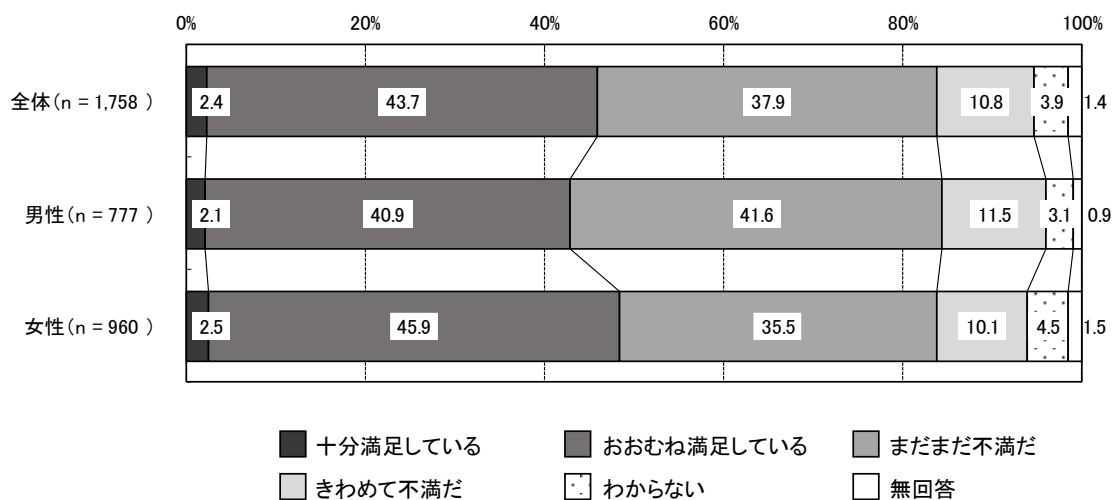
年代別の経年変化（図 2-3）でみると、令和 5 年はいずれの年代においても「不満層」が増加し、20 歳代から 60 歳代は「不満層」が「満足層」を上回っている。一方、70 歳以上では、平成 28 年より変わらず、「満足層」が「不満層」を上回っている。また、30 歳代では令和 4 年より「満足層」が 15.5 ポイント減少している。

図 2-3 【経年変化(年代別)】 暮らしの満足度



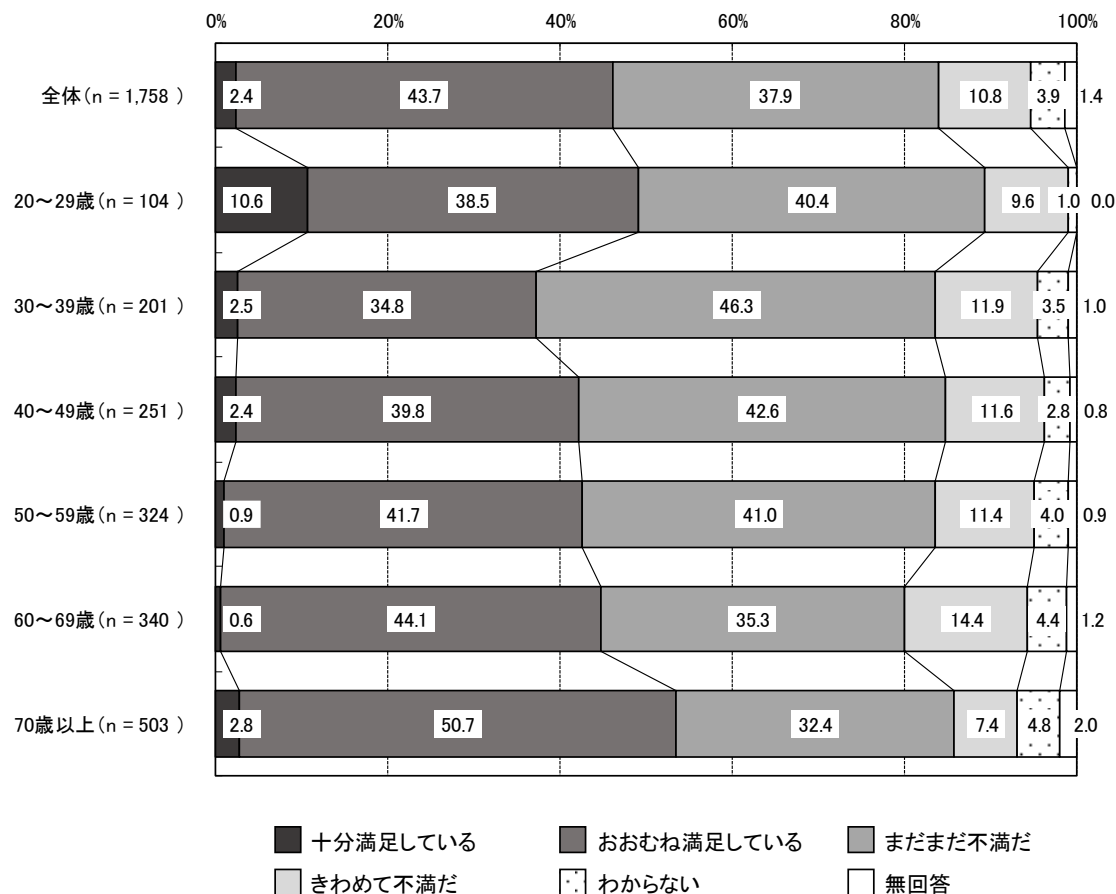
性別（図 2-4）で見ると、男性では「まだまだ不満だ」が最も高くなっており、女性では「おおむね満足している」が最も高くなっている。

図 2-4 【性別】くらしの満足度



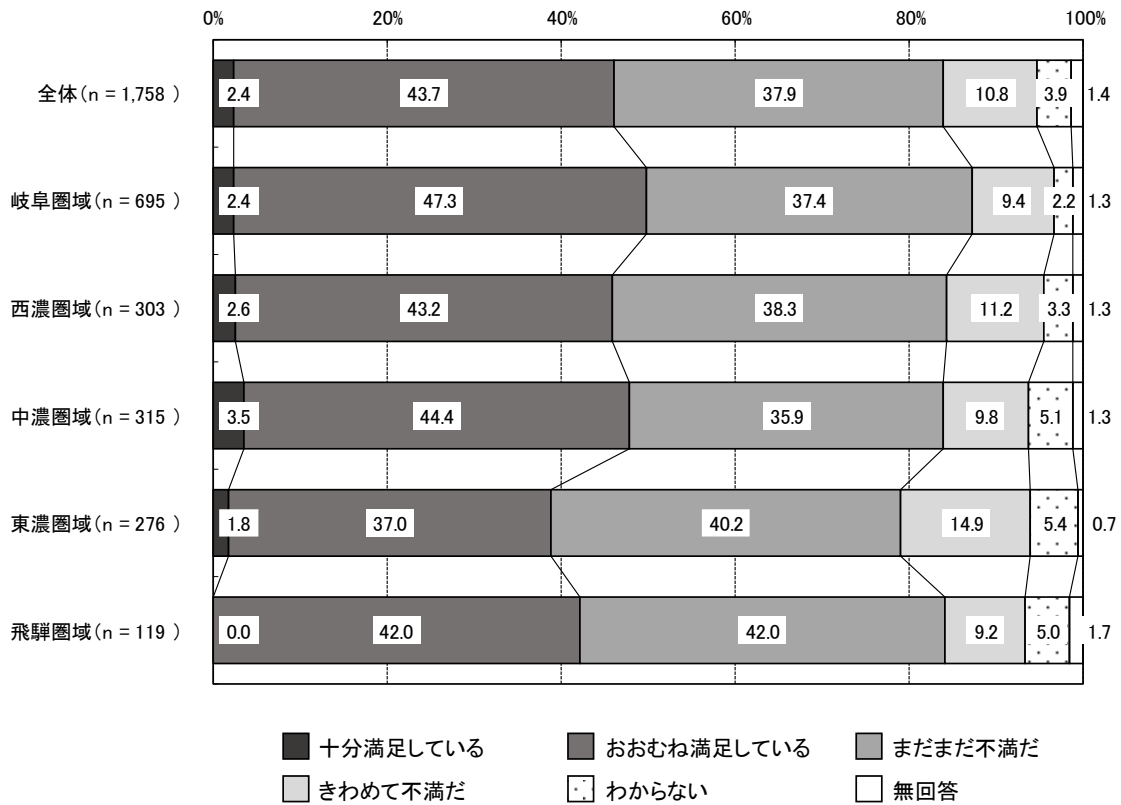
年代別（図 2-5）で見ると、20 歳代、30 歳代、40 歳代では「まだまだ不満だ」が最も高くなっており、50 歳代、60 歳代、70 歳以上では「おおむね満足している」が最も高くなっている。

図 2-5 【年代別】くらしの満足度



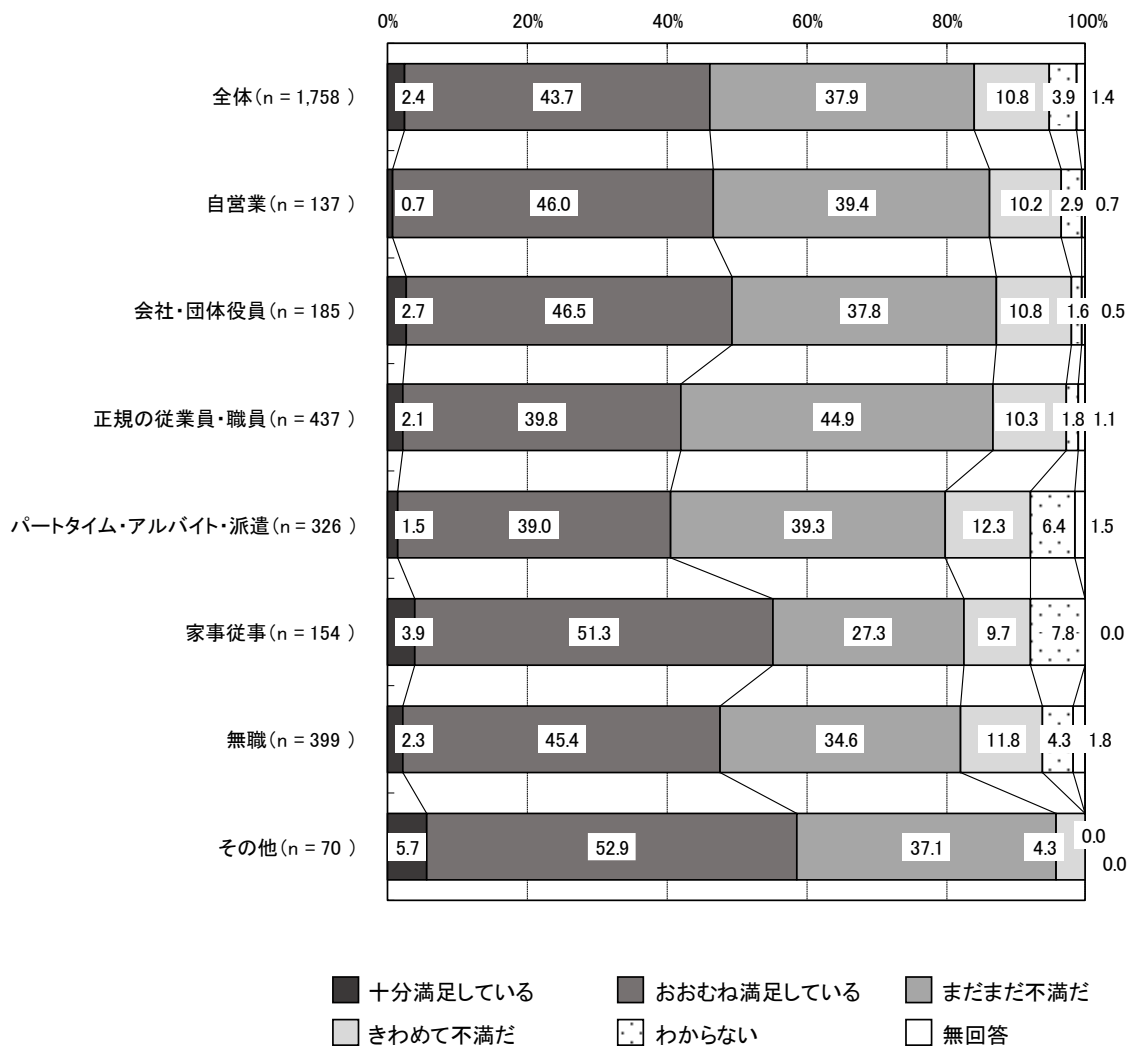
居住圏域別（図 2-6）でみると、岐阜圏域、西濃圏域、中濃圏域では「おおむね満足している」が最も高くなっており、東濃圏域では「まだまだ不満だ」が最も高くなっている。また、飛騨圏域では「おおむね満足している」「まだまだ不満だ」がともに 42.0%となっている。

図 2-6 【居住圏域別】 暮らしの満足度



職業別（図 2-7）で見ると、自営業、会社・団体役員、家事従事、無職、その他では「おおむね満足している」が最も高く、正規の従業員・職員、パートタイム・アルバイト・派遣では「まだまだ不満だ」が最も高くなっている。

図 2-7 【職業別】 暮らしの満足度



※ その他には、自由業、学生を含む。

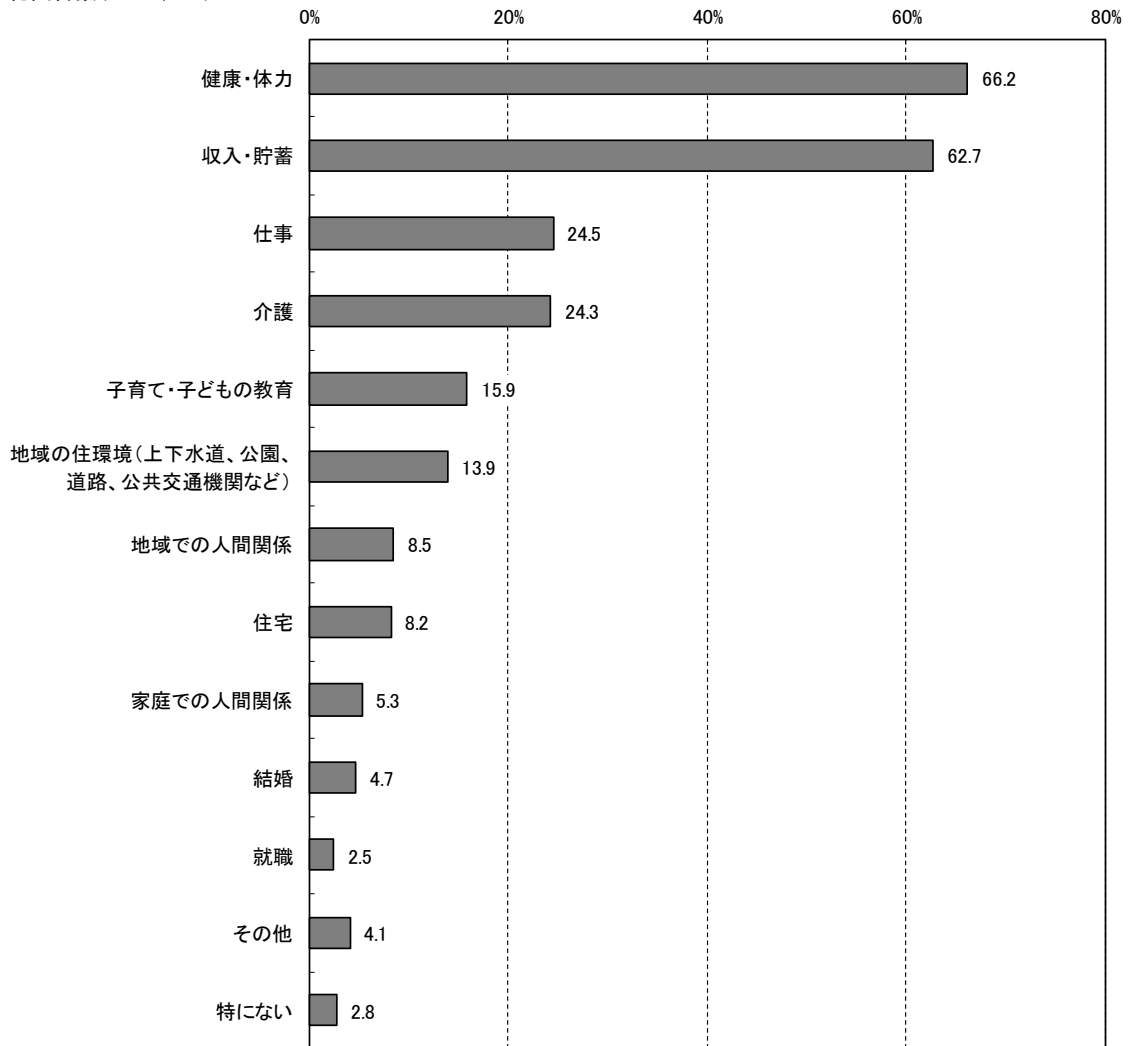
問3 生活面での不安

問3 あなたは、日頃の暮らしの中で、どのようなことに悩みや不安を感じていますか。
(3つまで)

全体(図3-1)で見ると、「健康・体力」が66.2%と最も高く、次いで「収入・貯蓄」(62.7%)、「仕事」(24.5%)の順となっている。

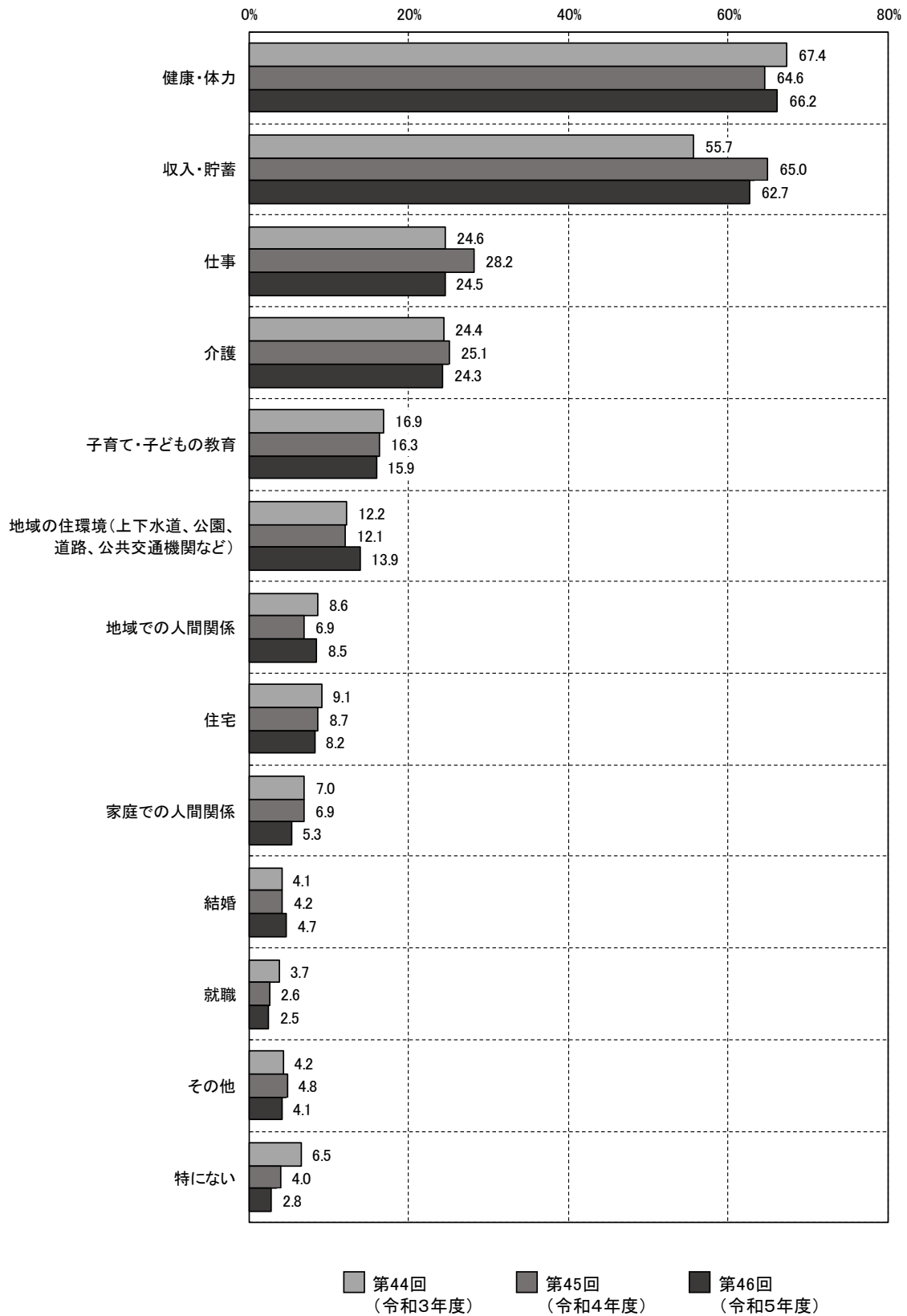
図3-1 生活面での不安

回答者数(n = 1,758)
総回答数(N = 4,304)



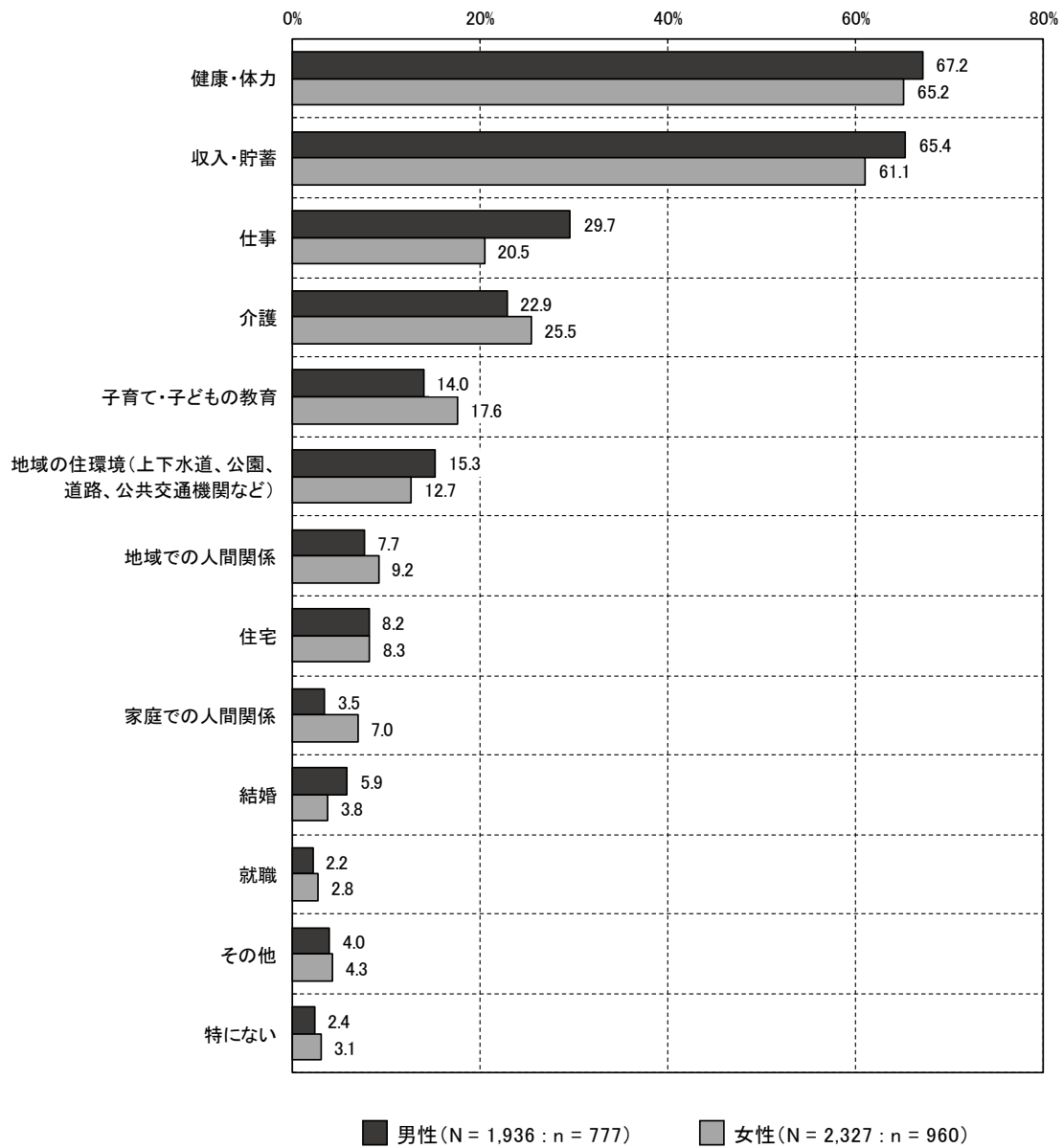
前々回・前回比較（図 3-2）でみると、「健康・体力」と「収入・貯蓄」の順が入れ替わり、「収入・貯蓄」が前回に比べて2.3ポイント減少している。

図 3-2 【前々回・前回比較】生活面での不安



性別（図 3-3）で見ると、男女ともに「健康・体力」が最も高く、次いで「収入・貯蓄」の順となっている。「仕事」では男性が女性より 9.2 ポイント高くなっている。

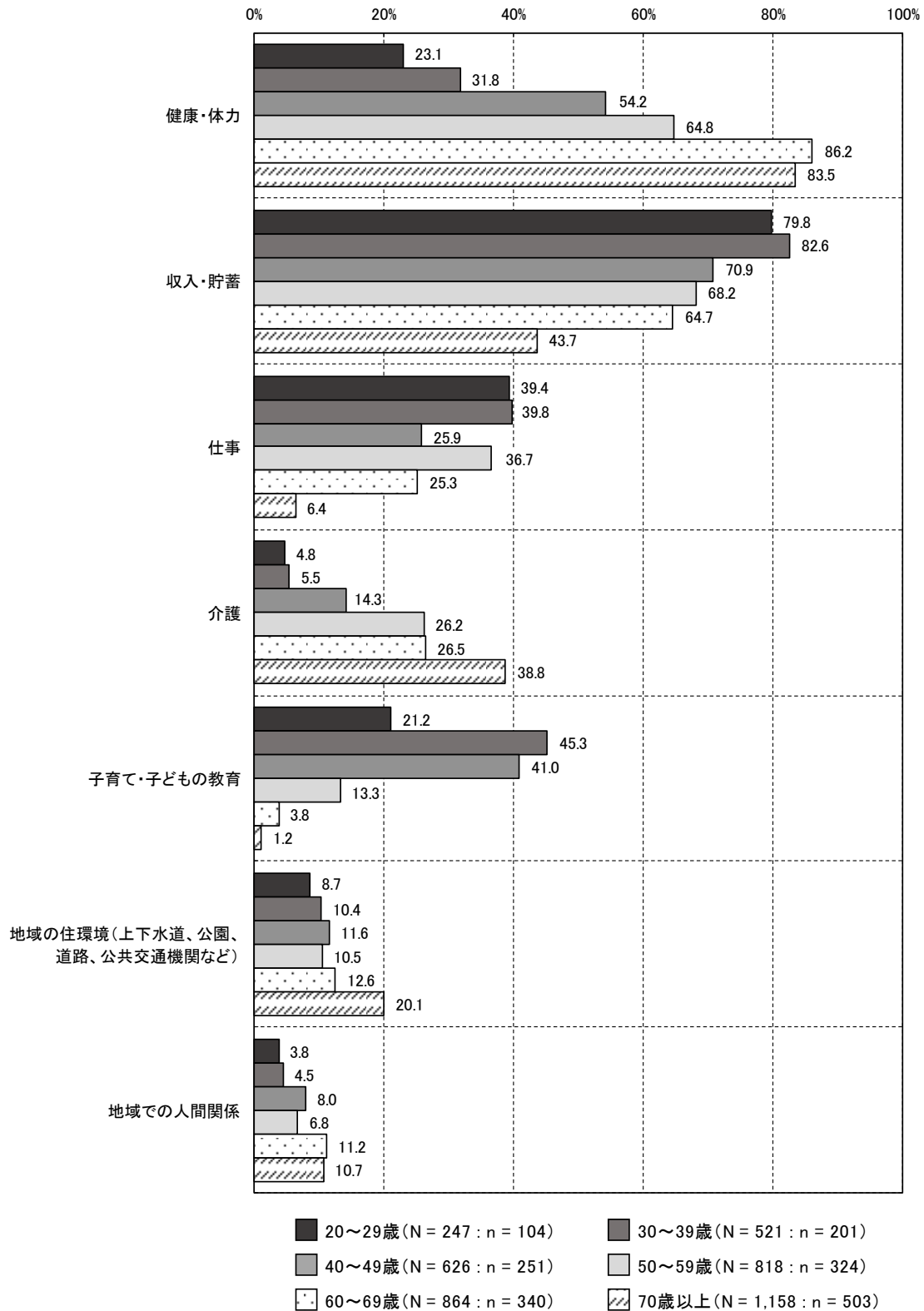
図 3-3 【性別】生活面での不安



※ N=総回答数 n=回答者数

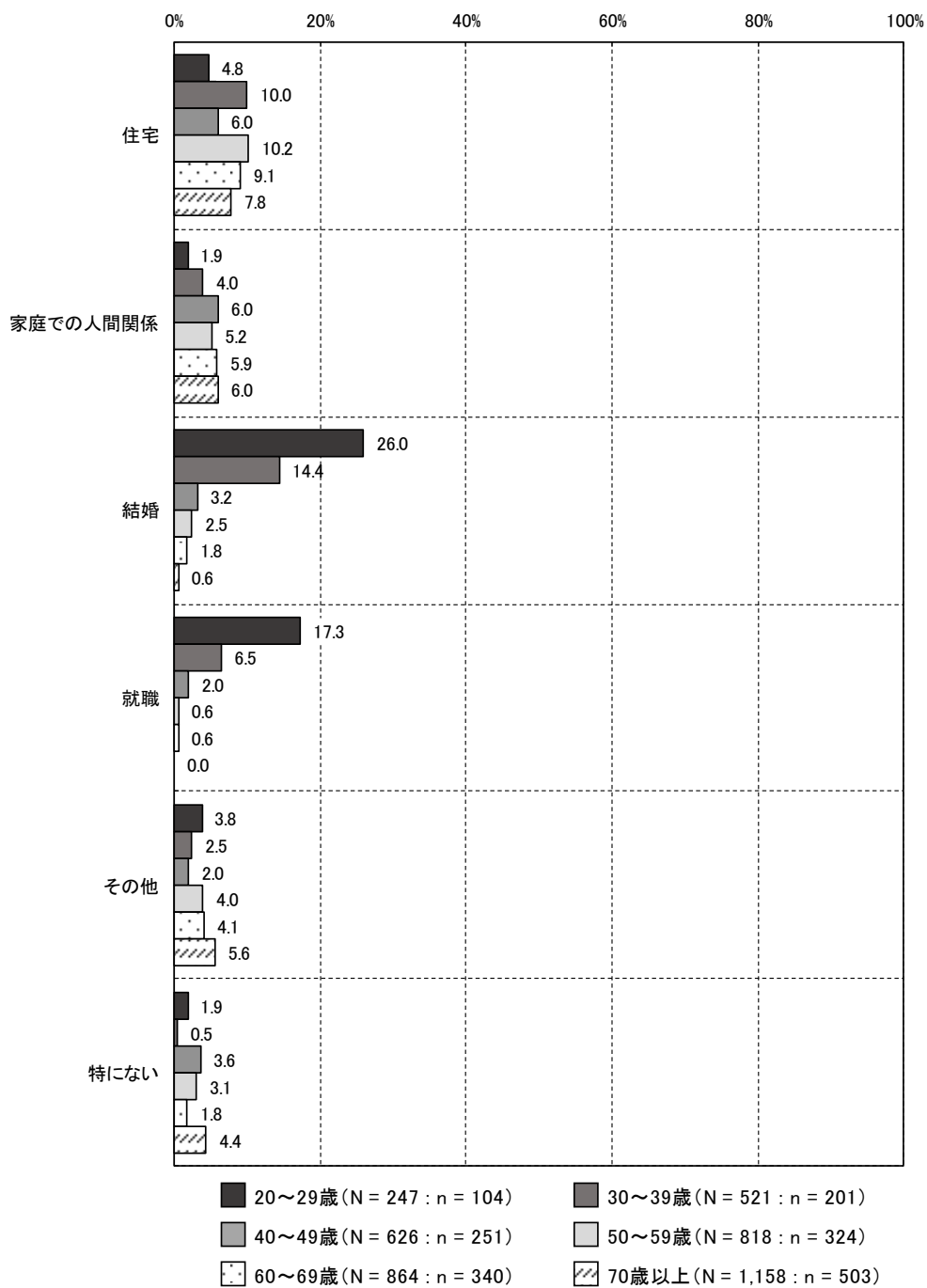
年代別（図 3-4）で見ると、20 歳代、30 歳代、40 歳代、50 歳代では「収入・貯蓄」が、60 歳代、70 歳以上では「健康・体力」が最も高くなっている。20 歳代では「結婚」「就職」、30 歳代、40 歳代では「子育て・子どもの教育」が他の年代に比べて高くなっている。

図 3-4 【年代別】生活面での不安



※ N=総回答数 n=回答者数

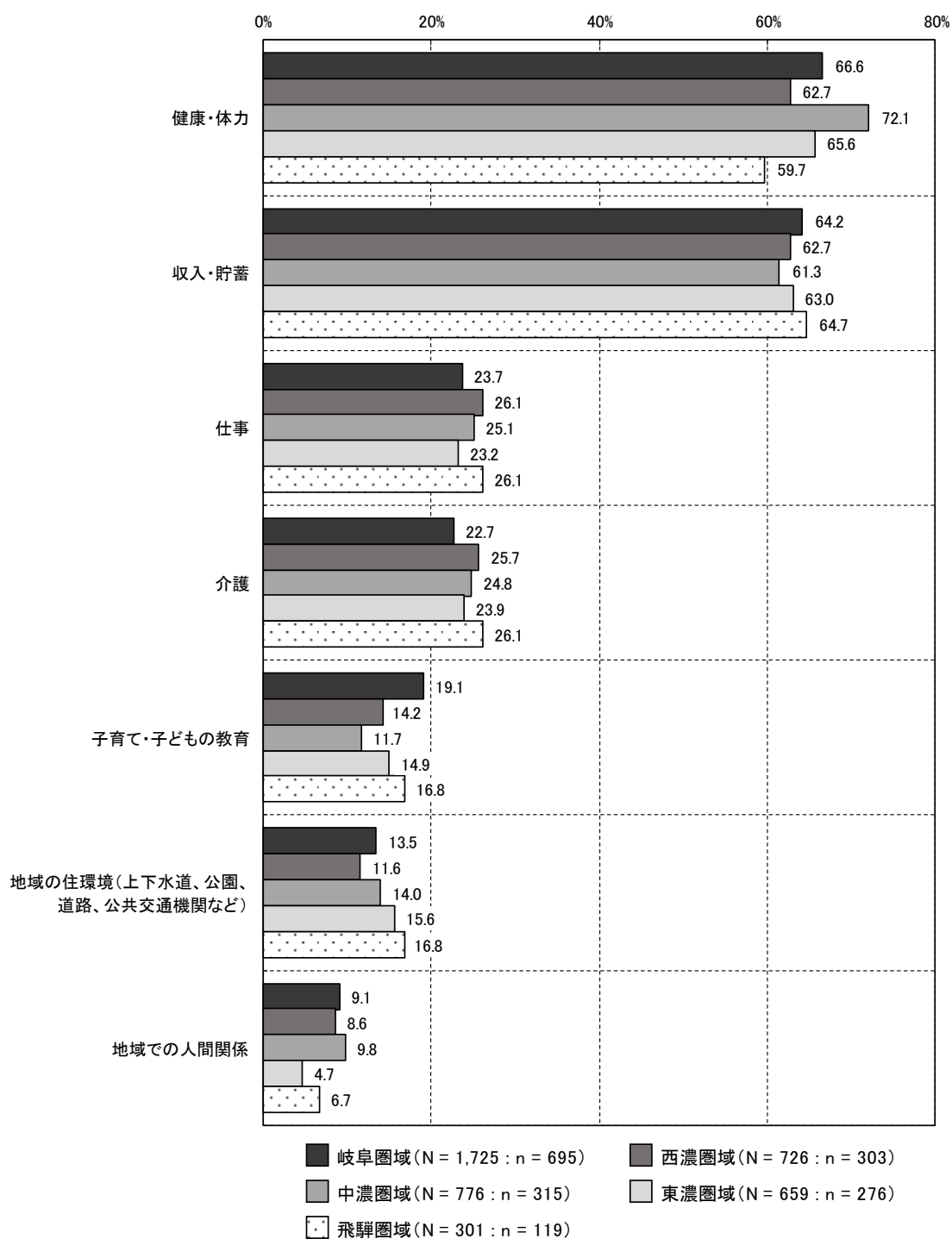
図 3-4 【年代別】生活面での不安（続き）



※ N=総回答数 n=回答者数

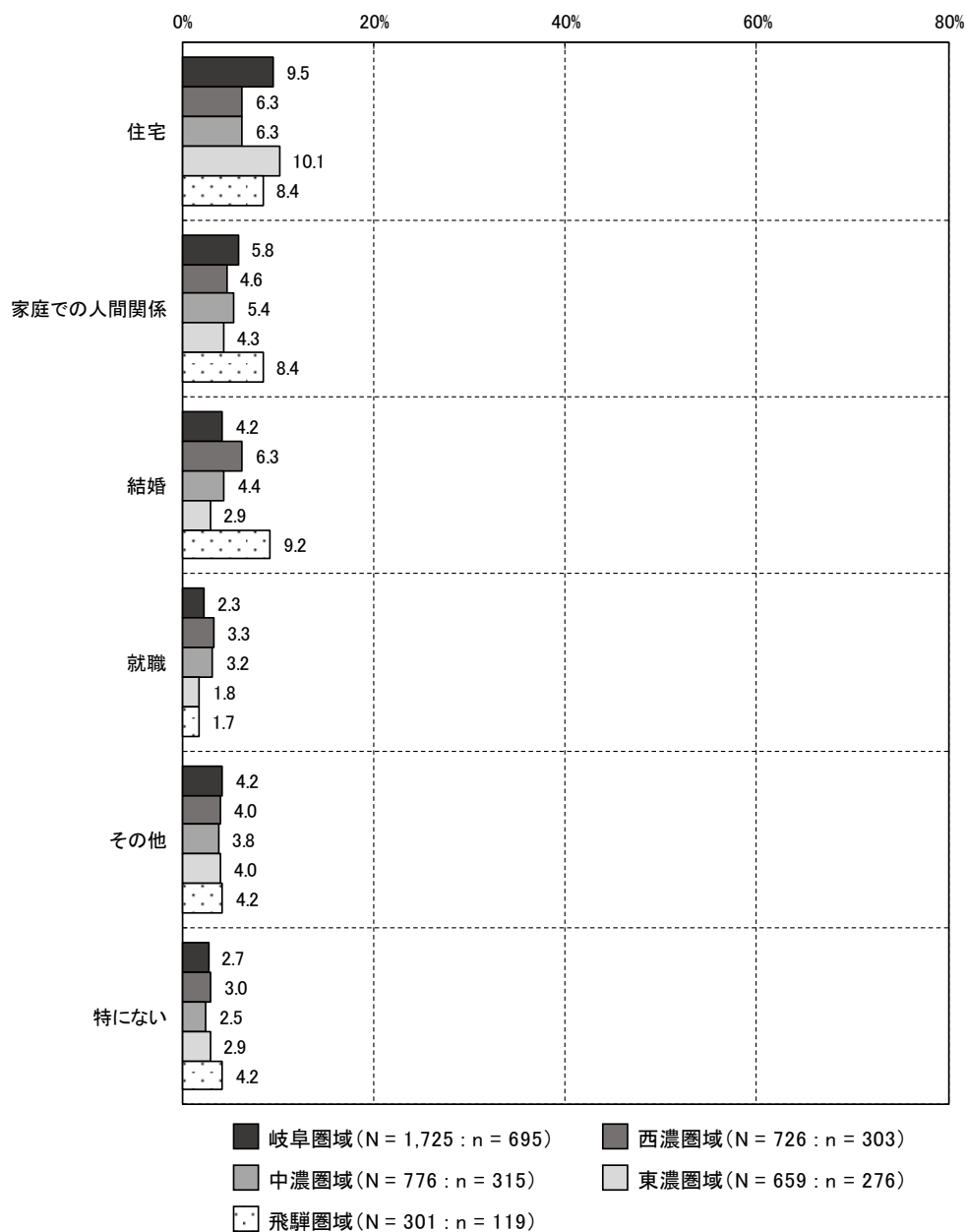
居住圏域別（図 3-5）で見ると、飛驒圏域を除くいずれの居住圏域においても「健康・体力」が最も高くなっており、飛驒圏域では「収入・貯蓄」が最も高くなっている。また、西濃圏域では「健康・体力」「収入・貯蓄」がともに62.7%となっている。

図 3-5 【居住圏域別】生活面での不安



※ N=総回答数 n=回答者数

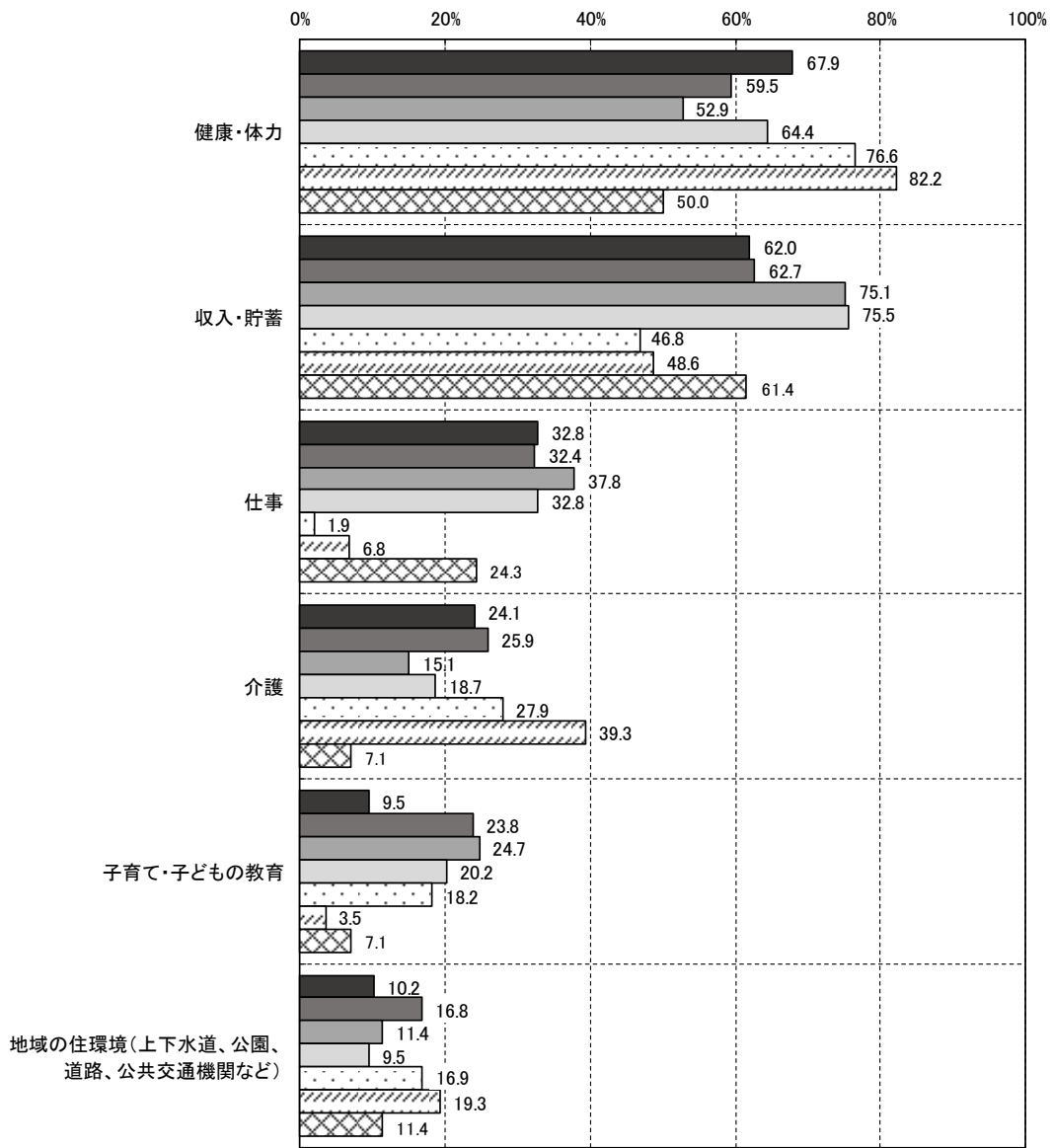
図 3-5 【居住圏域別】生活面での不安（続き）



※ N=総回答数 n=回答者数

職業別（図3-6）で見ると、会社・団体役員、正規の従業員・職員、パートタイム・アルバイト・派遣、その他では「収入・貯蓄」、自営業、家事従事、無職では「健康・体力」が最も高くなっている。

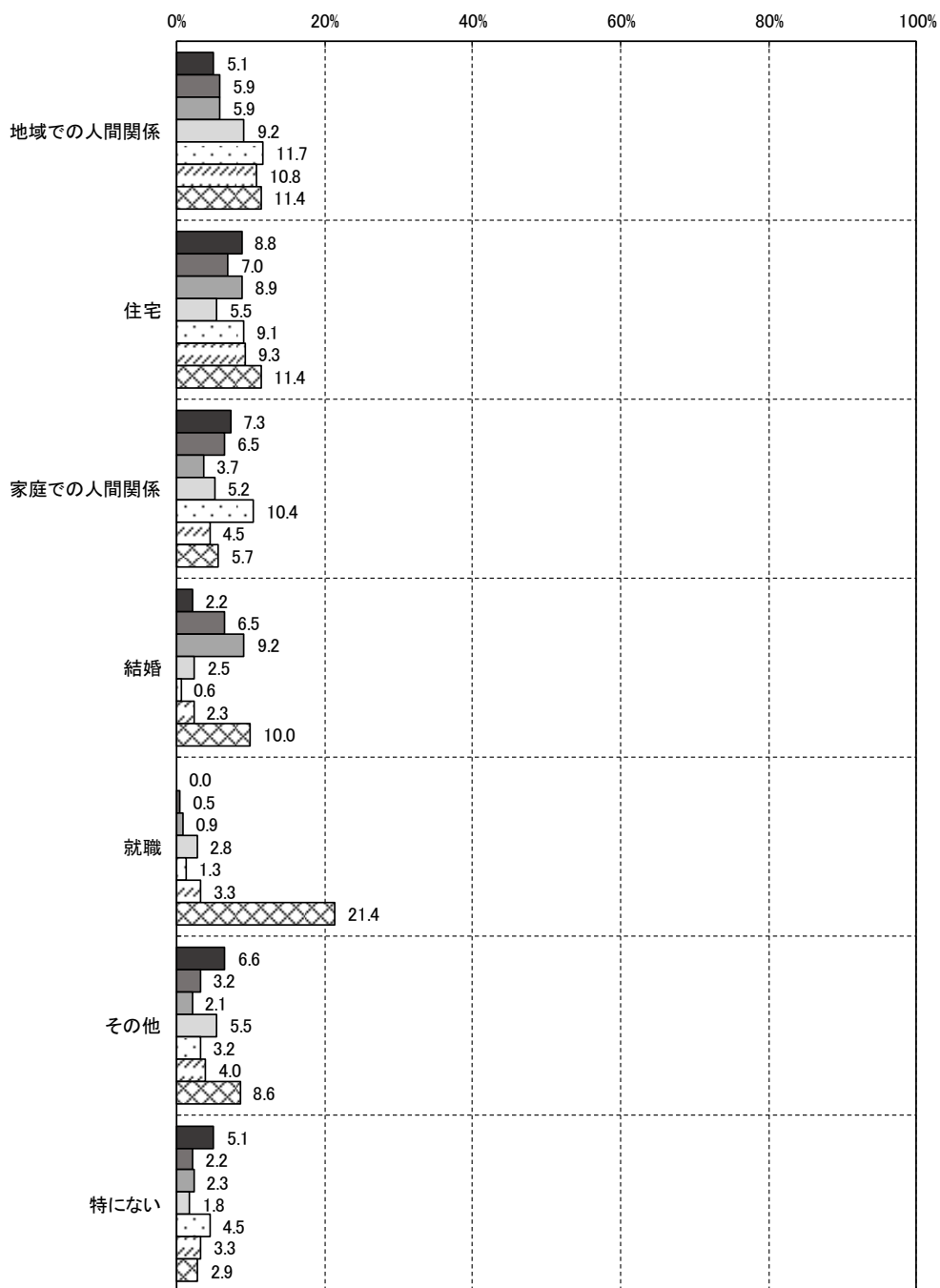
図3-6 【職業別】生活面での不安



- 自営業 (N = 334 : n = 137)
- 会社・団体役員 (N = 470 : n = 185)
- 正規の従業員・職員 (N = 1,093 : n = 437)
- パートタイム・アルバイト・派遣 (N = 830 : n = 326)
- 家事従事 (N = 354 : n = 154)
- 無職 (N = 951 : n = 399)
- その他 (N = 163 : n = 70)

※ その他には、自由業、学生を含む。
 ※ N=総回答数 n=回答者数

図 3-6 【職業別】生活面での不安（続き）



- 自営業 (N = 334 : n = 137)
- 会社・団体役員 (N = 470 : n = 185)
- 正規の従業員・職員 (N = 1,093 : n = 437)
- パートタイム・アルバイト・派遣 (N = 830 : n = 326)
- 家事従事 (N = 354 : n = 154)
- 無職 (N = 951 : n = 399)
- その他 (N = 163 : n = 70)

※ その他には、自由業、学生を含む。
 ※ N=総回答数 n=回答者数

問4 今後の暮らしの中で重視していきたいこと

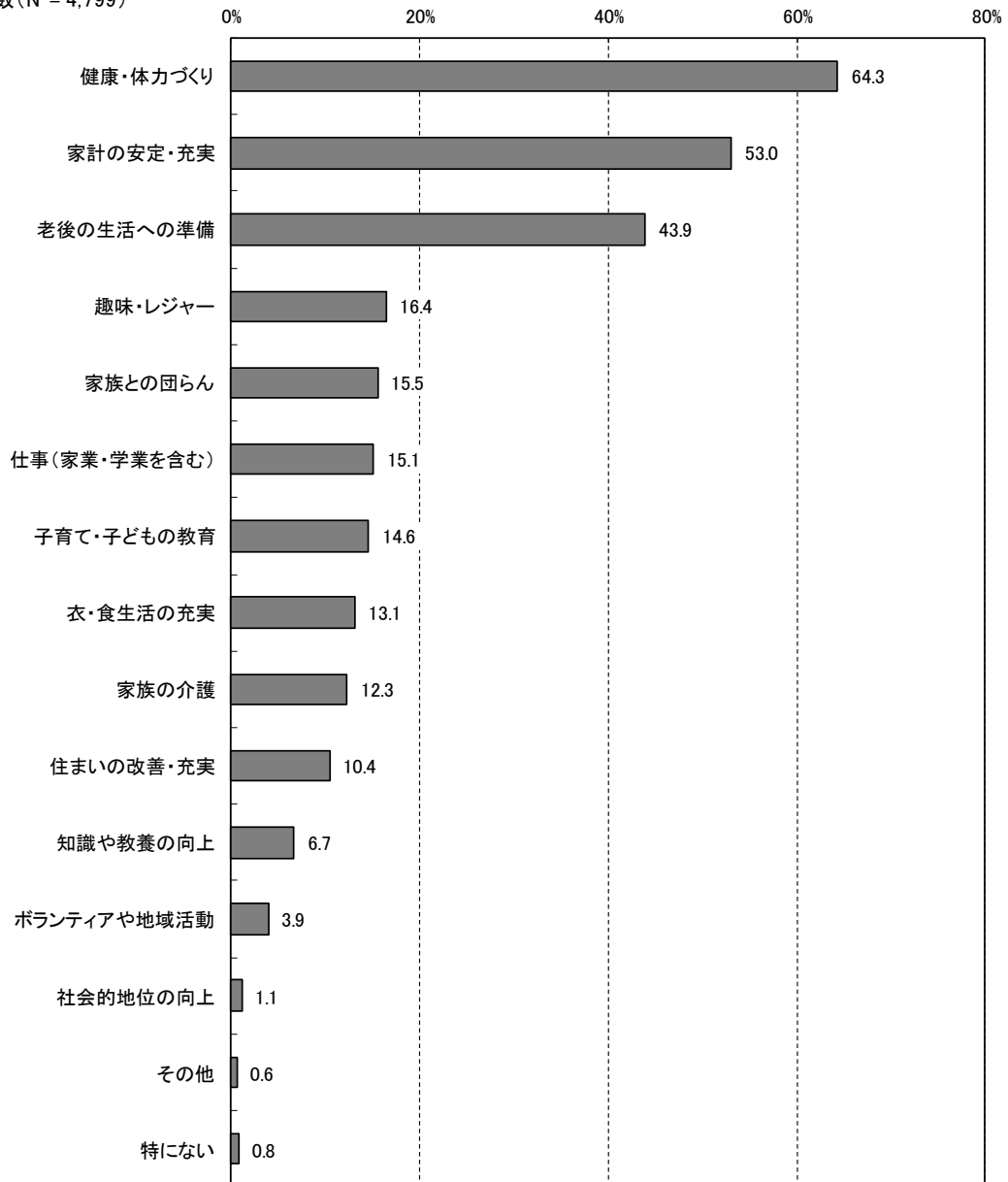
問4 あなたが、今後の暮らしの中で重視していきたいと思うことは何ですか。
(3つまで)

全体(図4-1)で見ると、「健康・体力づくり」が64.3%と最も高く、次いで「家計の安定・充実」(53.0%)、「老後の生活への準備」(43.9%)の順となっている。

図4-1 今後の暮らしの中で重視していきたいこと

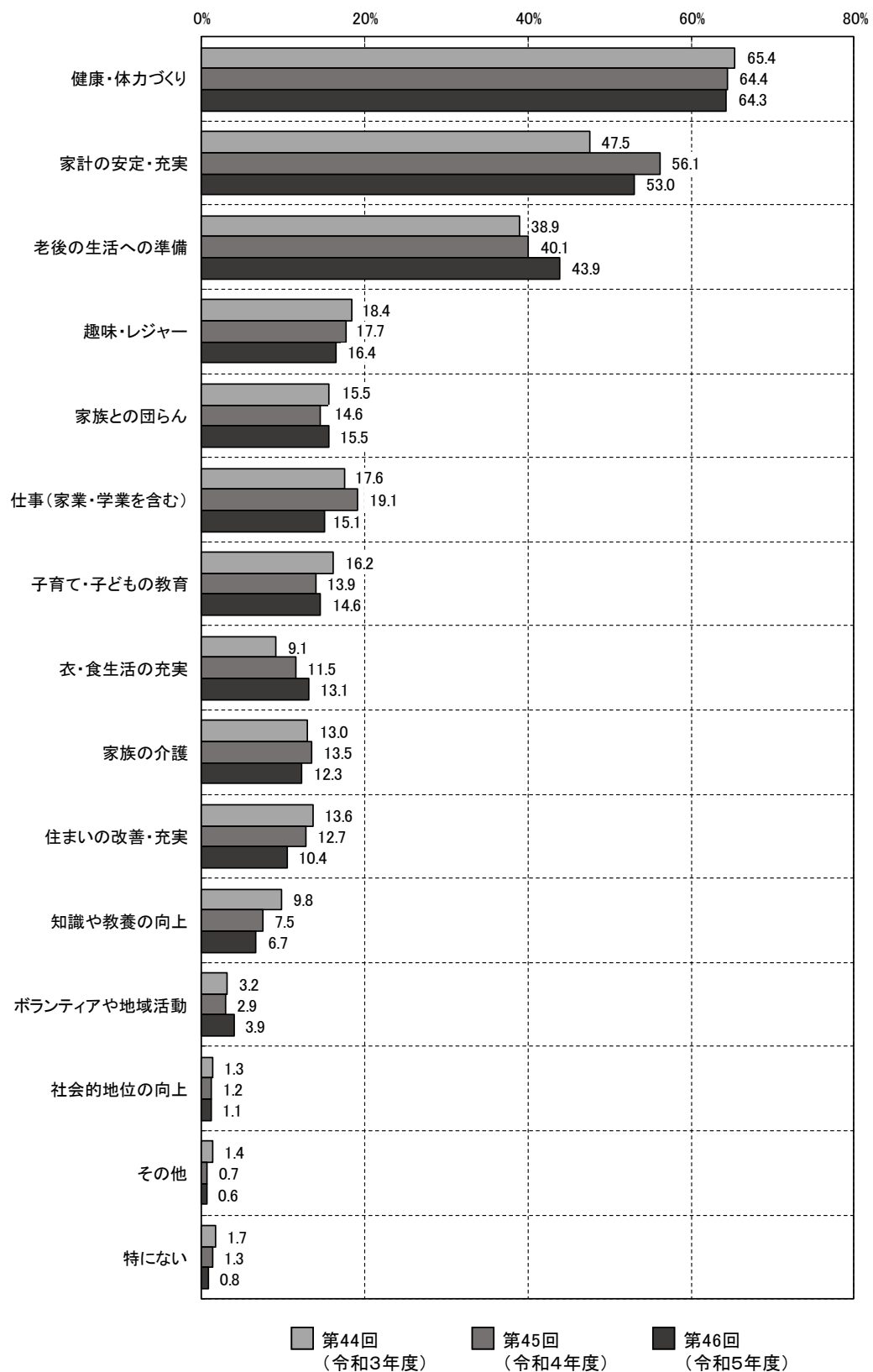
回答者数(n = 1,758)

総回答数(N = 4,799)



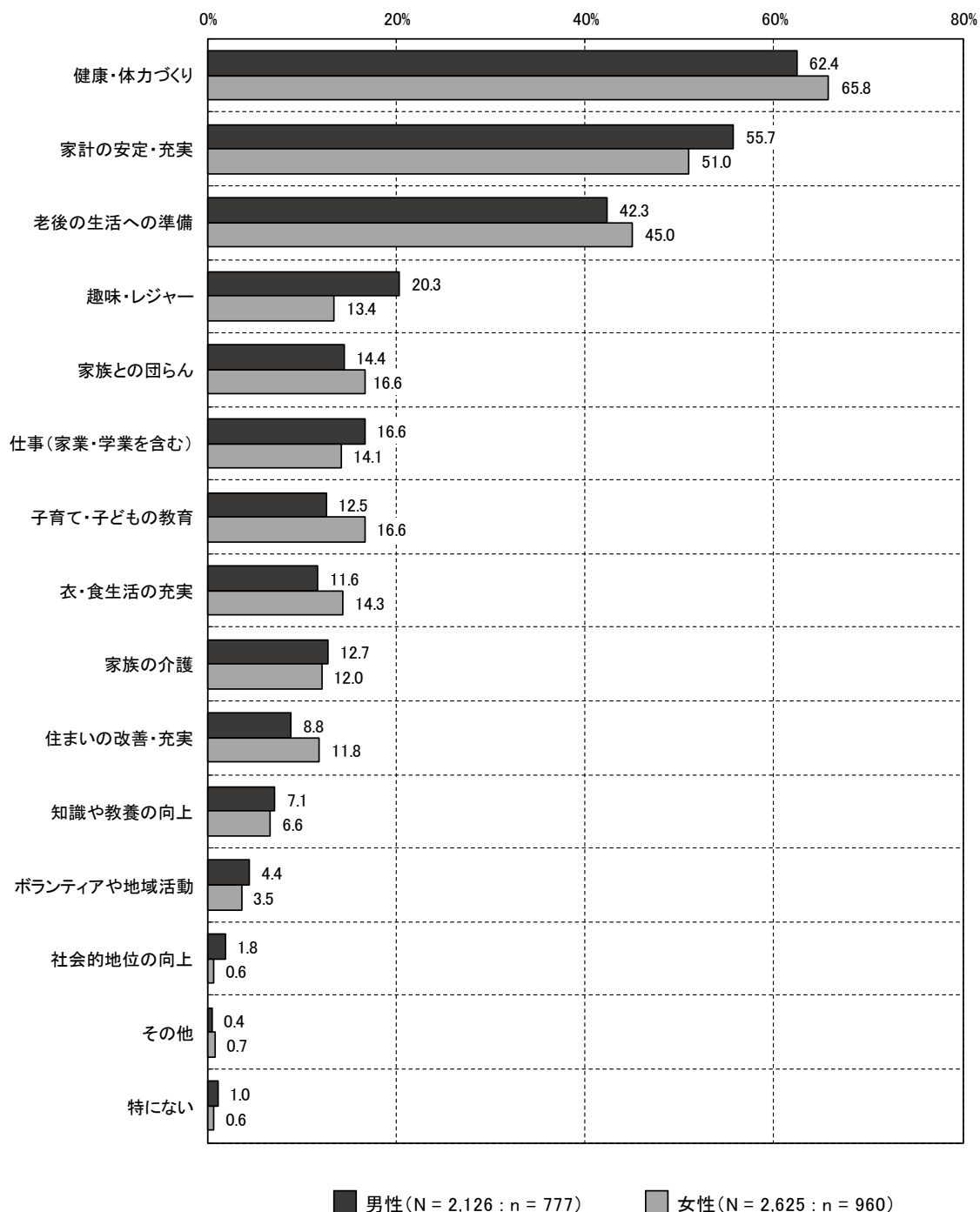
前々回・前回比較（図 4-2）で見ると、前々回・前回・今回と一貫して「健康・体力づくり」が最も高く、次いで「家計の安定・充実」、「老後の生活への準備」の順となっている。

図 4-2 【前々回・前回比較】 今後の暮らしの中で重視していきたいこと



性別（図 4-3）で見ると、男女ともに「健康・体力づくり」が最も高く、次いで「家計の安定・充実」、「老後の生活への準備」の順となっている。「趣味・レジャー」では男性が女性より 6.9 ポイント、「子育て・子どもの教育」では女性が男性より 4.1 ポイント高くなっている。

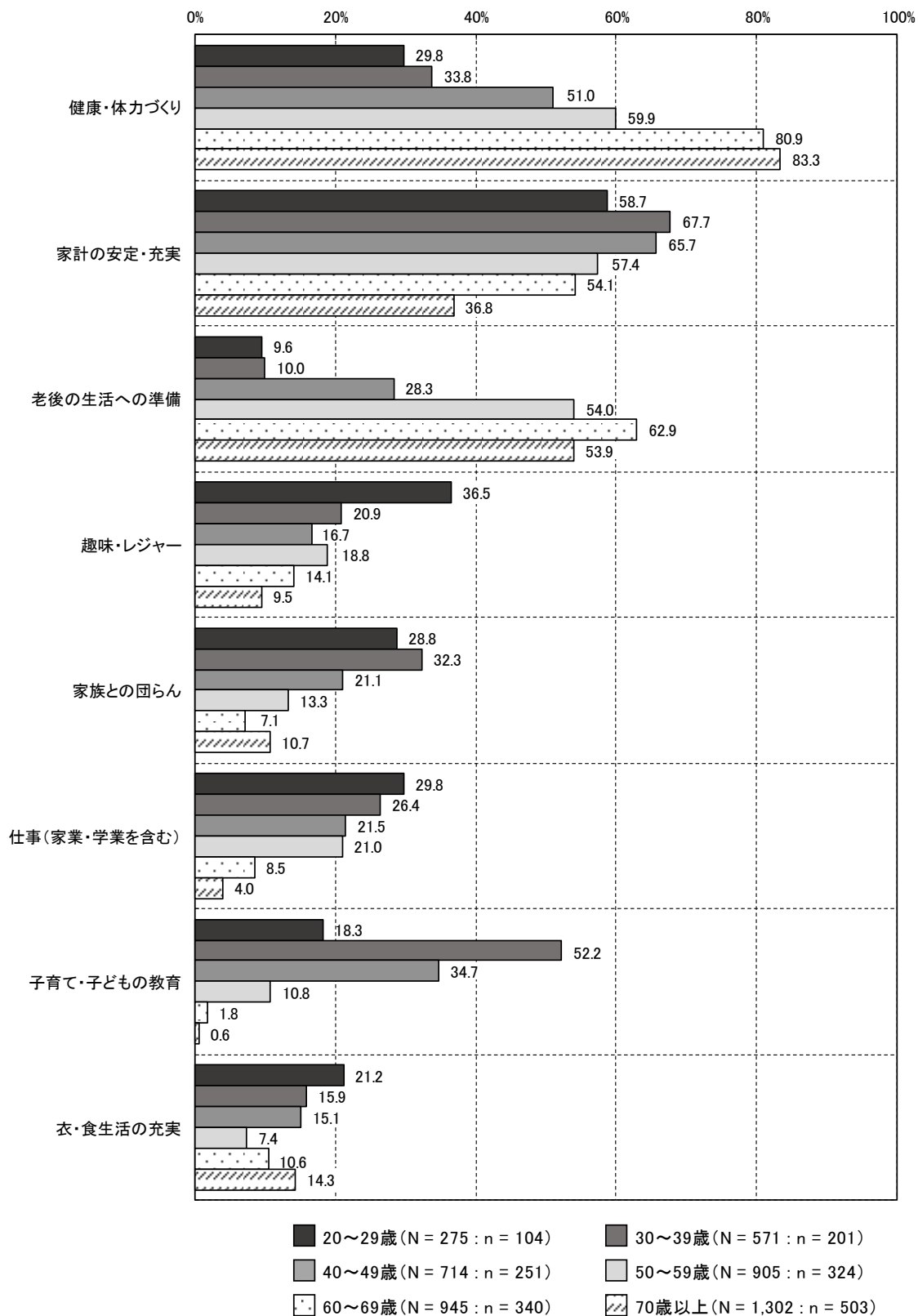
図 4-3 【性別】 今後の暮らしの中で重視していきたいこと



※ N=総回答数 n=回答者数

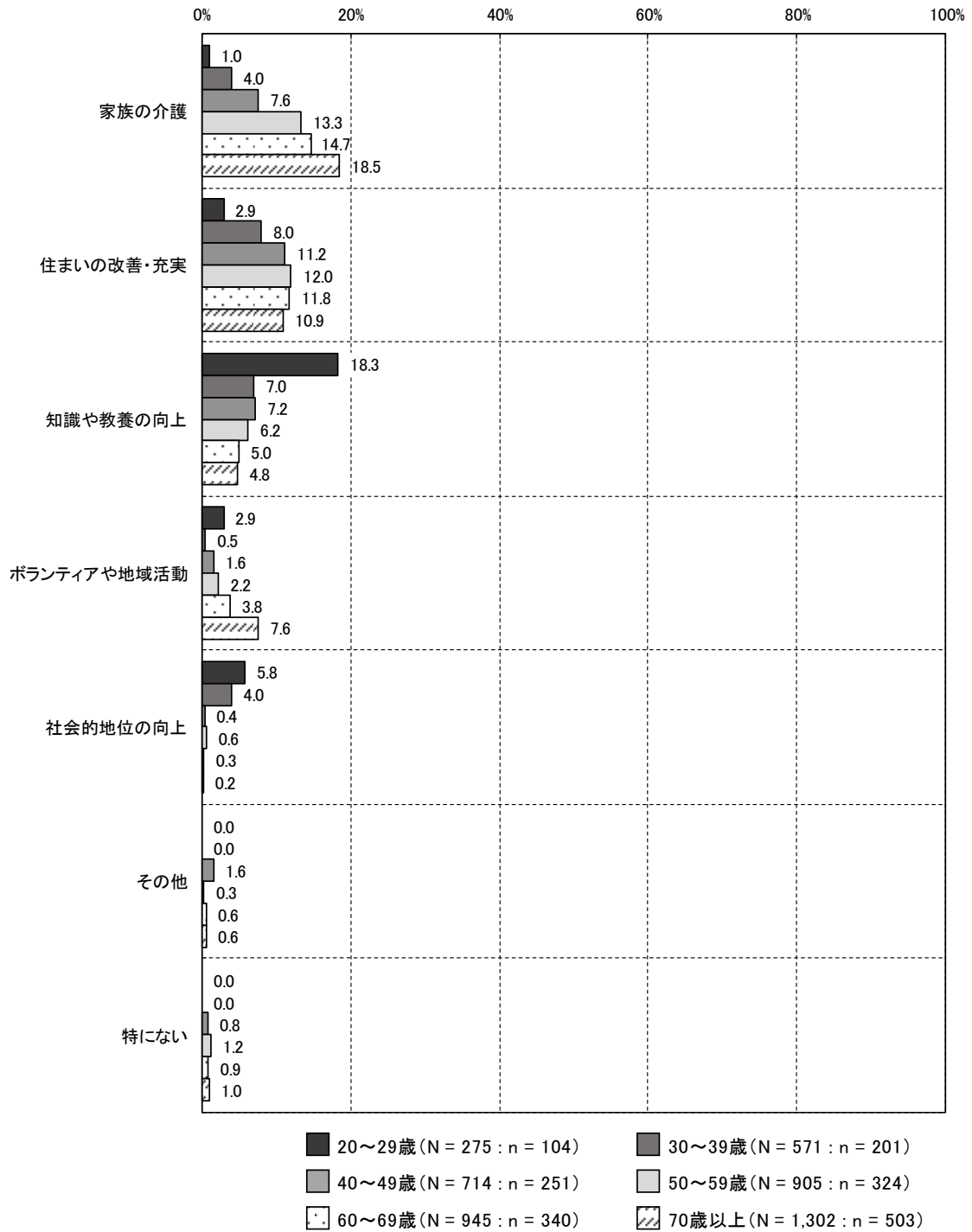
年代別（図4-4）で見ると、20歳代、30歳代、40歳代では「家計の安定・充実」が最も高く、50歳代、60歳代、70歳以上では「健康・体力づくり」が最も高くなっている。20歳代では「趣味・レジャー」、「知識や教養の向上」、30歳代では「子育て・子どもの教育」、60歳代では「老後の生活への準備」が他の年代に比べて高くなっている。

図4-4 【年代別】 今後の暮らしの中で重視していきたいこと



※ N=総回答数 n=回答者数

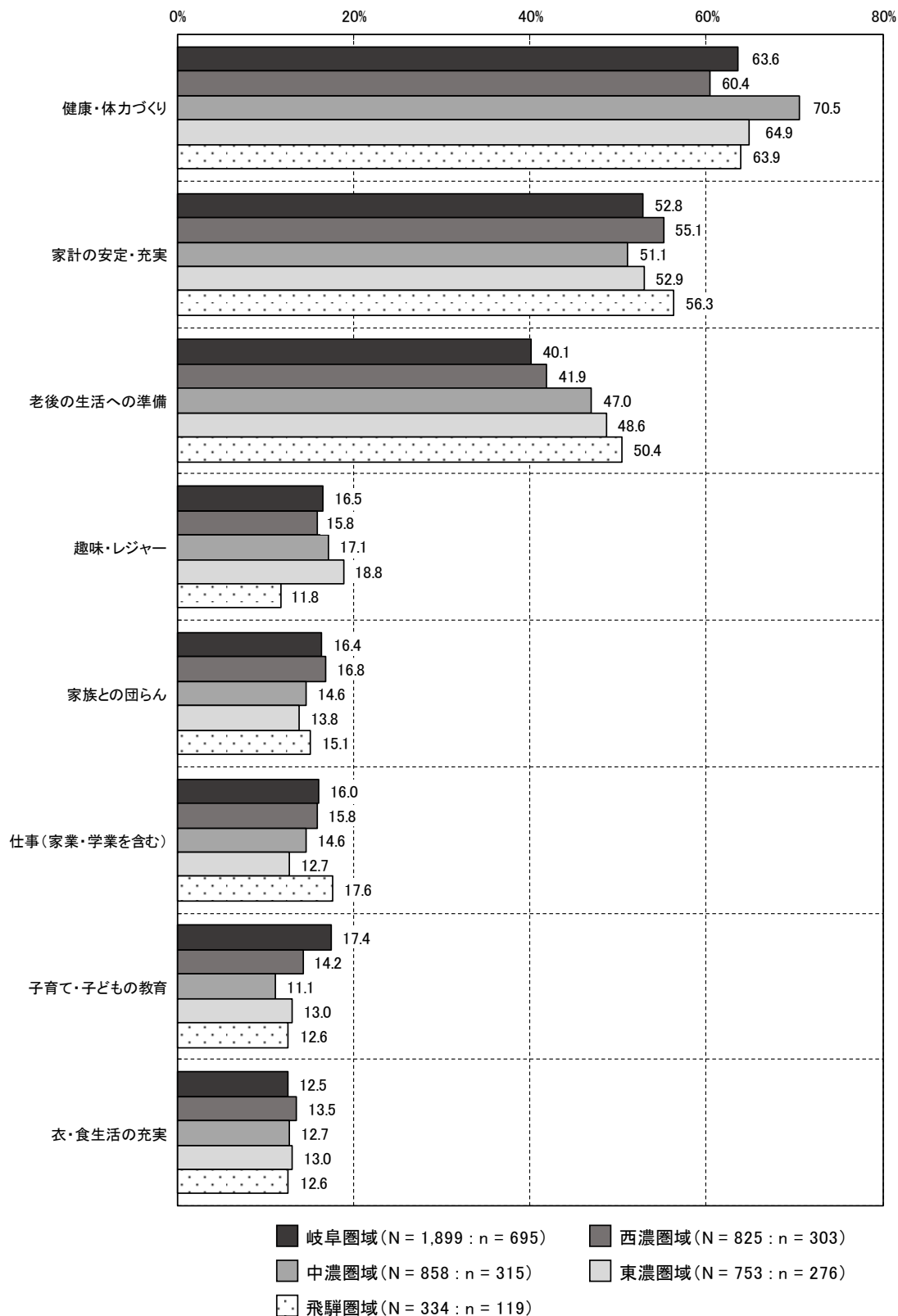
図 4-4 【年代別】 今後の暮らしの中で重視していきたいこと（続き）



※ N=総回答数 n=回答者数

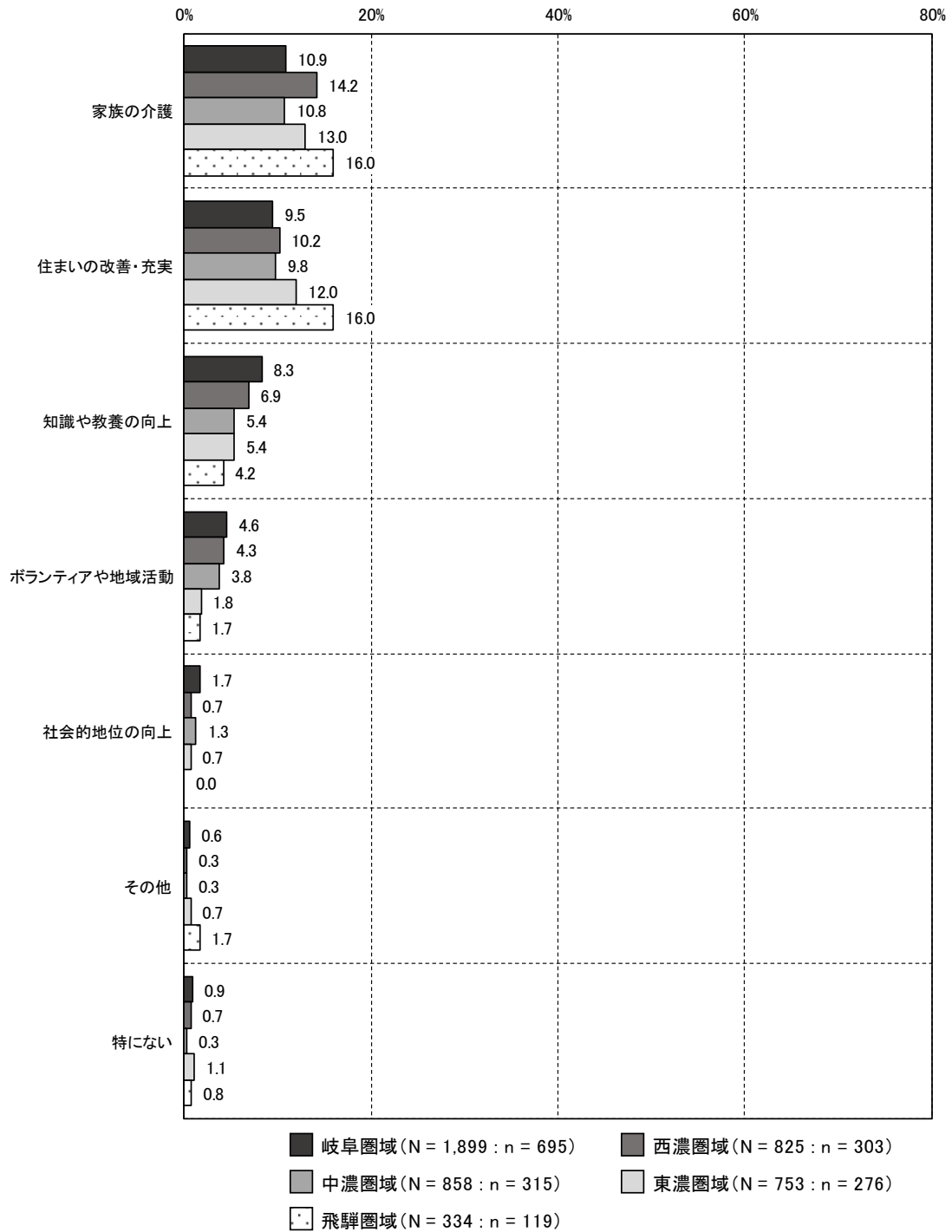
居住圏域別（図 4-5）で見ると、いずれの居住圏域においても「健康・体力づくり」が最も高くなっている。

図 4-5 【居住圏域別】 今後の暮らしの中で重視していきたいこと



※ N=総回答数 n=回答者数

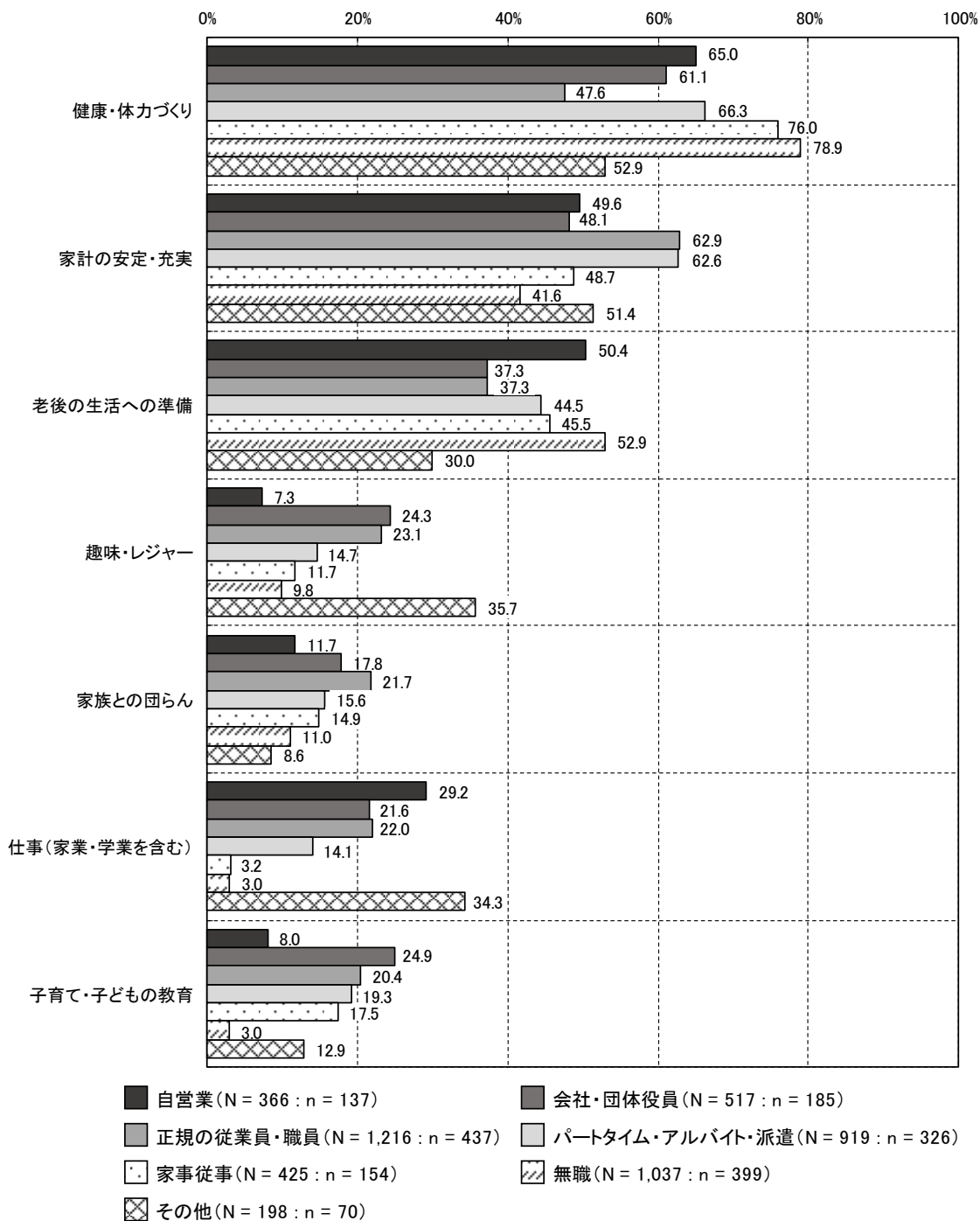
図 4-5 【居住圏域別】 今後の暮らしの中で重視していきたいこと（続き）



※ N=総回答数 n=回答者数

職業別（図 4-6）でみると、正規の従業員・職員を除くいずれの職業においても「健康・体力づくり」が最も高く、そのうち無職が 78.9%と最も高くなっている。正規の従業員・職員では「家計の安定・充実」が最も高くなっている。

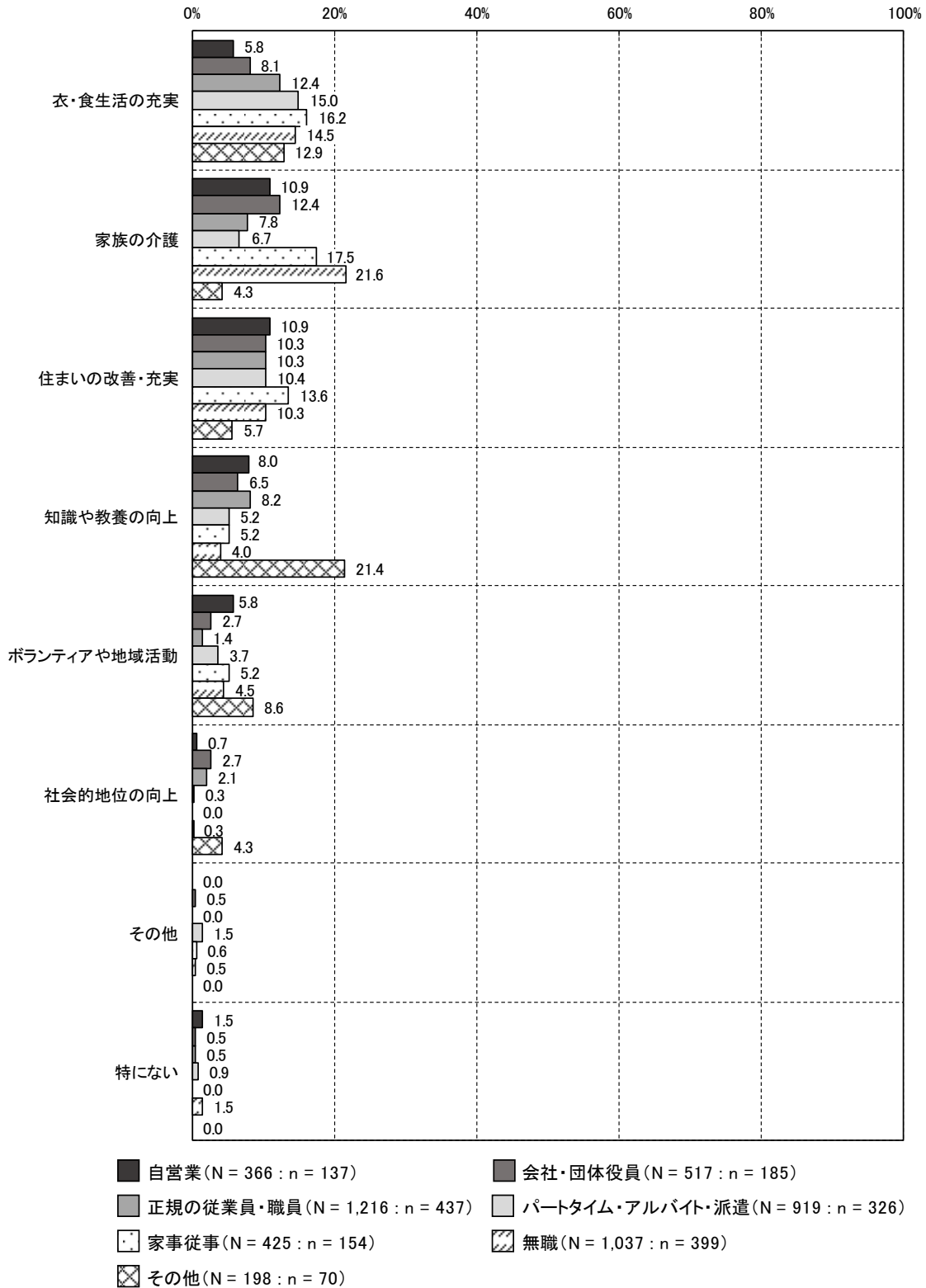
図 4-6 【職業別】 今後の暮らしの中で重視していきたいこと



※ その他には、自由業、学生を含む。

※ N=総回答数 n=回答者数

図 4-6 【職業別】 今後の暮らしの中で重視していきたいこと（続き）



※ その他には、自由業、学生を含む。
 ※ N=総回答数 n=回答者数

問5 生活に必要な情報の入手媒体

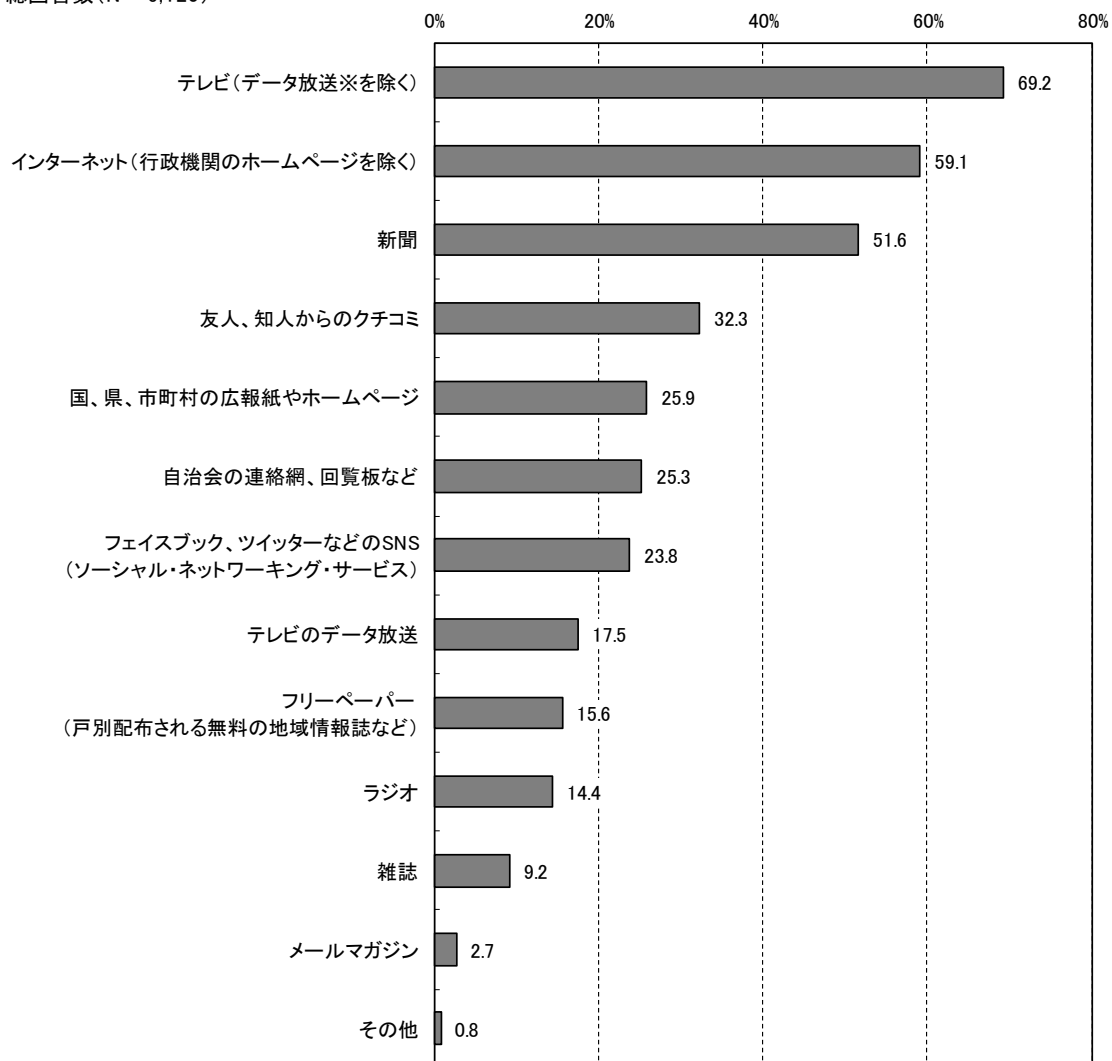
問5 あなたは、生活に必要な情報を何から得ていますか。(いくつでも)

全体(図5-1)で見ると、「テレビ(データ放送を除く)」が69.2%と最も高く、次いで「インターネット(行政機関のホームページを除く)」(59.1%)、「新聞」(51.6%)の順となっている。

図5-1 生活に必要な情報の入手媒体

回答者数(n = 1,758)

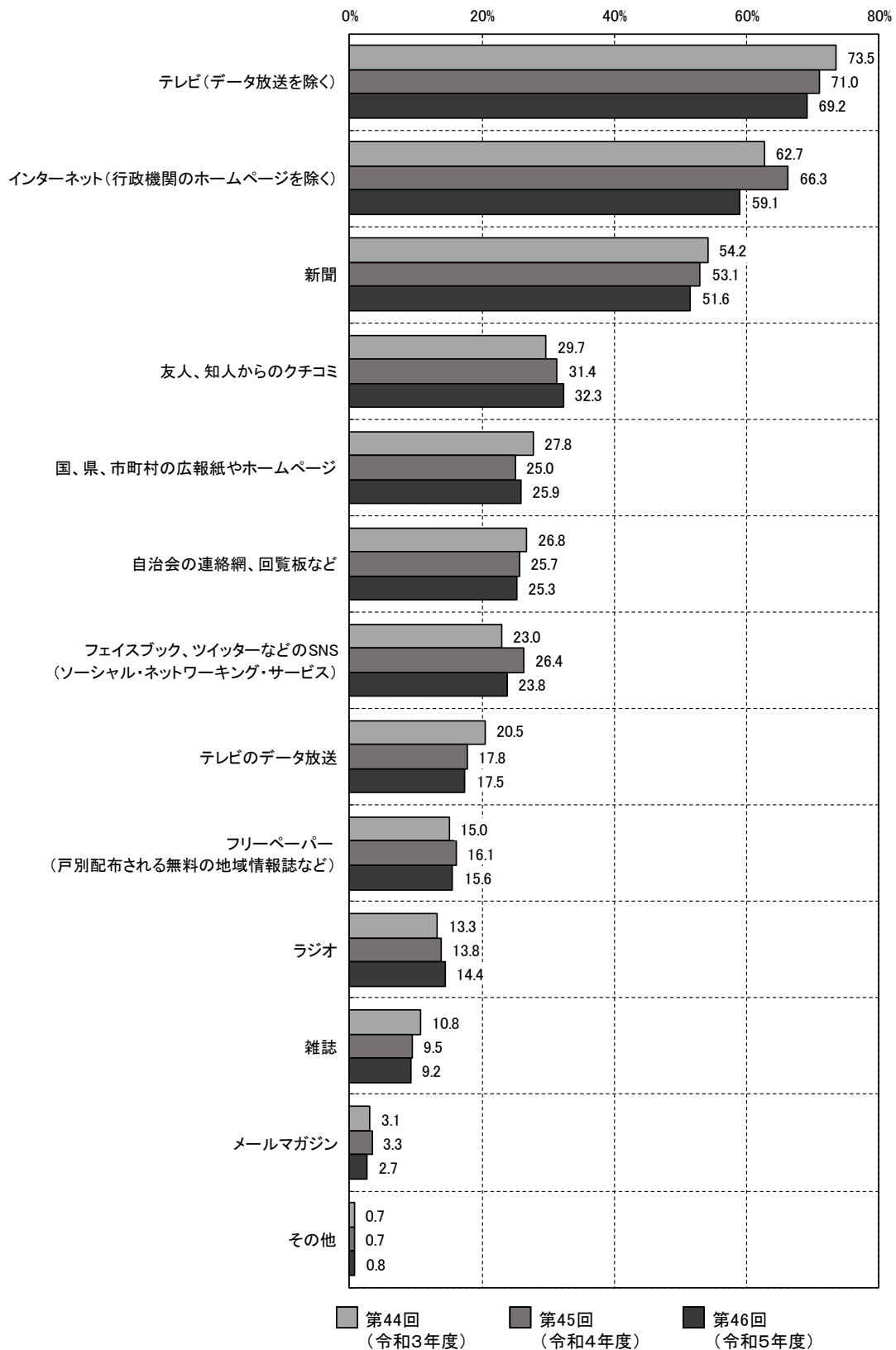
総回答数(N = 6,120)



※ データ放送: リモコンの「dボタン」を押すと天気やニュースなどの情報を入手できるサービス

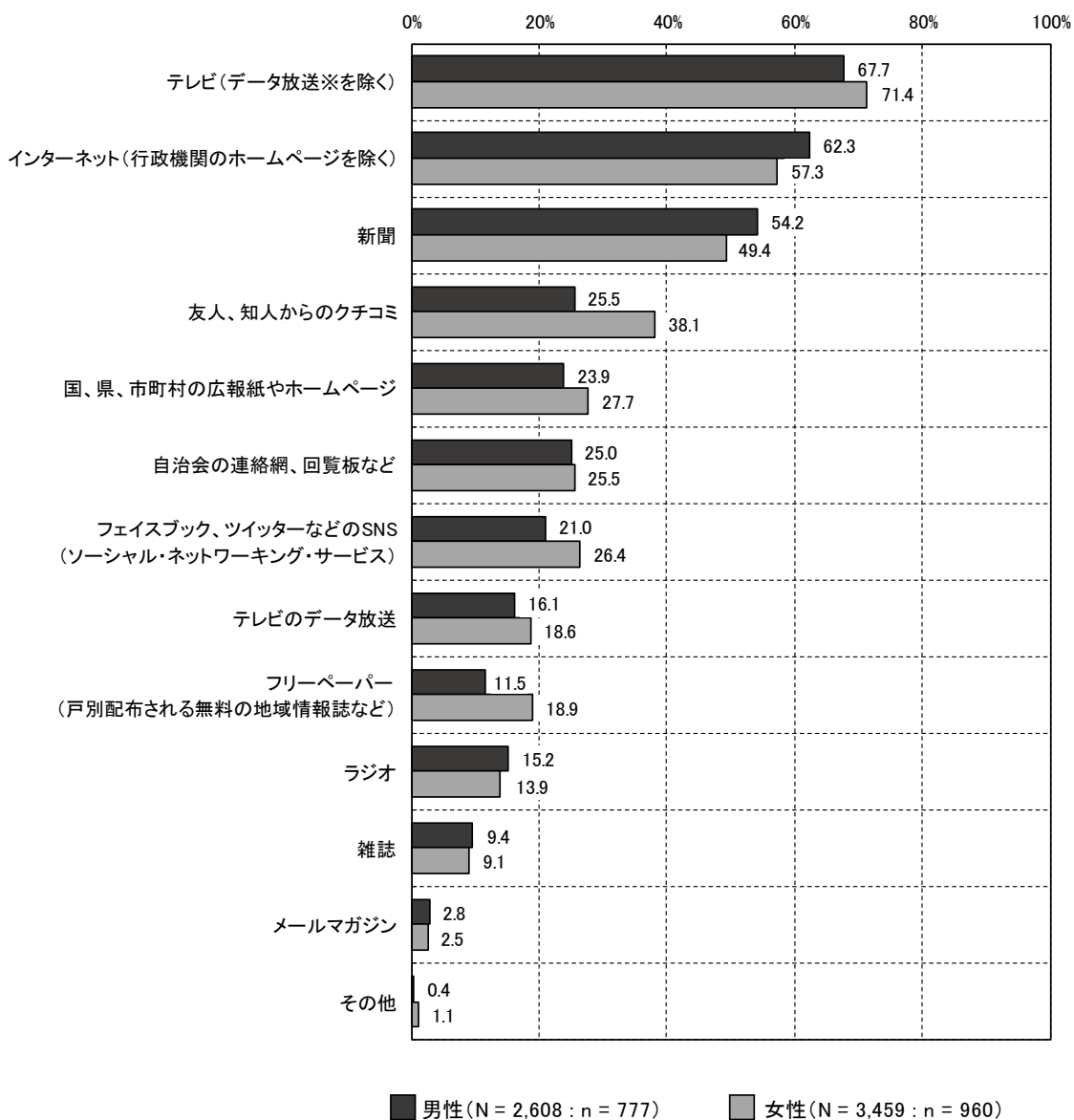
前々回・前回比較（図 5-2）で見ると、前々回・前回・今回と一貫して「テレビ（データ放送を除く）」が最も高くなっている。また、「テレビ（データ放送を除く）」、「新聞」が、年々低くなっている。

図 5-2 【前々回・前回比較】生活に必要な情報の入手媒体



性別（図 5-3）で見ると、男女ともに「テレビ（データ放送を除く）」が最も高く、次いで「インターネット（行政機関のホームページを除く）」、「新聞」の順となっている。また、「友人、知人からのクチコミ」では女性が男性より 12.6 ポイント高くなっている。

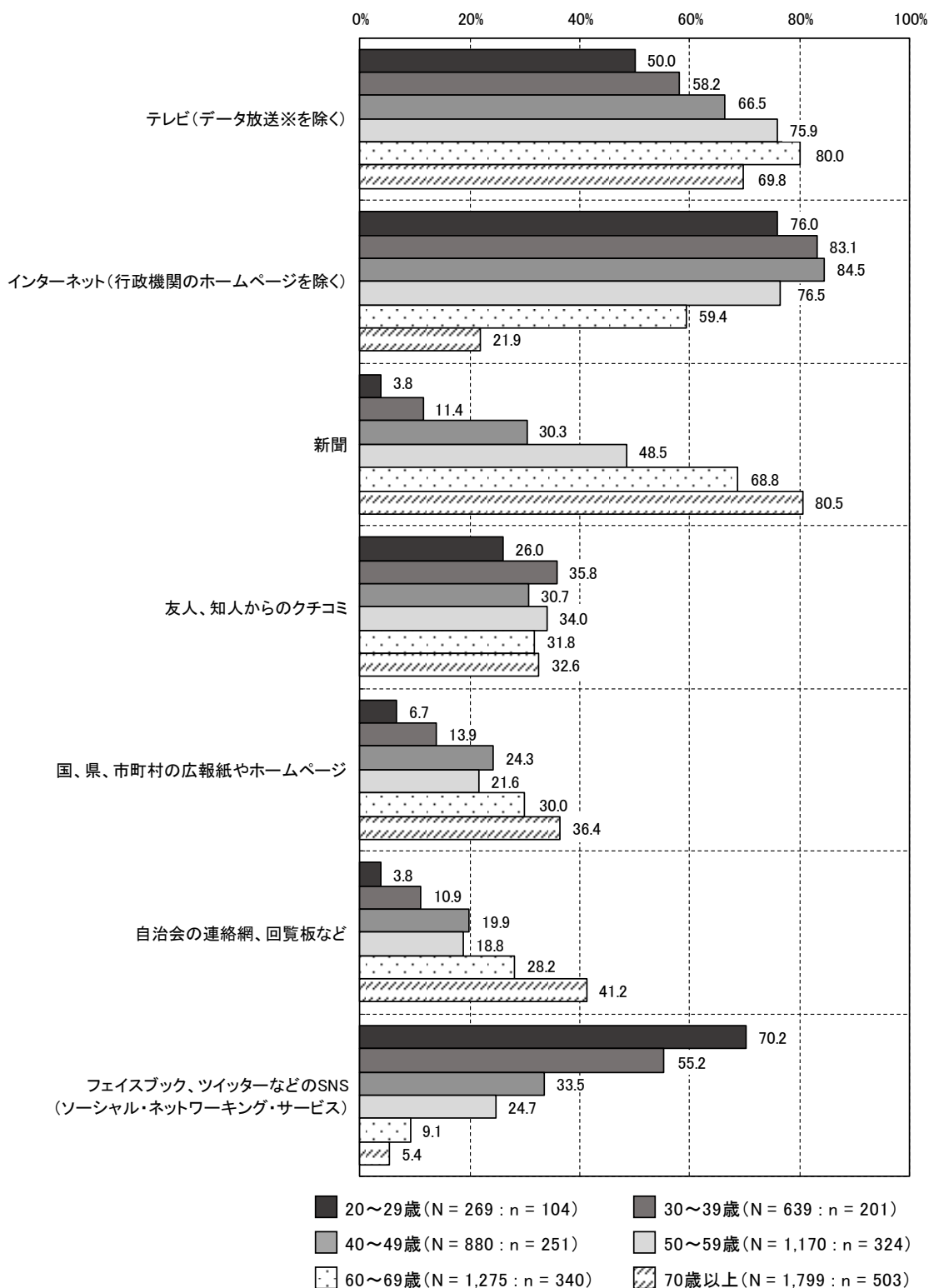
図 5-3 【性別】 生活に必要な情報の入手媒体



※ N=総回答数 n=回答者数

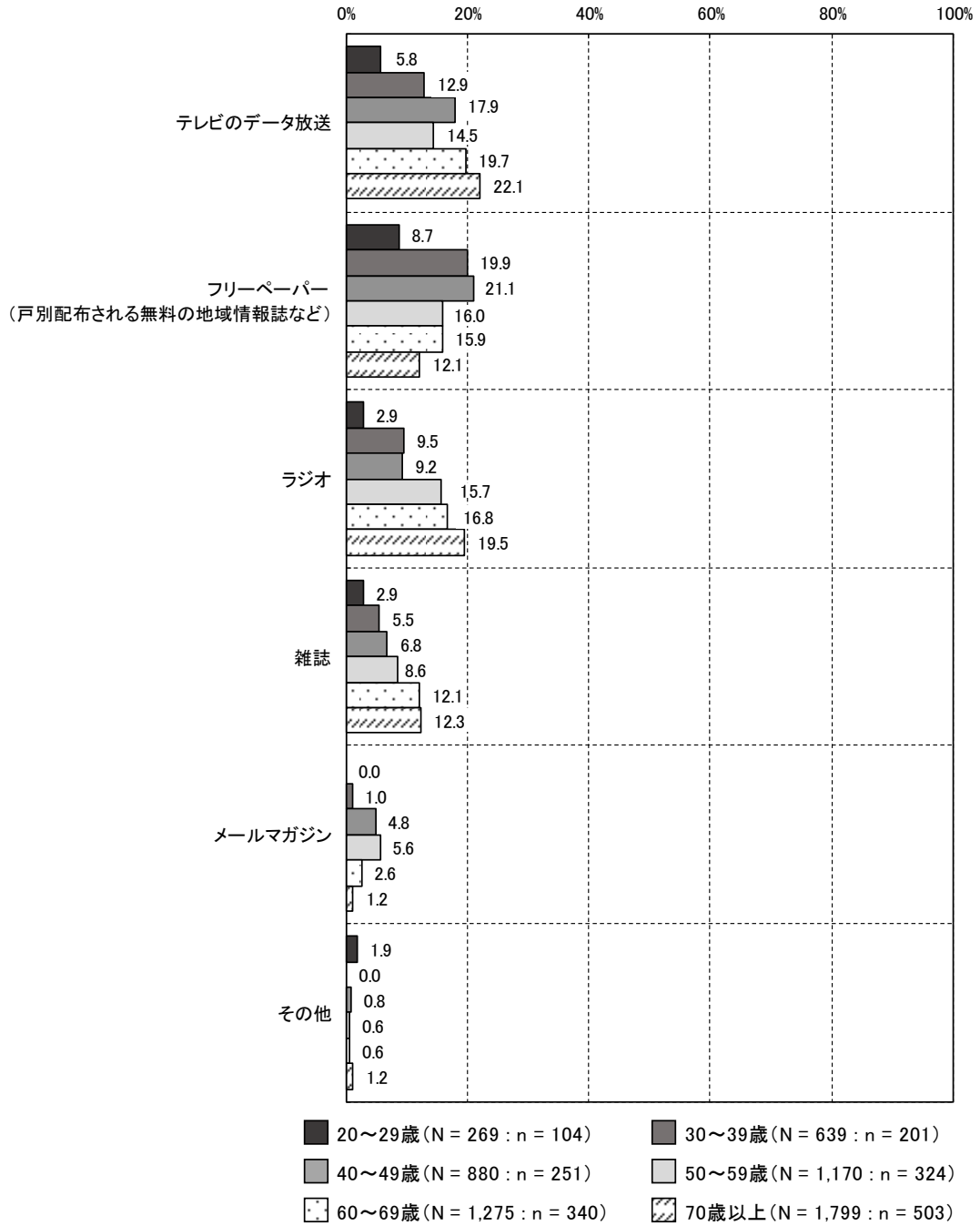
年代別（図 5-4）でみると、20 歳代、30 歳代、40 歳代、50 歳代では「インターネット（行政機関のホームページを除く）」、60 歳代では「テレビ（データ放送を除く）」、70 歳以上では「新聞」が最も高くなっている。また、「新聞」は年代があがるにつれて高くなっており、「フェイスブック、ツイッターなどの SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）」は年代がさがるにつれて高くなっていく。

図 5-4 【年代別】生活に必要な情報の入手媒体



※ N=総回答数 n=回答者数

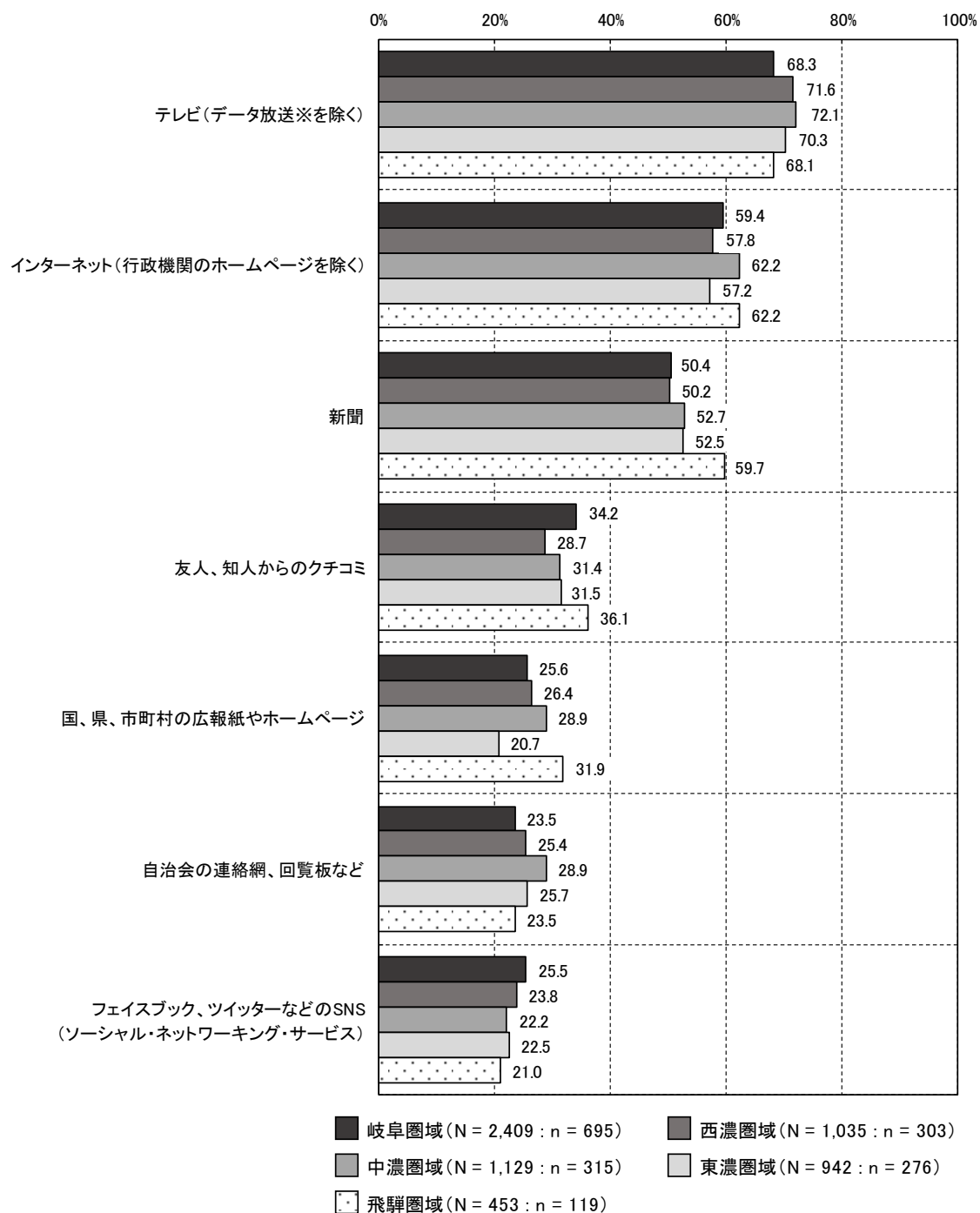
図 5-4 【年代別】生活に必要な情報の入手媒体（続き）



※ N=総回答数 n=回答者数

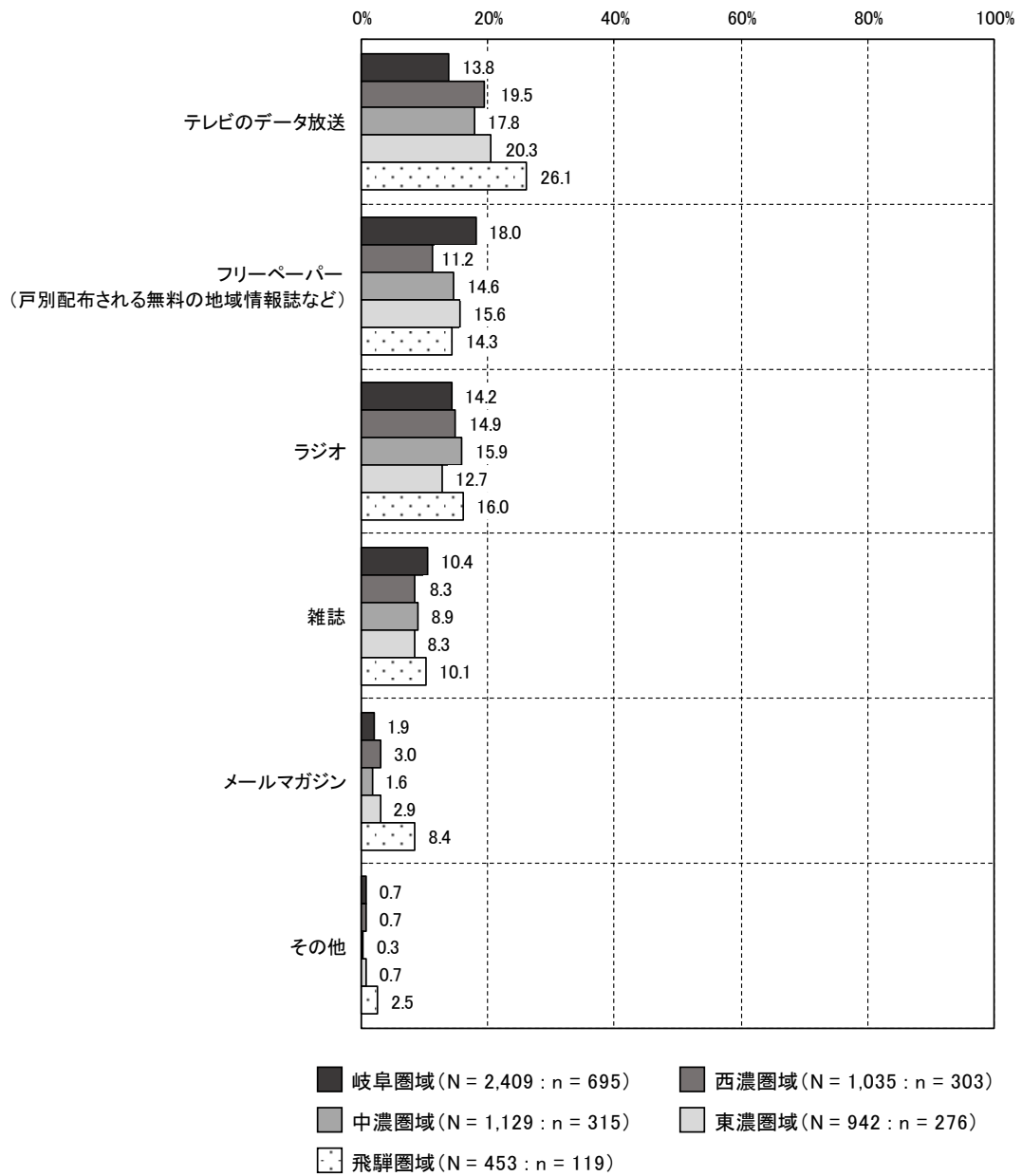
居住圏域別（図 5-5）で見ると、いずれの居住圏域においても「テレビ（データ放送を除く）」が最も高く、次いで「インターネット（行政機関のホームページを除く）」、「新聞」の順となっている。

図 5-5 【居住圏域別】生活に必要な情報の入手媒体



※ N=総回答数 n=回答者数

図 5-5 【居住圏域別】生活に必要な情報の入手媒体（続き）



※ N=総回答数 n=回答者数

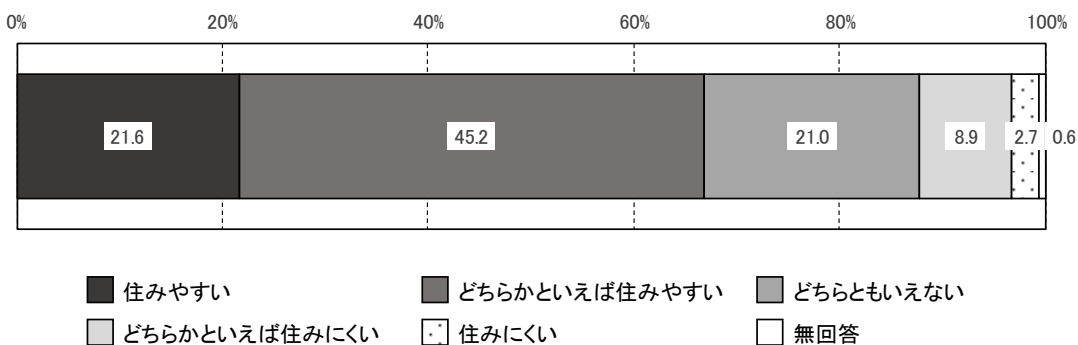
問6 現在住んでいる地域は住みやすいか

問6 あなたにとって、現在お住まいの地域は住みやすいですか。（1つだけ）

全体（図6-1）で見ると、「どちらかといえば住みやすい」が45.2%と最も高くなっている。次いで「住みやすい」（21.6%）、「どちらともいえない」（21.0%）の順となっている。

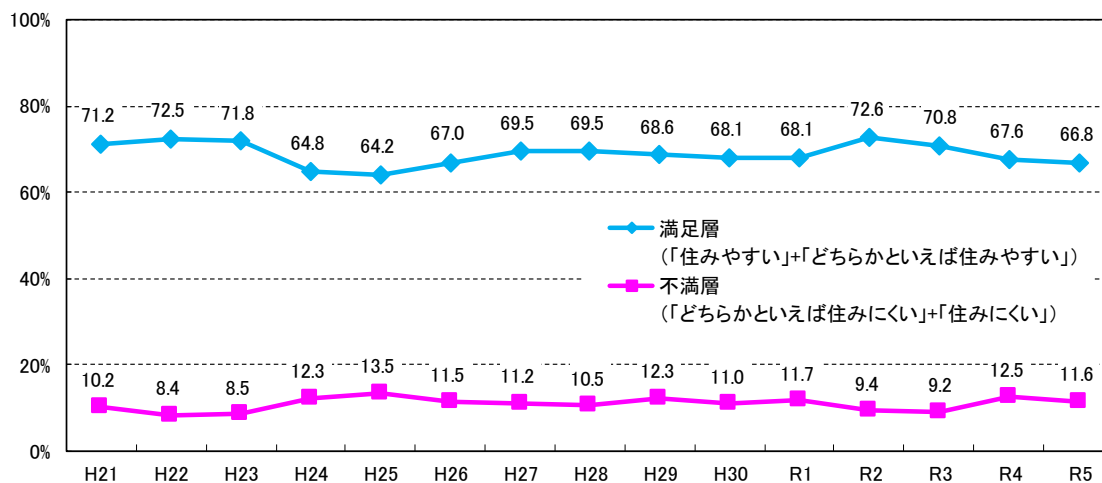
図6-1 現在住んでいる地域は住みやすいか

回答者数(n = 1,758)



経年変化（図6-2）で見ると、令和5年は、前年に比べて「満足層」（「住みやすい」+「どちらかといえば住みやすい」）が0.8ポイント減少している。

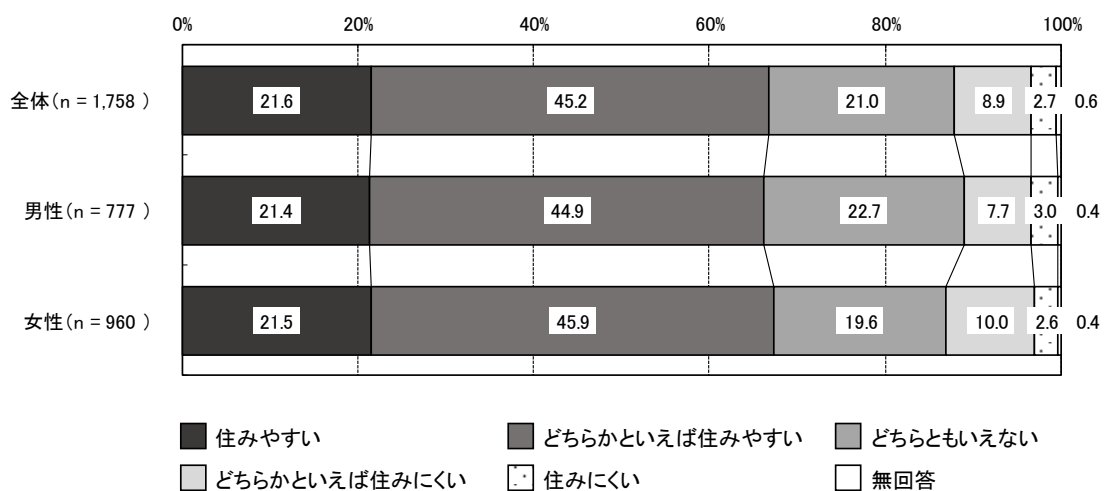
図6-2【経年変化】現在住んでいる地域は住みやすいか



※ 平成21年度から調査

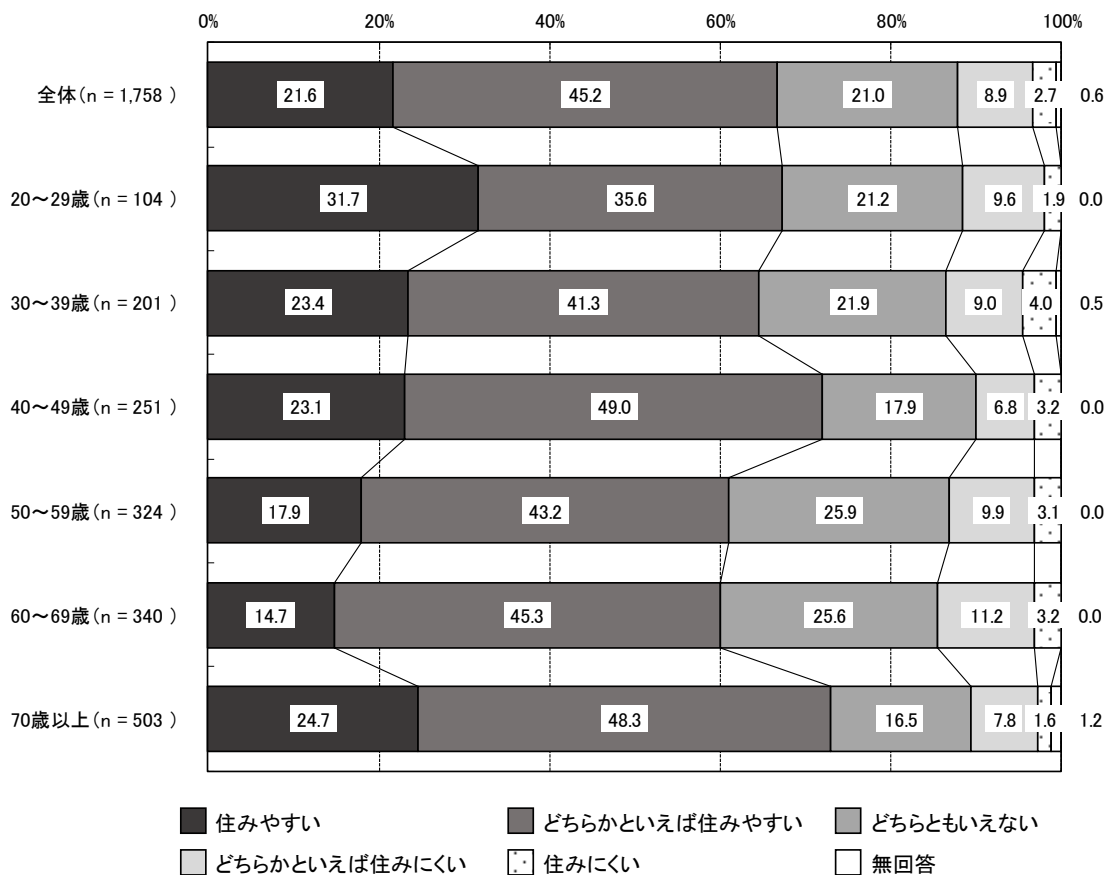
性別（図 6-3）で見ると、男女ともに「どちらかといえば住みやすい」が最も高く、男性が 44.9%、女性が 45.9%となっている。

図 6-3 【性別】 現在住んでいる地域は住みやすいか



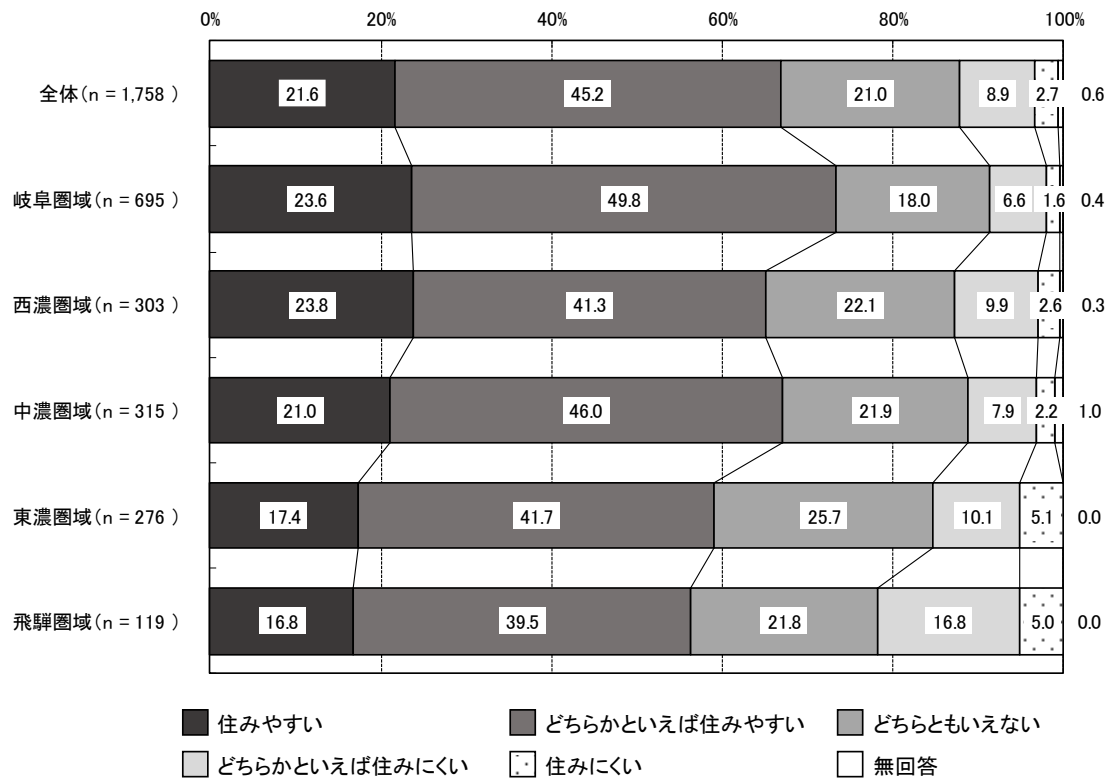
年代別（図 6-4）で見ると、いずれの年代においても「どちらかといえば住みやすい」が最も高くなっている。20 歳代では「住みやすい」が 31.7%と、他の年代に比べて最も高くなっている。

図 6-4 【年代別】 現在住んでいる地域は住みやすいか



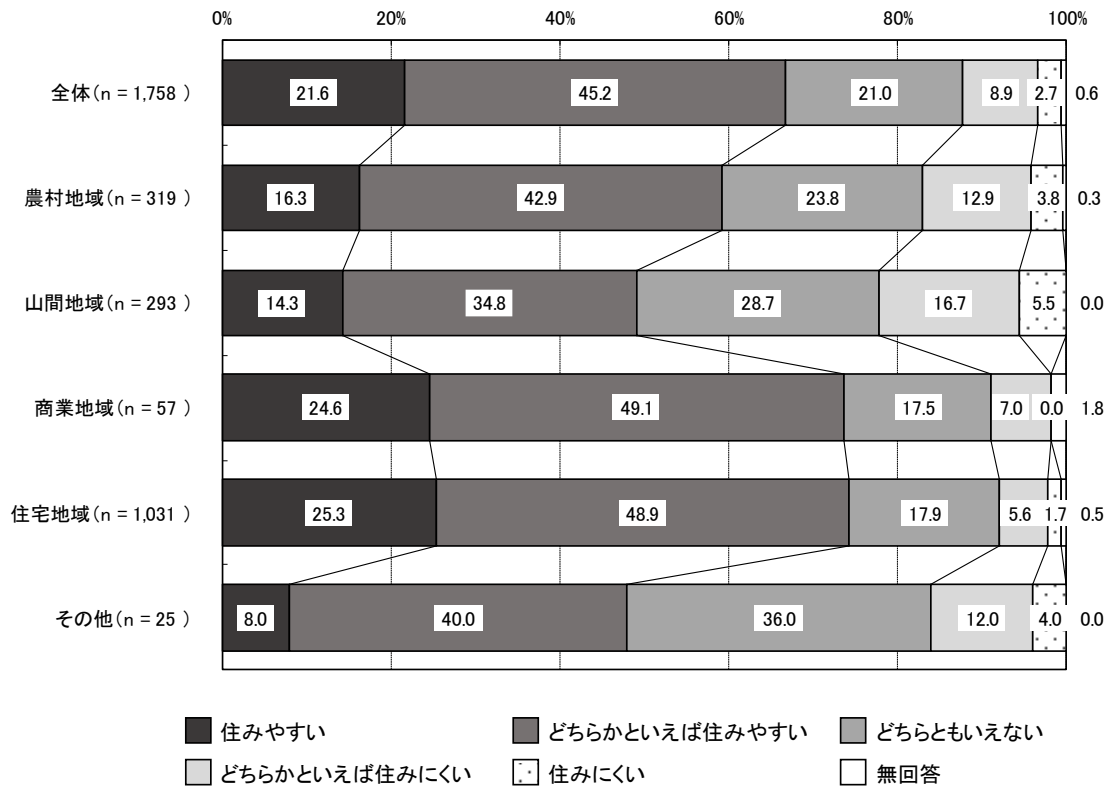
居住圏域別（図 6-5）で見ると、いずれの居住圏域においても「どちらかといえば住みやすい」が最も高くなっている。

図 6-5 【居住圏域別】 現在住んでいる地域は住みやすいか



居住環境別（図 6-6）でみると、いずれの居住環境においても「どちらかといえば住みやすい」が最も高くなっている。

図 6-6 【居住環境別】 現在住んでいる地域は住みやすいか



問6-2 住んでいる地域が住みやすいと感じる点

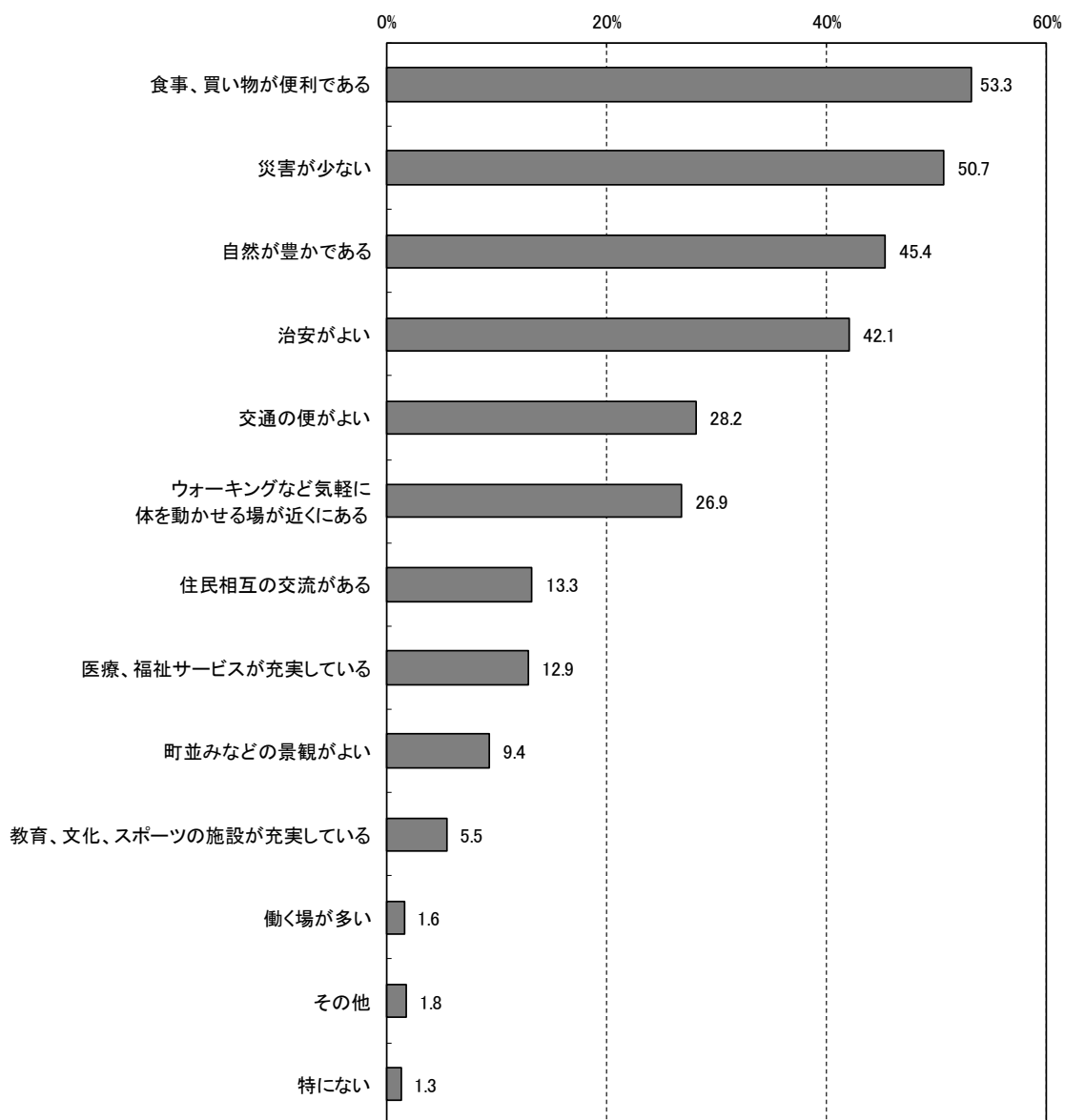
問6-2 「住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」と答えた方にお尋ねします。
あなたが、現在お住まいの地域が住みやすいと感じるのは、特にどのような点ですか。（いくつでも）

全体（図6-2-1）でみると、「食事、買い物が便利である」が53.3%と最も高く、次いで「災害が少ない」（50.7%）、「自然が豊かである」（45.4%）、「治安がよい」（42.1%）の順となっている。

図6-2-1 住んでいる地域が住みやすいと感じる点

回答者数(n = 1,173)※

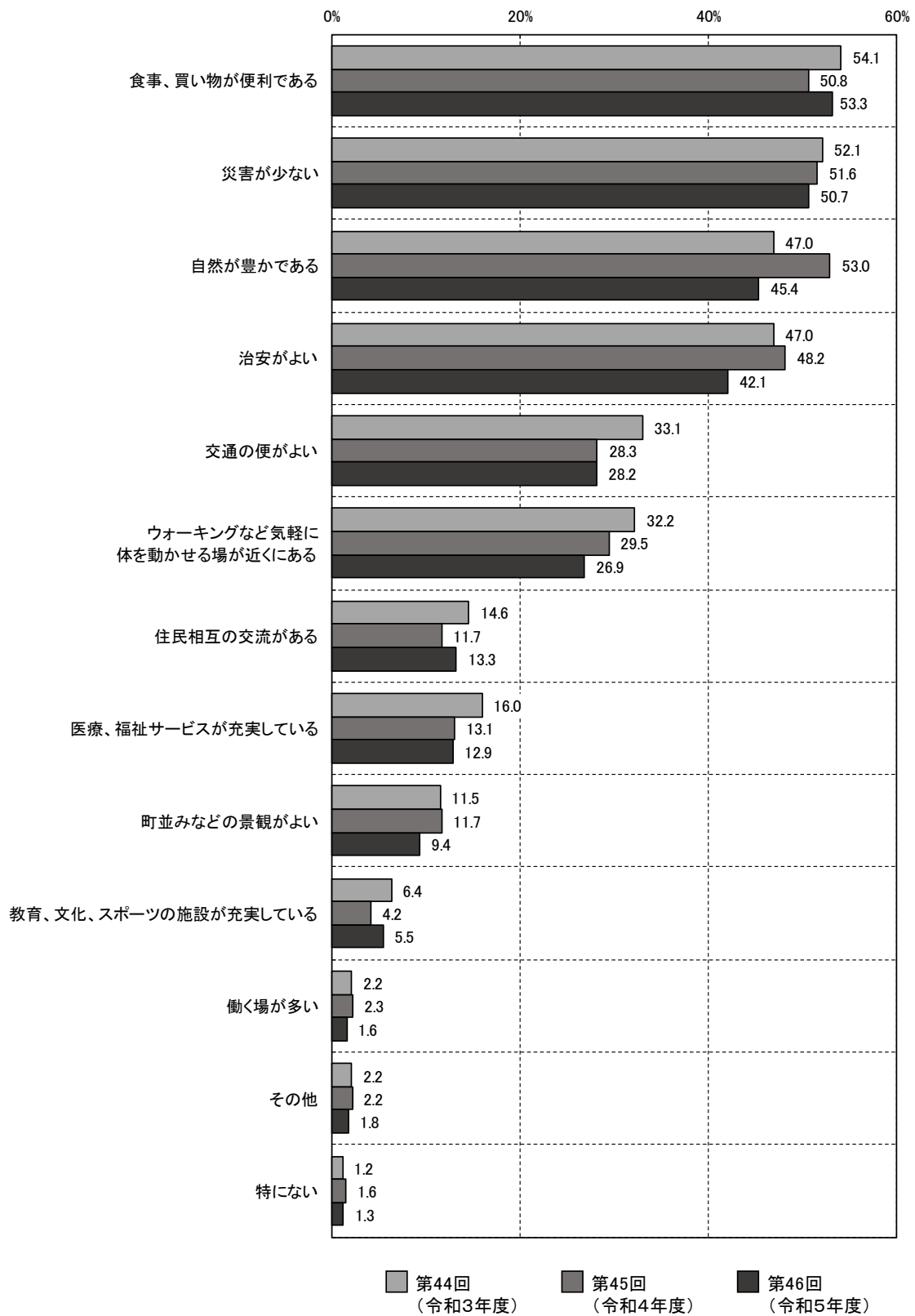
総回答数(N = 3,452)



※ 問6で「住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」と答えた方のみ

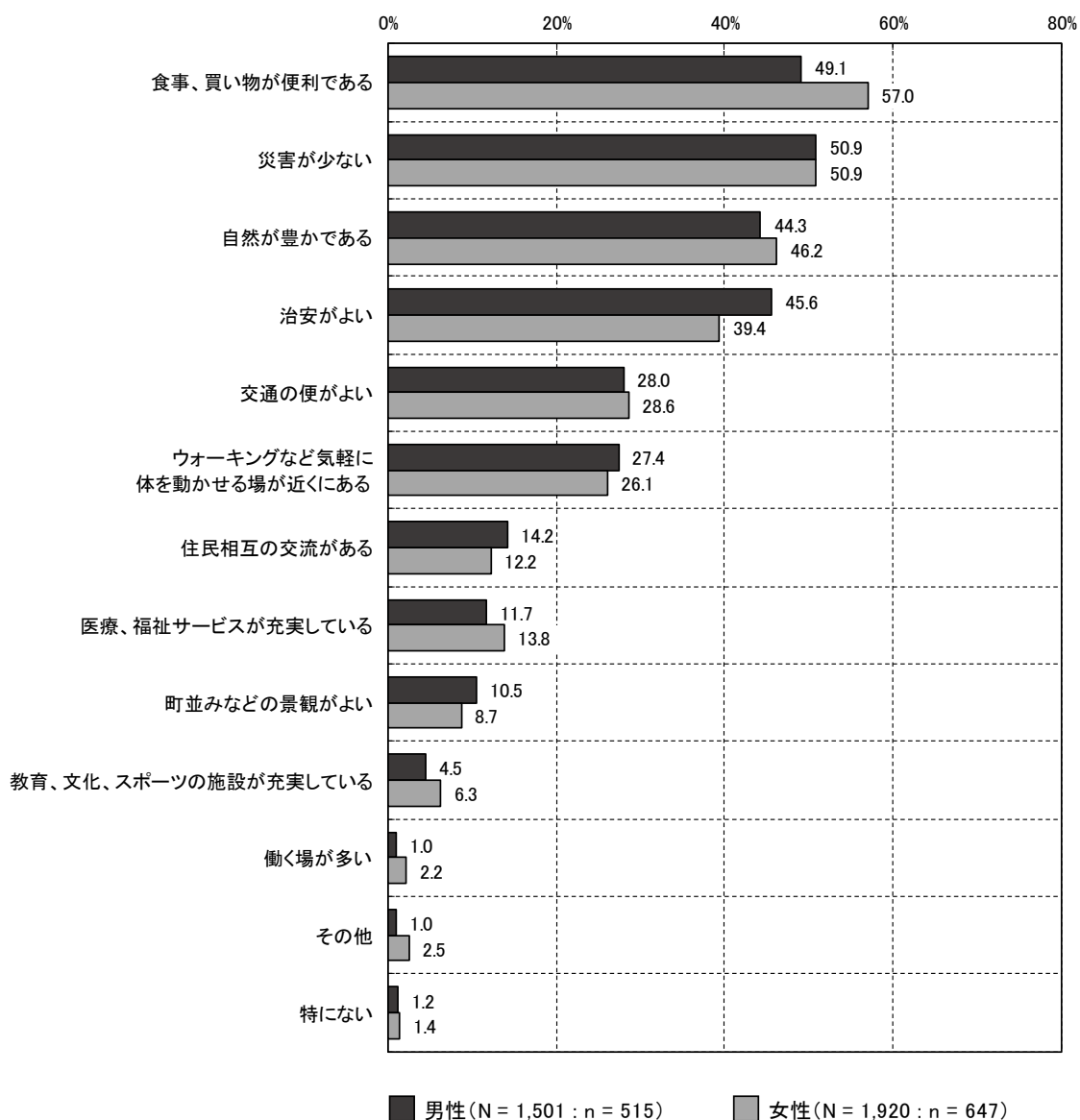
前々回・前回比較（図 6-2-2）でみると、前回に比べて「自然が豊かである」が 7.6 ポイント、「治安がよい」が 6.1 ポイント減少している。

図 6-2-2 【前々回・前回比較】 住んでいる地域が住みやすいと感じる点



性別（図 6-2-3）で見ると、男性では「災害が少ない」が 50.9%と最も高く、女性では「食事、買い物が便利である」が 57.0%と最も高くなっている。

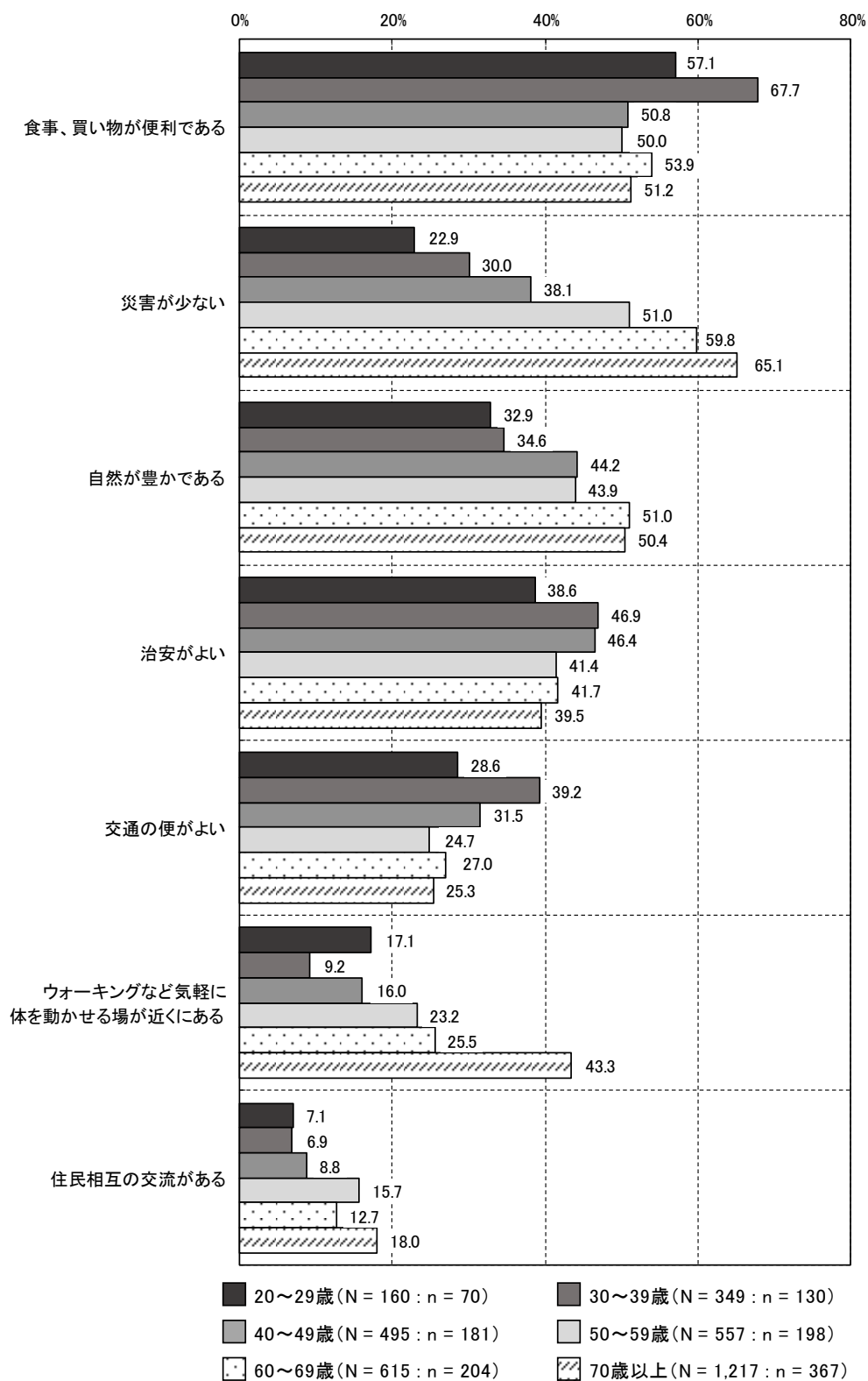
図 6-2-3 【性別】住んでいる地域が住みやすいと感じる点



※ N=総回答数 n=回答者数

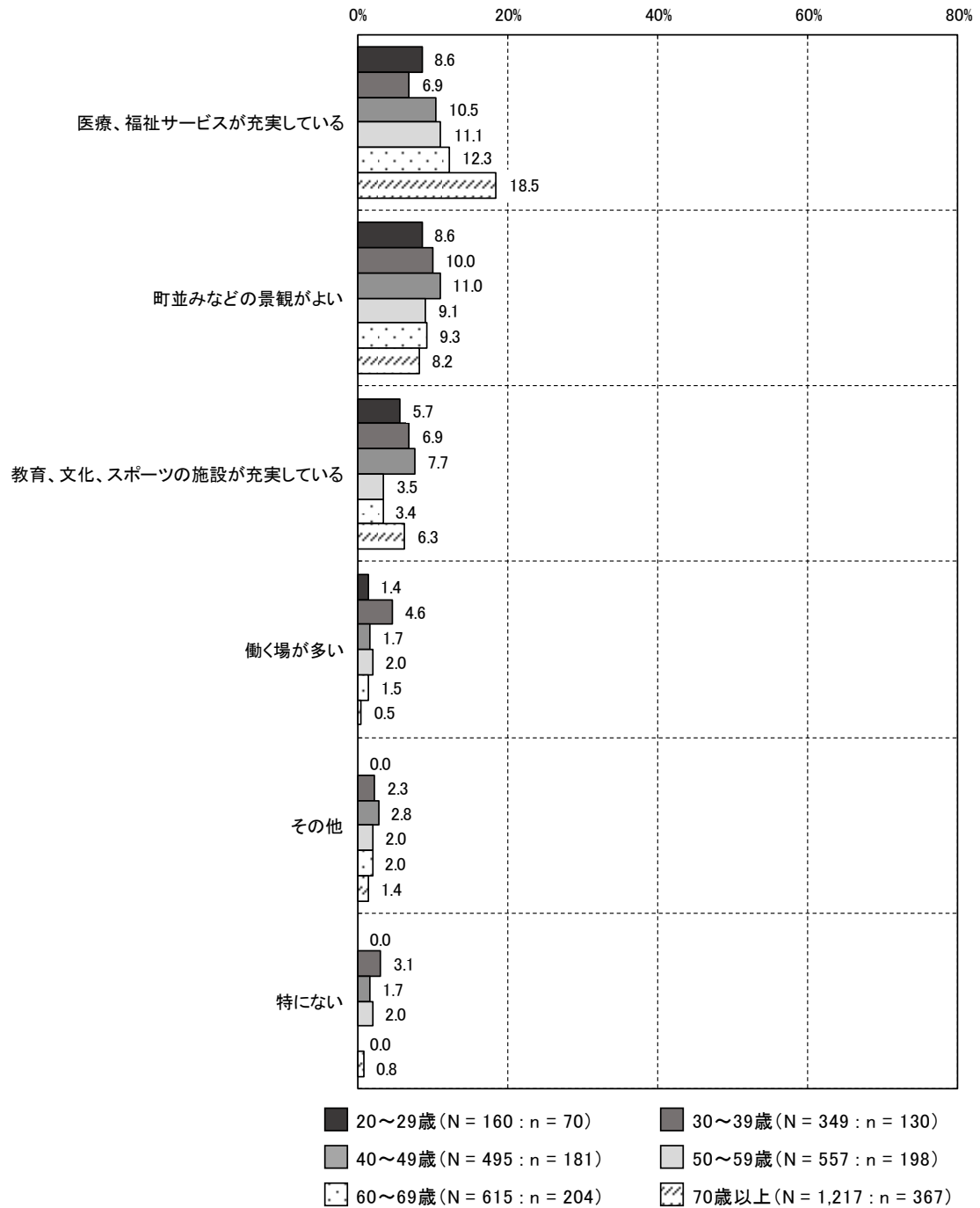
年代別（図 6-2-4）で見ると、20 歳代、30 歳代、40 歳代では「食事、買い物が便利である」が最も高く、50 歳代、60 歳代、70 歳以上では「災害が少ない」が最も高くなっている。30 歳代では「交通の便がよい」、70 歳以上では「ウォーキングなど気軽に体を動かせる場が近くにある」が他の年代に比べて高くなっている。

図 6-2-4 【年代別】住んでいる地域が住みやすいと感じる点



※ N=総回答数 n=回答者数

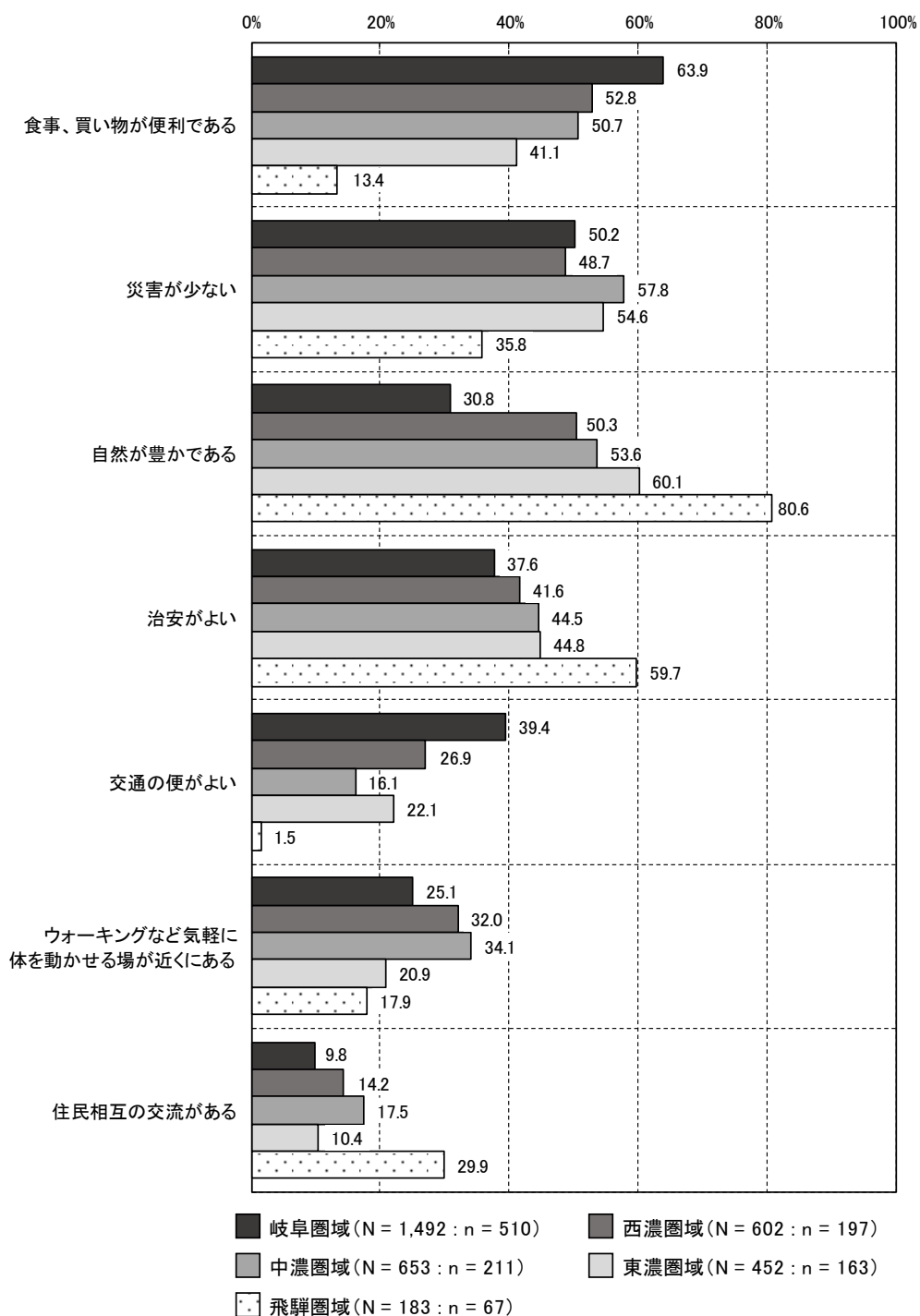
図 6-2-4 【年代別】 住んでいる地域が住みやすいと感じる点（続き）



※ N=総回答数 n=回答者数

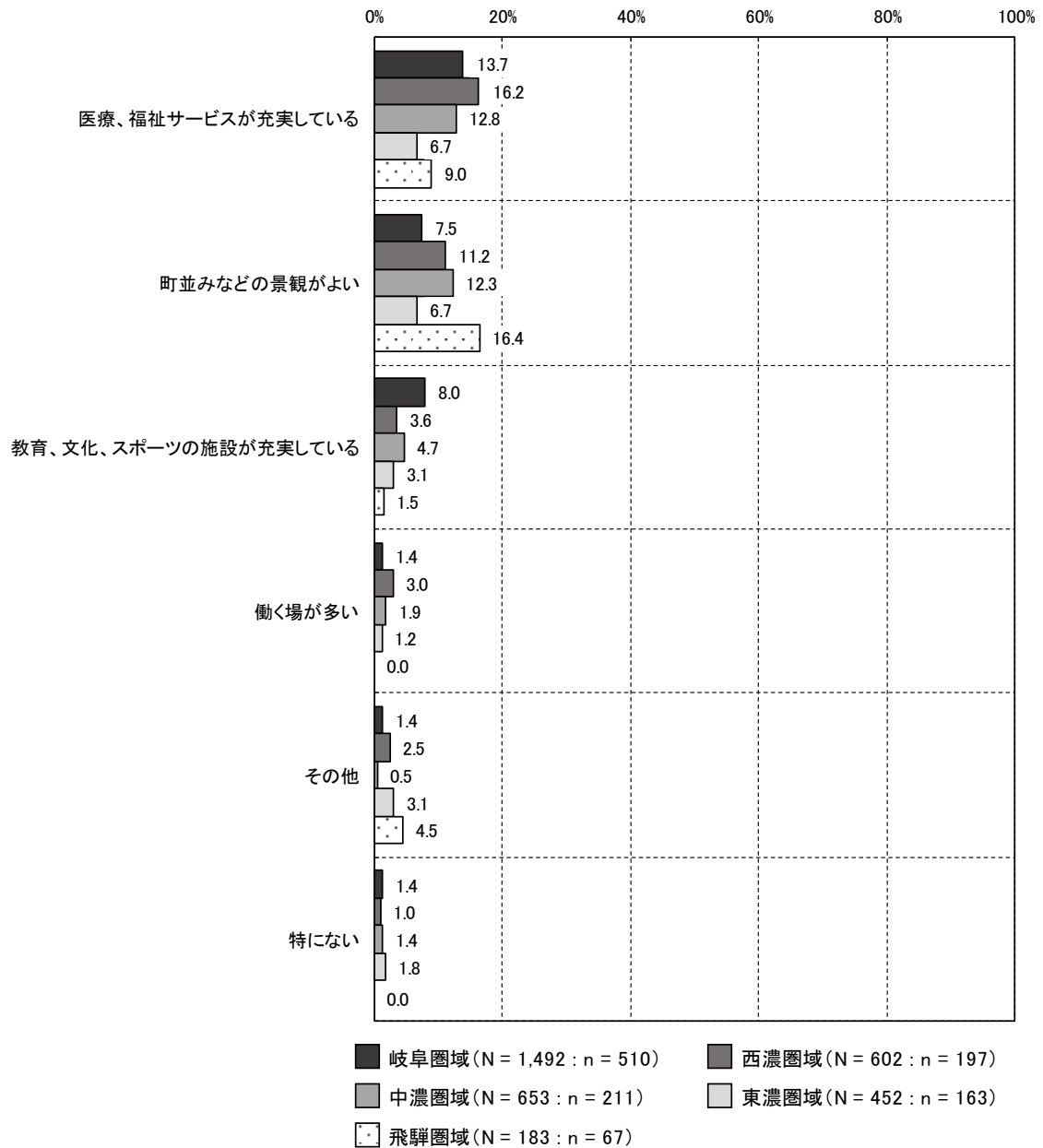
居住圏域別（図 6-2-5）で見ると、岐阜圏域、西濃圏域では「食事、買い物が便利である」、中濃圏域では「災害が少ない」、東濃圏域、飛騨圏域では「自然が豊かである」が最も高くなっている。

図 6-2-5 【居住圏域別】 住んでいる地域が住みやすいと感じる点



※ N=総回答数 n=回答者数

図 6-2-5 【居住圏域別】 住んでいる地域が住みやすいと感じる点（続き）



※ N=総回答数 n=回答者数

問6-3 住んでいる地域が住みにくいと感ずる点

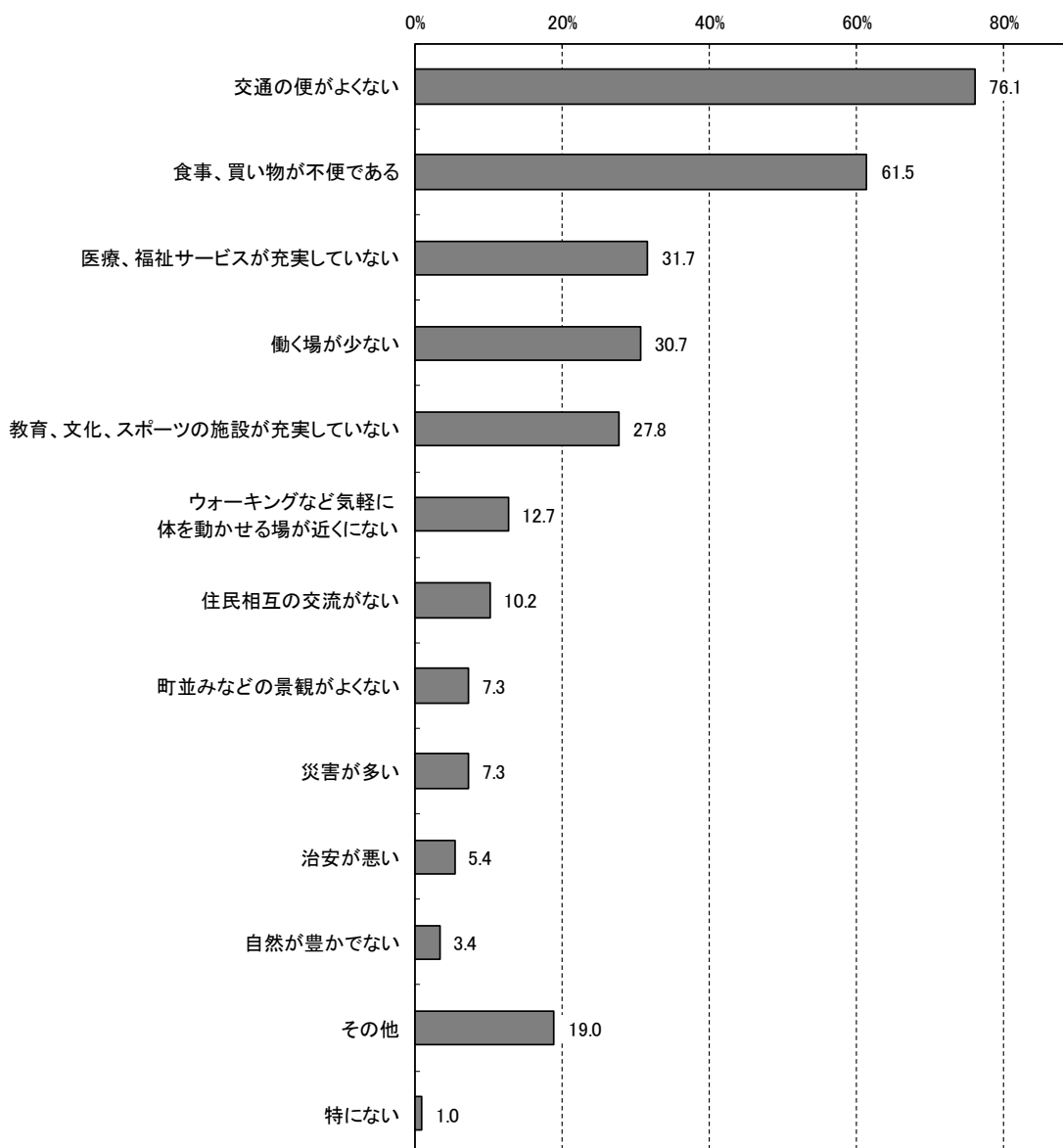
問6-3 「どちらかといえば住みにくい」「住みにくい」と答えた方にお尋ねします。
あなたが、現在お住まいの地域が住みにくいと感ずるのは、特にどのような点ですか。（いくつでも）

全体（図6-3-1）で見ると、「交通の便がよくない」が76.1%と最も高く、次いで「食事、買い物が不便である」（61.5%）、「医療、福祉サービスが充実していない」（31.7%）の順となっている。

図6-3-1 住んでいる地域が住みにくいと感ずる点

回答者数(n = 205)※

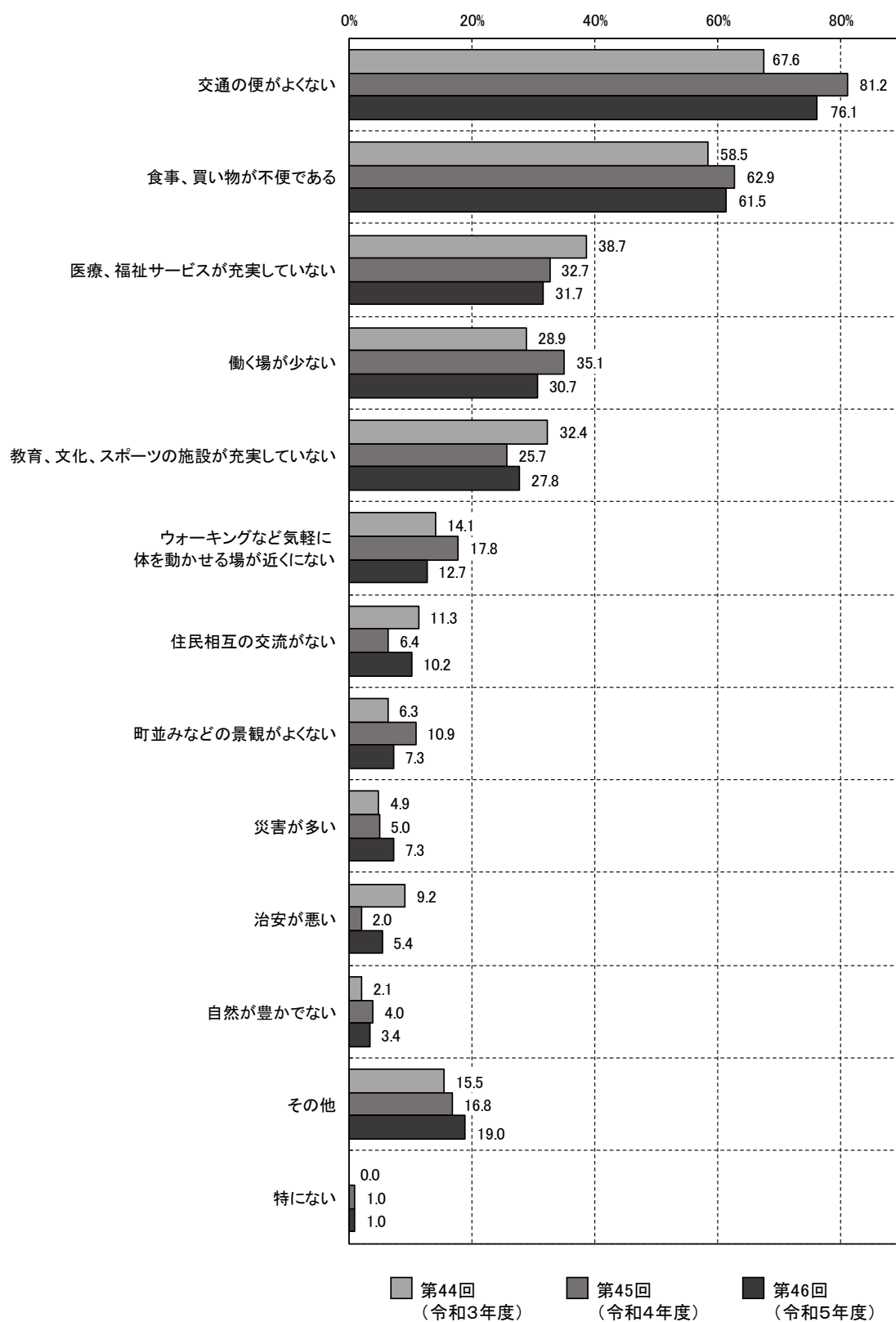
総回答数(N = 606)



※ 問6で「どちらかといえば住みにくい」「住みにくい」と答えた方のみ

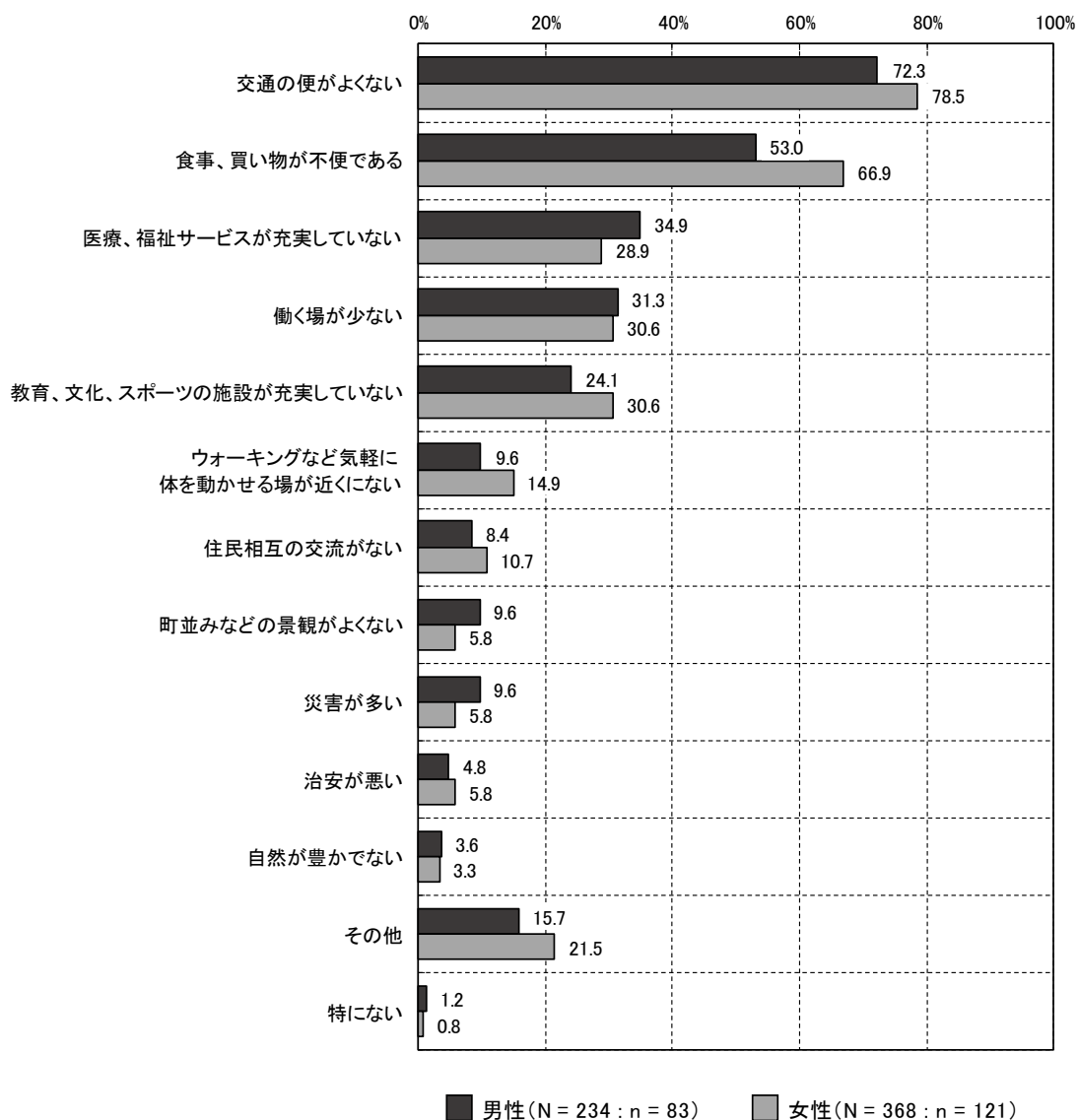
前々回・前回比較（図 6-3-2）で見ると、前々回・前回・今回と一貫して「交通の便がよ
くない」、「食事、買い物が不便である」の順となっている。

図 6-3-2 【前々回・前回比較】 住んでいる地域が住みにくいと感じる点



性別(図 6-3-3)でみると、男女ともに「交通の便がよくない」が最も高く、男性が 72.3%、女性が 78.5%となっている。次いで「食事、買い物不便である」が高く、女性が男性より 13.9 ポイント高くなっている。

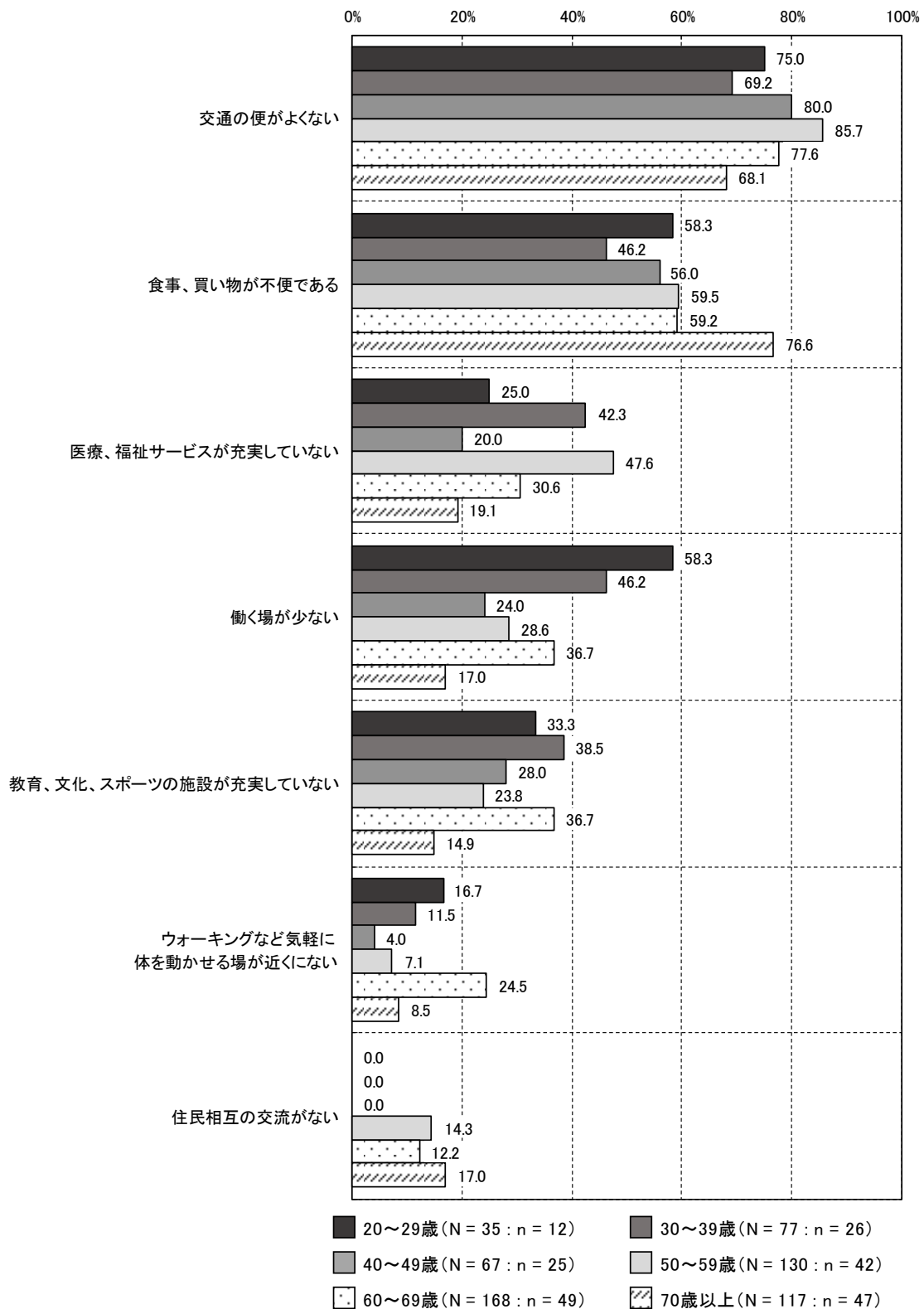
図 6-3-3 【性別】住んでいる地域が住みにくいと感ずる点



※ N=総回答数 n=回答者数

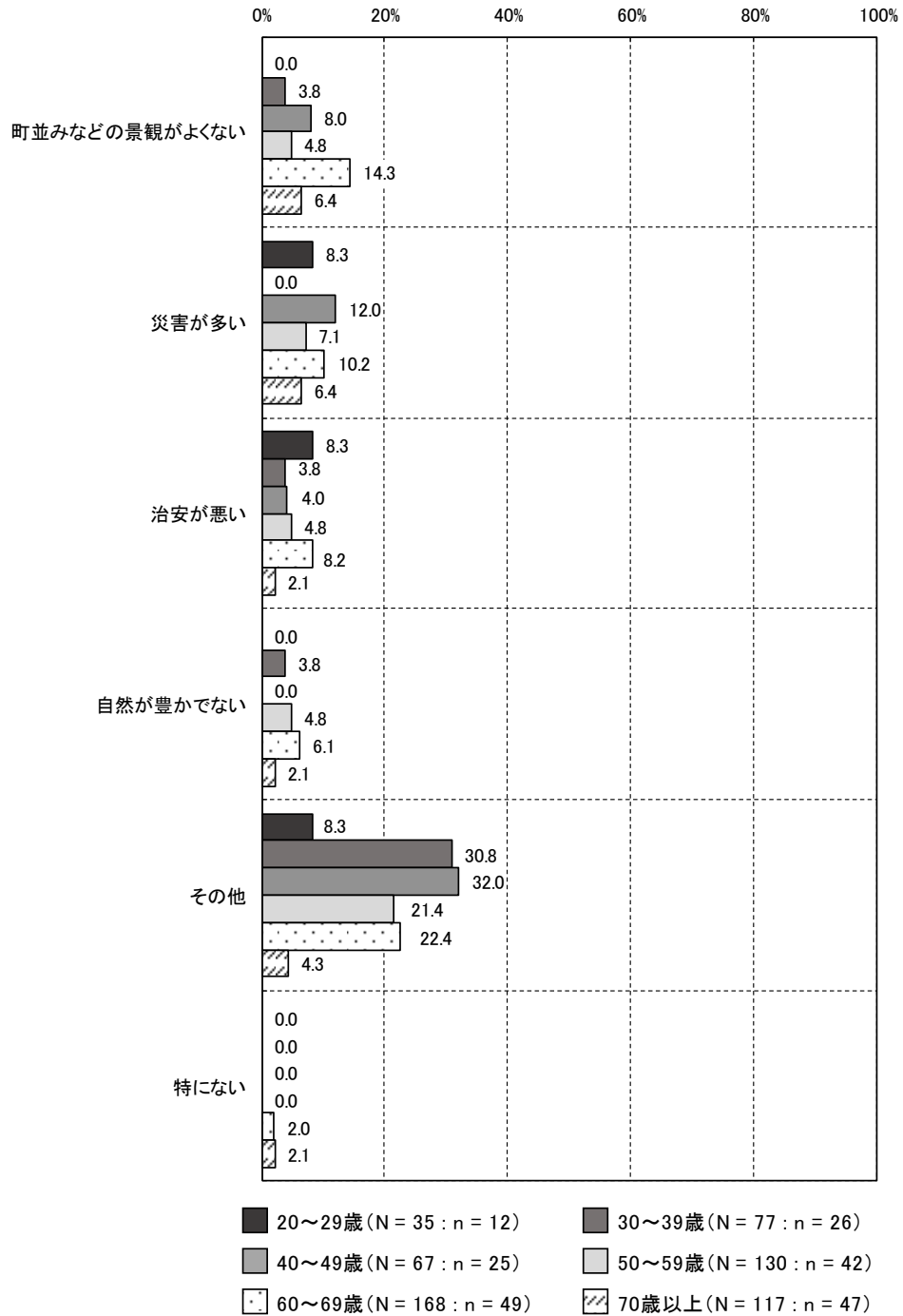
年代別（図 6-3-4）でみると、70 歳以上を除くいずれの年代においても「交通の便がよくない」が最も高く、70 歳以上では「食事、買い物が不便である」が最も高くなっている。20 歳代では「働く場が少ない」が他の年代に比べて高くなっている。

図 6-3-4 【年代別】住んでいる地域が住みにくいと感じる点



※ N=総回答数 n=回答者数

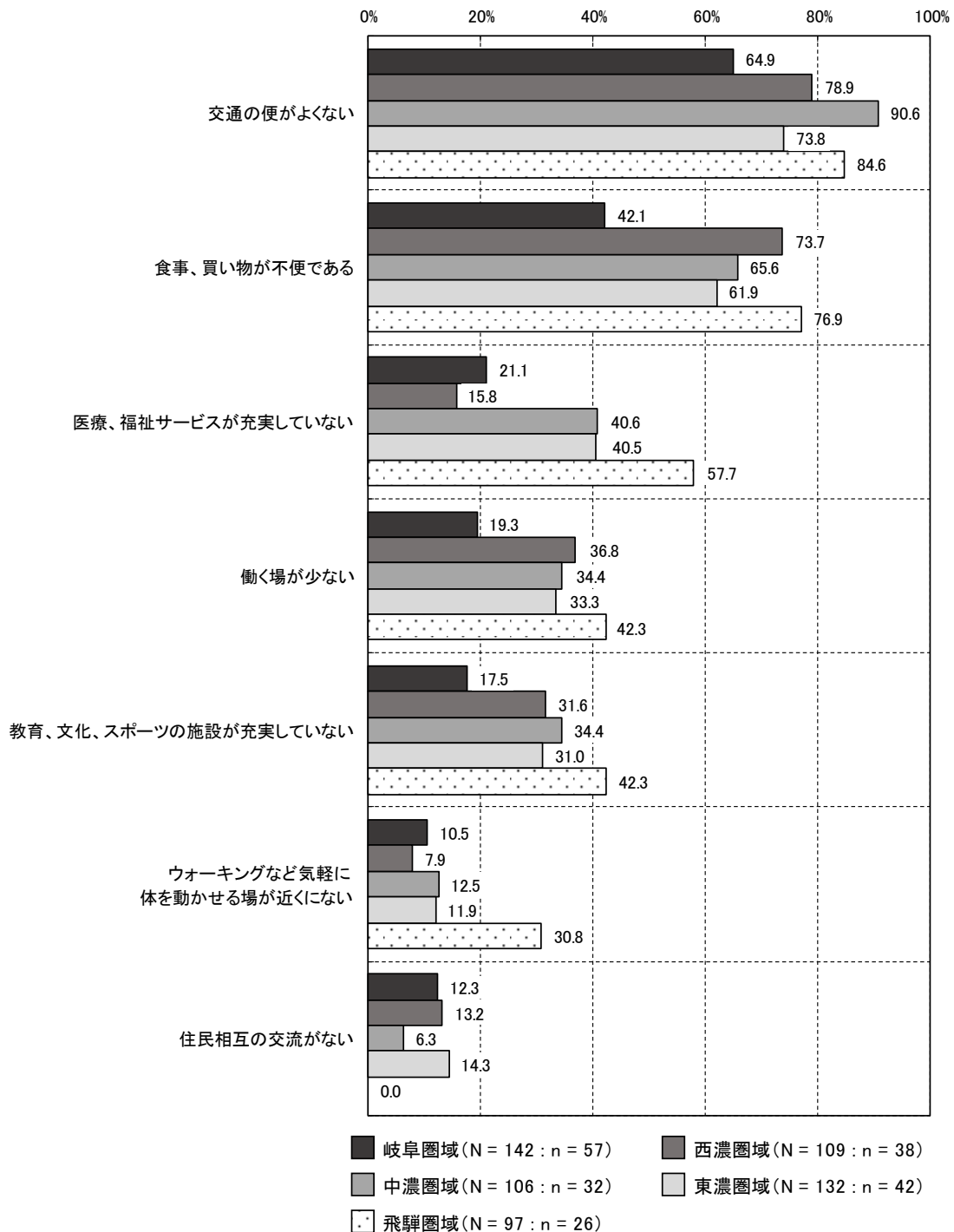
図 6-3-4 【年代別】 住んでいる地域が住みにくいと感じる点 (続き)



※ N=総回答数 n=回答者数

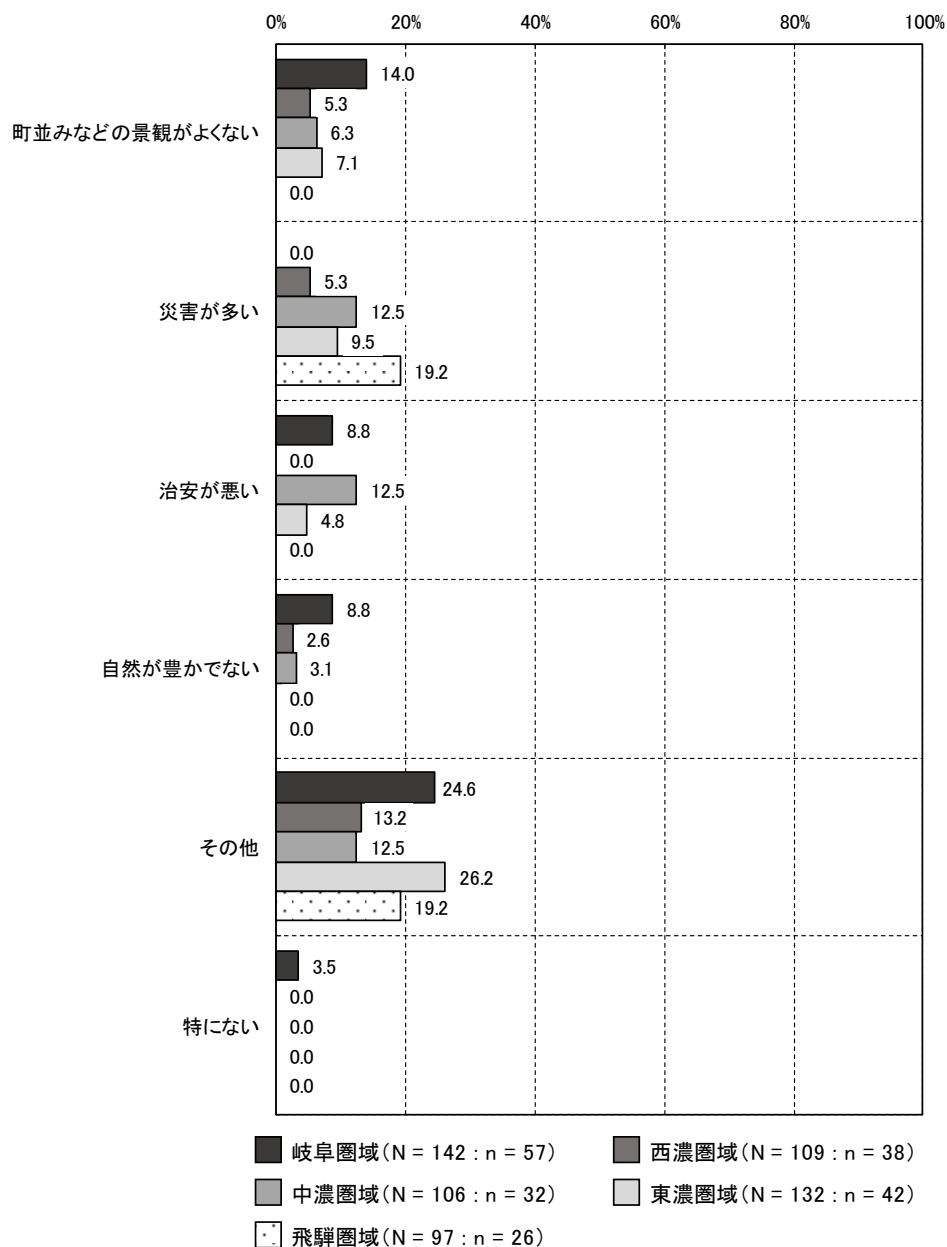
居住圏域別（図 6-3-5）で見ると、いずれの圏域においても「交通の便がよくない」が最も高く、そのうち中濃圏域が 90.6%と最も高くなっている。また、飛騨圏域では「医療、福祉サービスが充実していない」が他の圏域に比べて高くなっている。

図 6-3-5 【居住圏域別】 住んでいる地域が住みにくいと感ずる点



※ N=総回答数 n=回答者数

図 6-3-5 【居住圏域別】住んでいる地域が住みにくいと感じる点（続き）



※ N=総回答数 n=回答者数

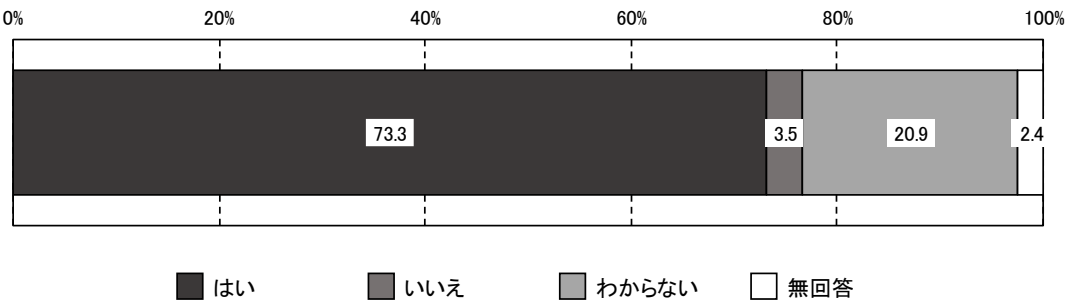
問7 今後も岐阜県に住み続けたいか

問7 あなたは、今後も岐阜県に住み続けたいと思いますか。（1つだけ）

全体（図7-1）で見ると、「はい」が73.3%と最も高くなっている。

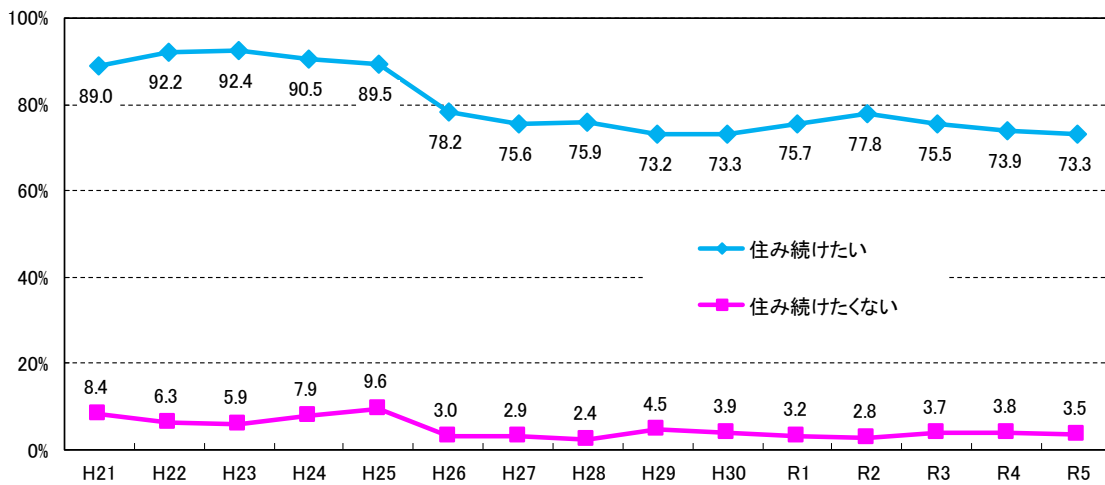
図7-1 今後も岐阜県に住み続けたいか

回答者数(n = 1,758)



経年変化（図7-2）で見ると、令和5年は、前年に比べて「住み続けたい」が0.6ポイント減少している。

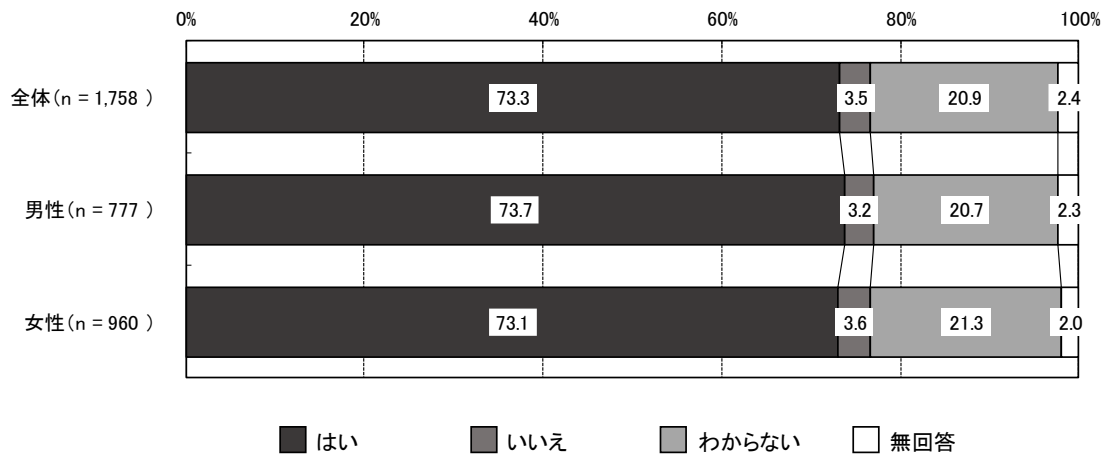
図7-2 【経年変化】 今後も岐阜県に住み続けたいか



※ 平成21年度から調査

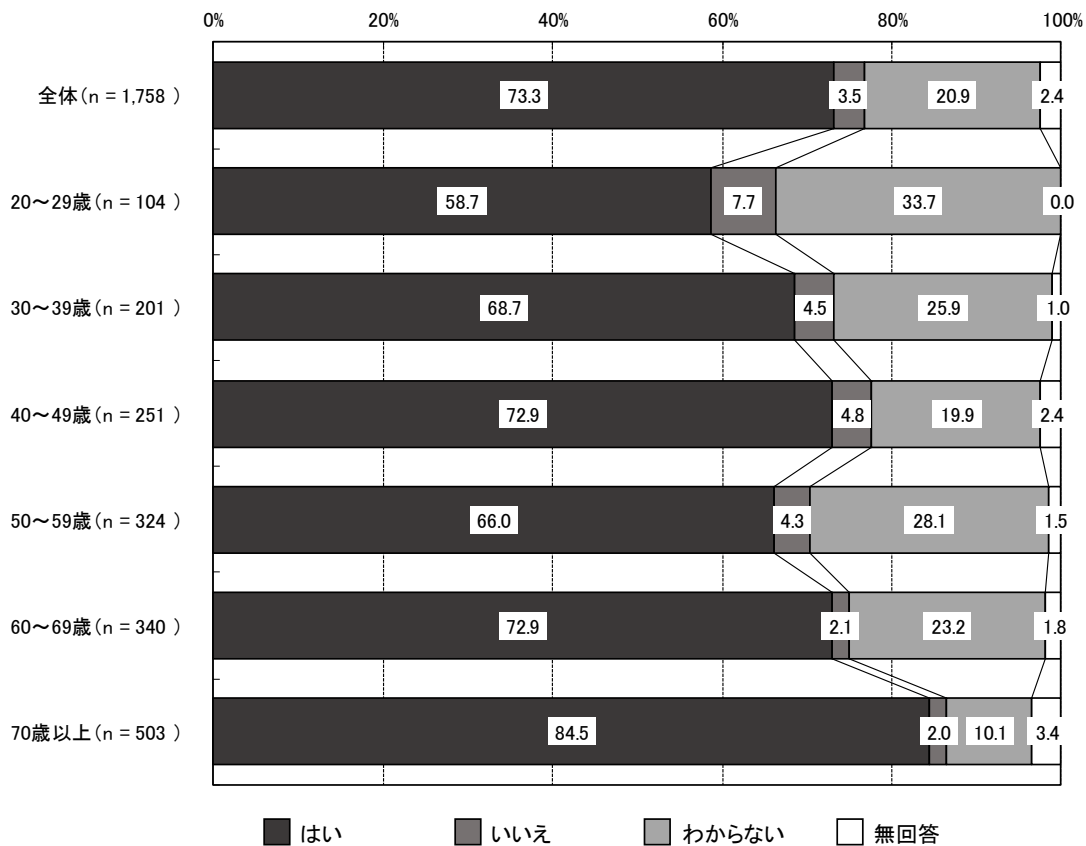
性別（図 7-3）で見ると、男女ともに「はい」が最も高く、男性が 73.7%、女性が 73.1% となっている。

図 7-3 【性別】 今後も岐阜県に住み続けたいか



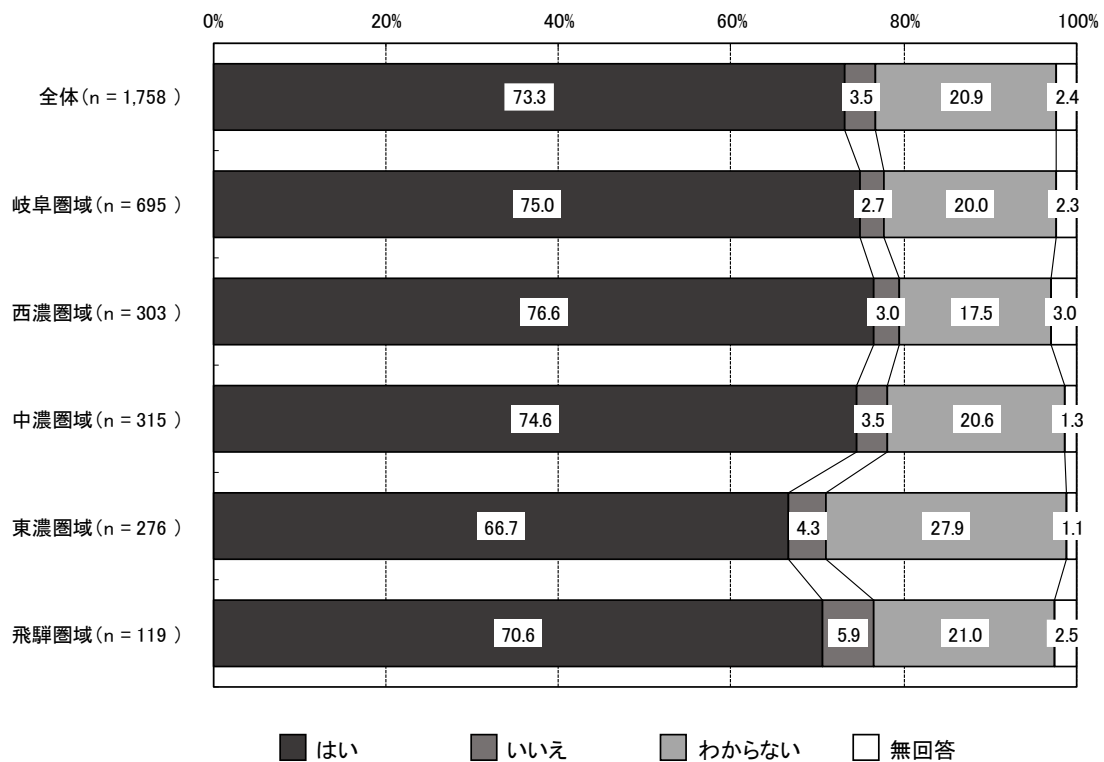
年代別（図 7-4）で見ると、いずれの年代においても「はい」が最も高く、そのうち 70 歳以上が 84.5% と最も高くなっている。

図 7-4 【年代別】 今後も岐阜県に住み続けたいか



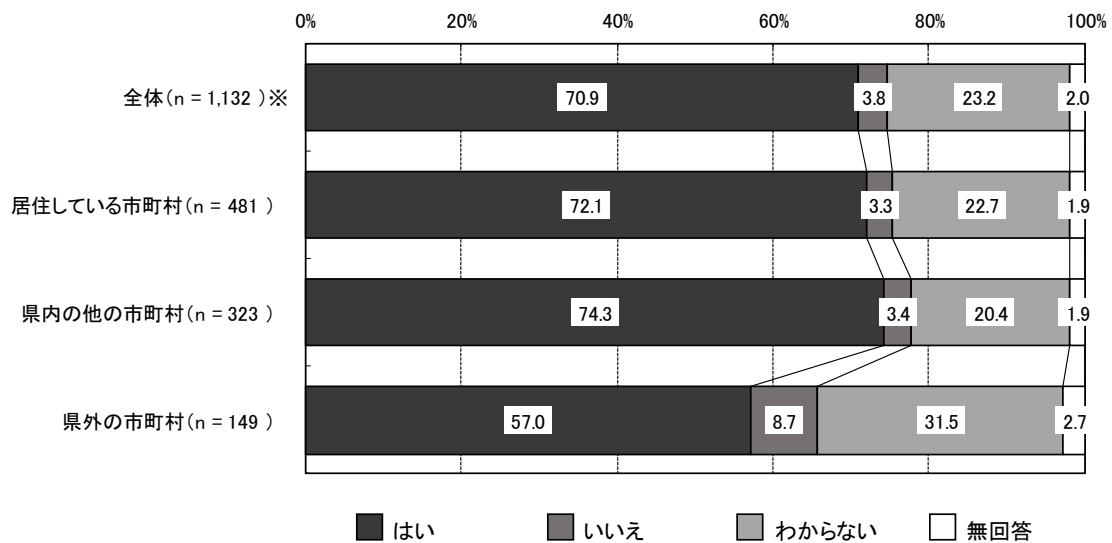
居住圏域別（図 7-5）で見ると、いずれの居住圏域においても「はい」が最も高く、そのうち西濃圏域が 76.6%と最も高くなっている。

図 7-5 【居住圏域別】 今後も岐阜県に住みたいか



通勤、通学先別（図 7-6）で見ると、いずれの通勤、通学先においても「はい」が最も高く、そのうち県内の他の市町村が 74.3%と最も高くなっている。

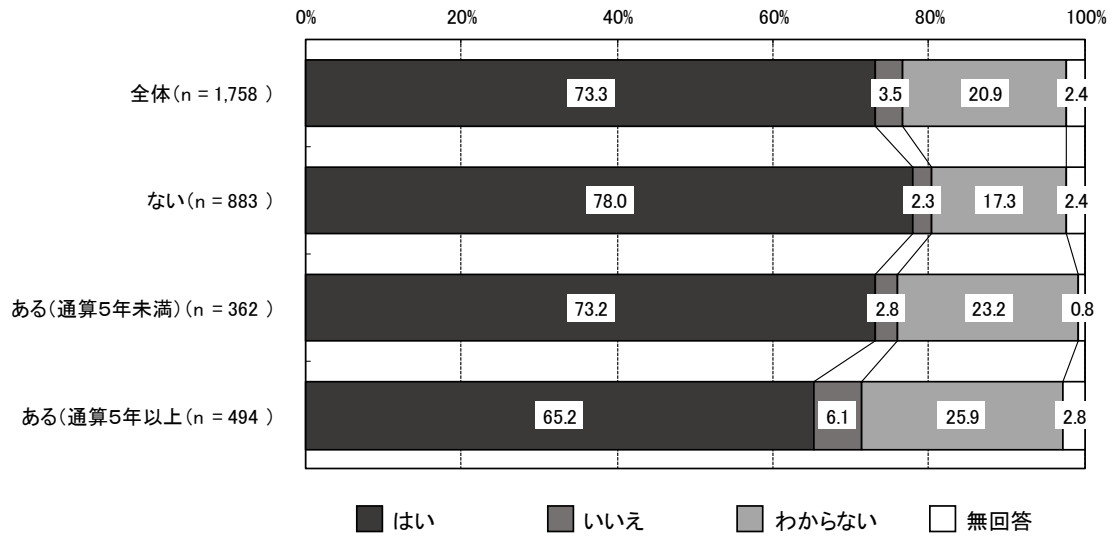
図 7-6 【通勤、通学先別】 今後も岐阜県に住みたいか



※ 「F-10 職業」で、自営業、自由業、会社・団体役員、正規の従業員・職員、パートタイム・アルバイト・派遣、学生と答えた方のみ

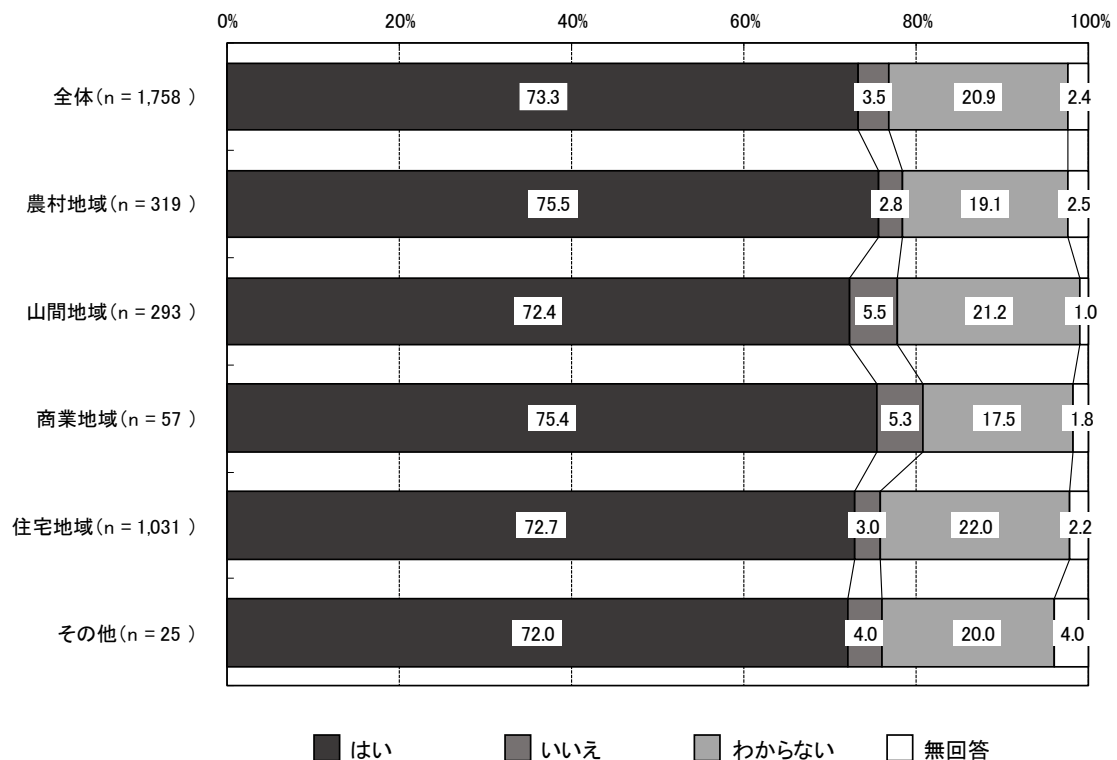
県外居住経験の有無別(図7-7)で見ると、県外居住経験がない人は「はい」が78.0%と、ある人より高くなっている。

図7-7【県外居住経験の有無別】今後も岐阜県に住みたいか



居住環境別(図7-8)で見ると、いずれの居住環境においても「はい」が最も高くなっている。

図7-8【居住環境別】今後も岐阜県に住みたいか



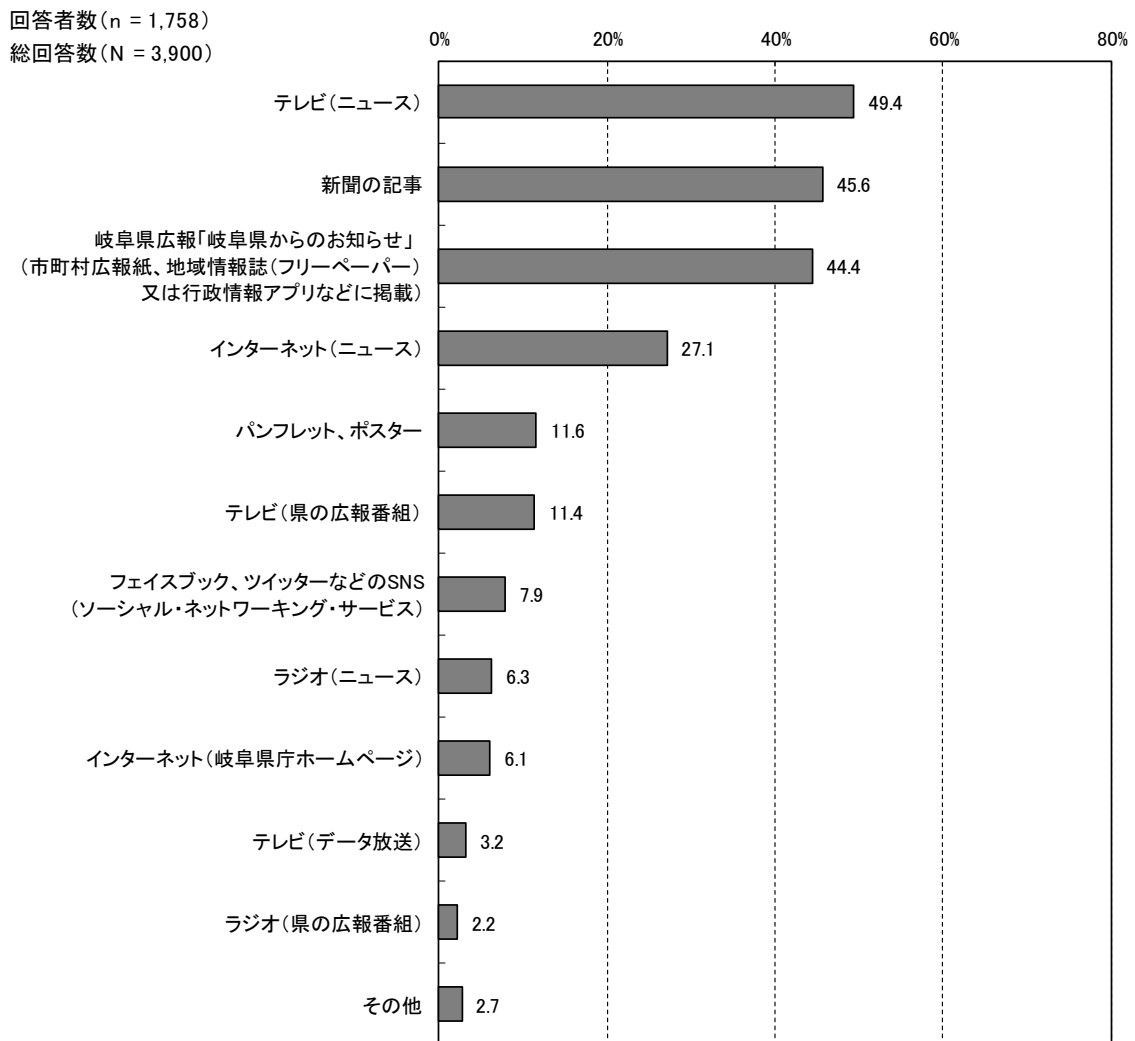
2. 2 県の取組み全般について

問8 施策や事業についての情報の入手方法

問8 あなたは、岐阜県が行っている施策や事業を、何によって知ることが多いですか。
(いくつでも)

全体(図8-1)で見ると、「テレビ(ニュース)」が49.4%と最も高く、次いで「新聞の記事」(45.6%)、「岐阜県広報「岐阜県からのお知らせ」(44.4%)」の順となっている。

図8-1 施策や事業についての情報の入手方法



※1 行政情報アプリなど : 行政情報アプリ「マチイロ」

広報紙配信サービス「マイ広報紙」

電子書籍ポータルサイト「Gifu ebooks」

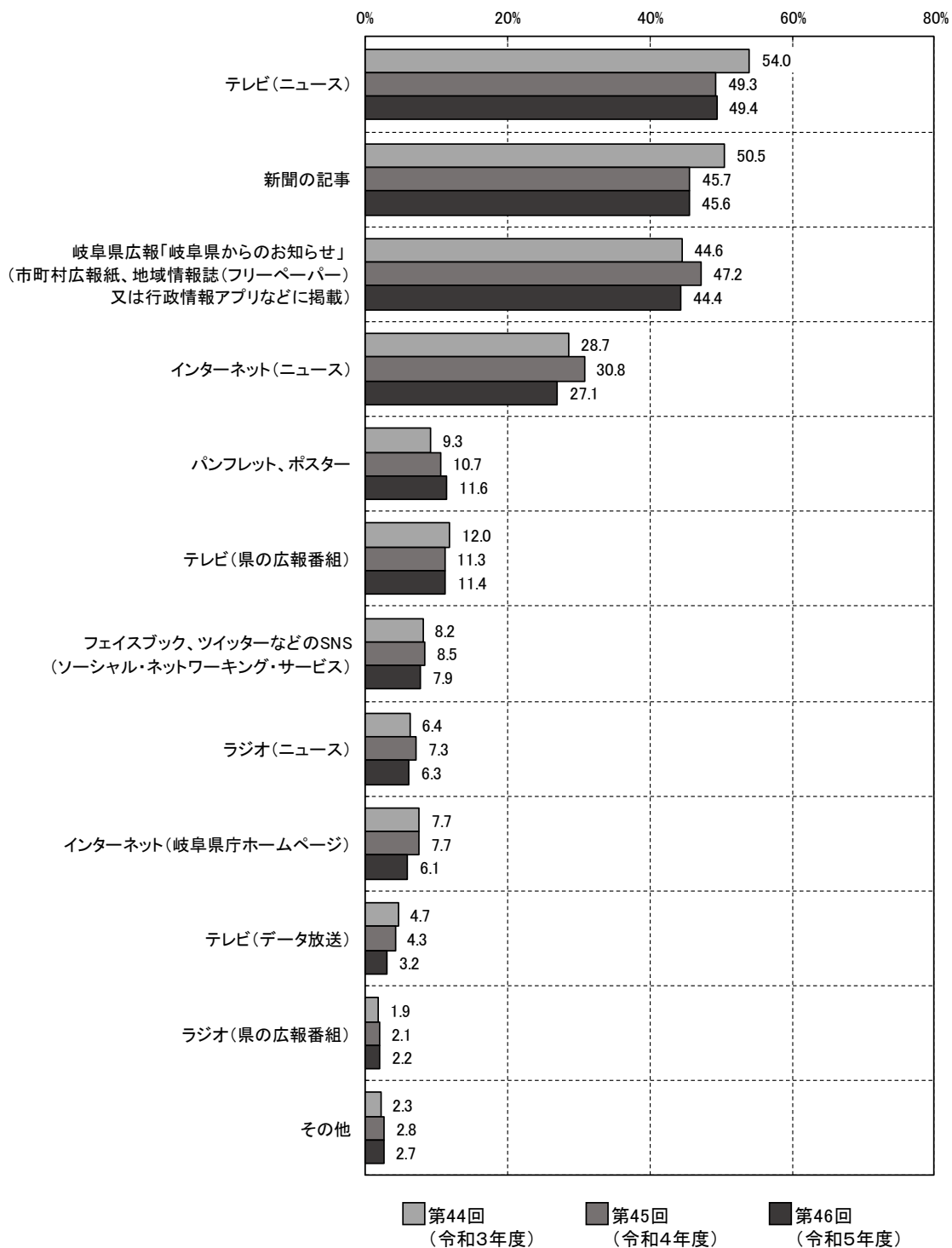
※2 テレビ(県の広報番組) : ぎふチャン(岐阜放送)「ぎふ県政ほっとライン」「ぎふ県だより」

※3 ラジオ(県の広報番組) : エフエム岐阜「GIFU インフォメーション」「ギフトピ」

ぎふチャン(岐阜放送)「ぎふ県だより」「週刊ぎふタイム」

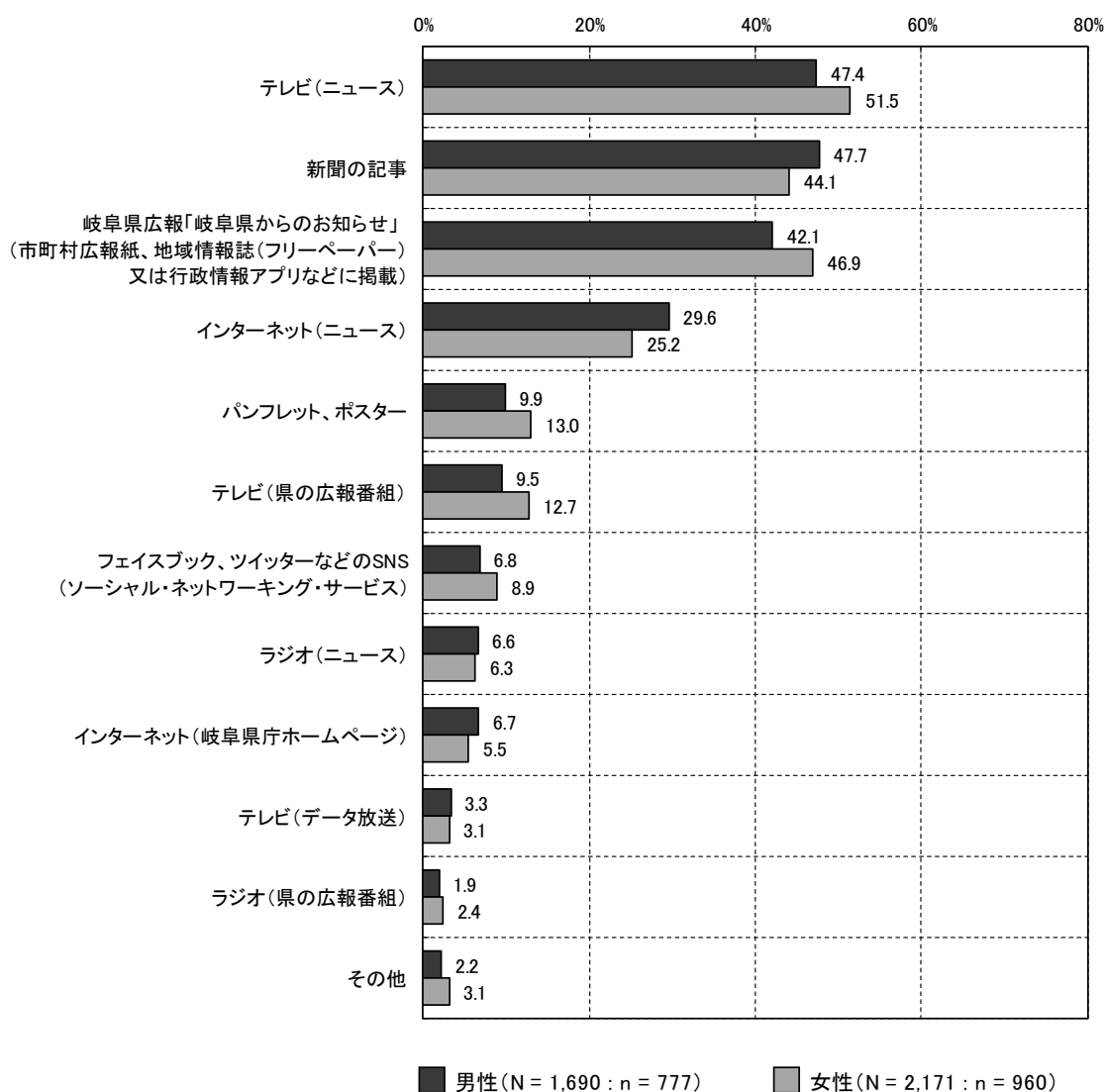
前々回・前回比較（図8-2）で見ると、前々回・前回・今回と一貫して「テレビ（ニュース）」が最も高くなっている。「インターネット（ニュース）」が前年に比べて3.7ポイント減少している。

図8-2【前々回・前回比較】 施策や事業についての情報の入手方法



性別（図 8-3）で見ると、男性では「新聞の記事」が 47.7%と最も高くなっている。女性では「テレビ（ニュース）」が 51.5%と最も高くなっている。

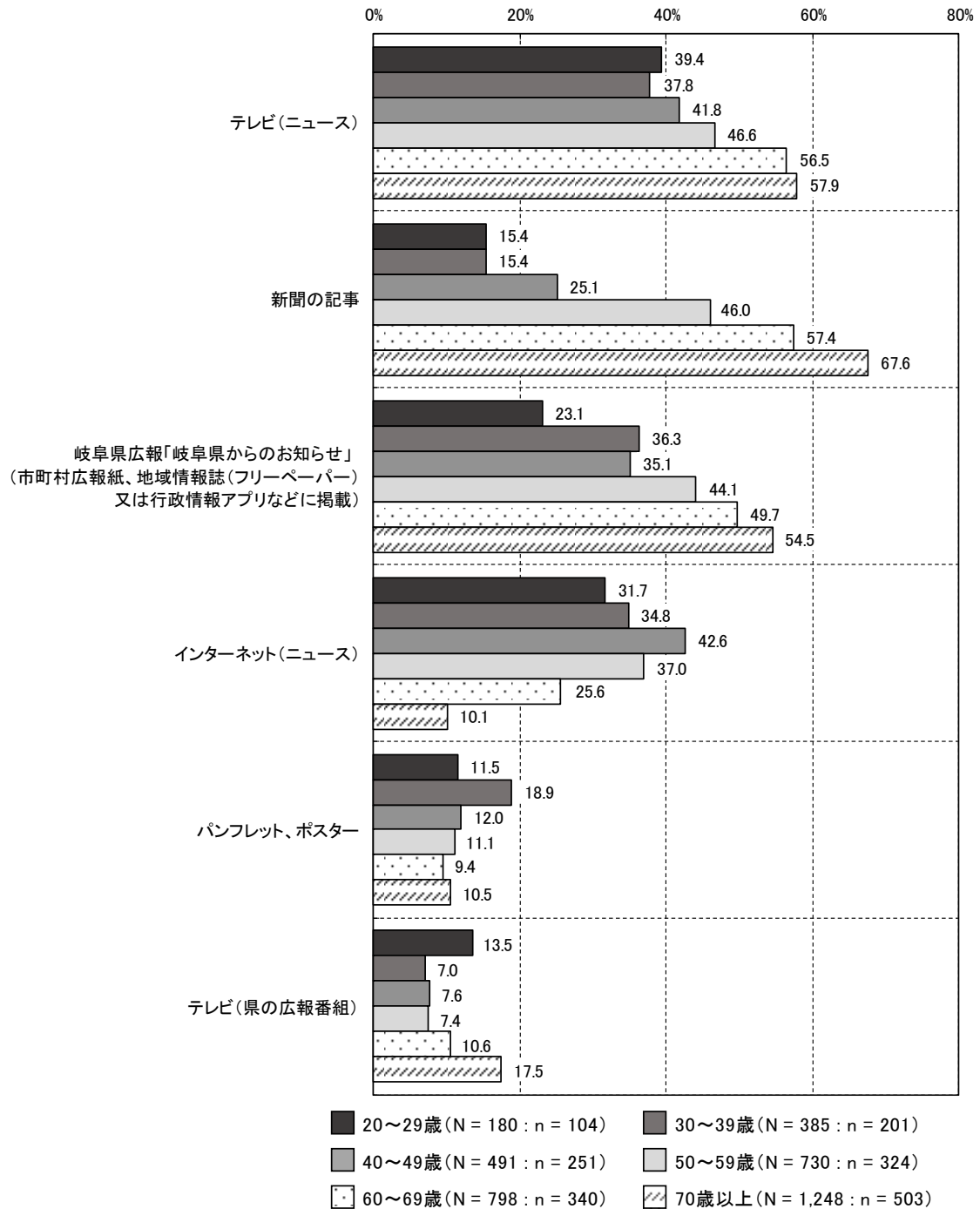
図 8-3 【性別】 施策や事業についての情報の入手方法



※ N=総回答数 n=回答者数

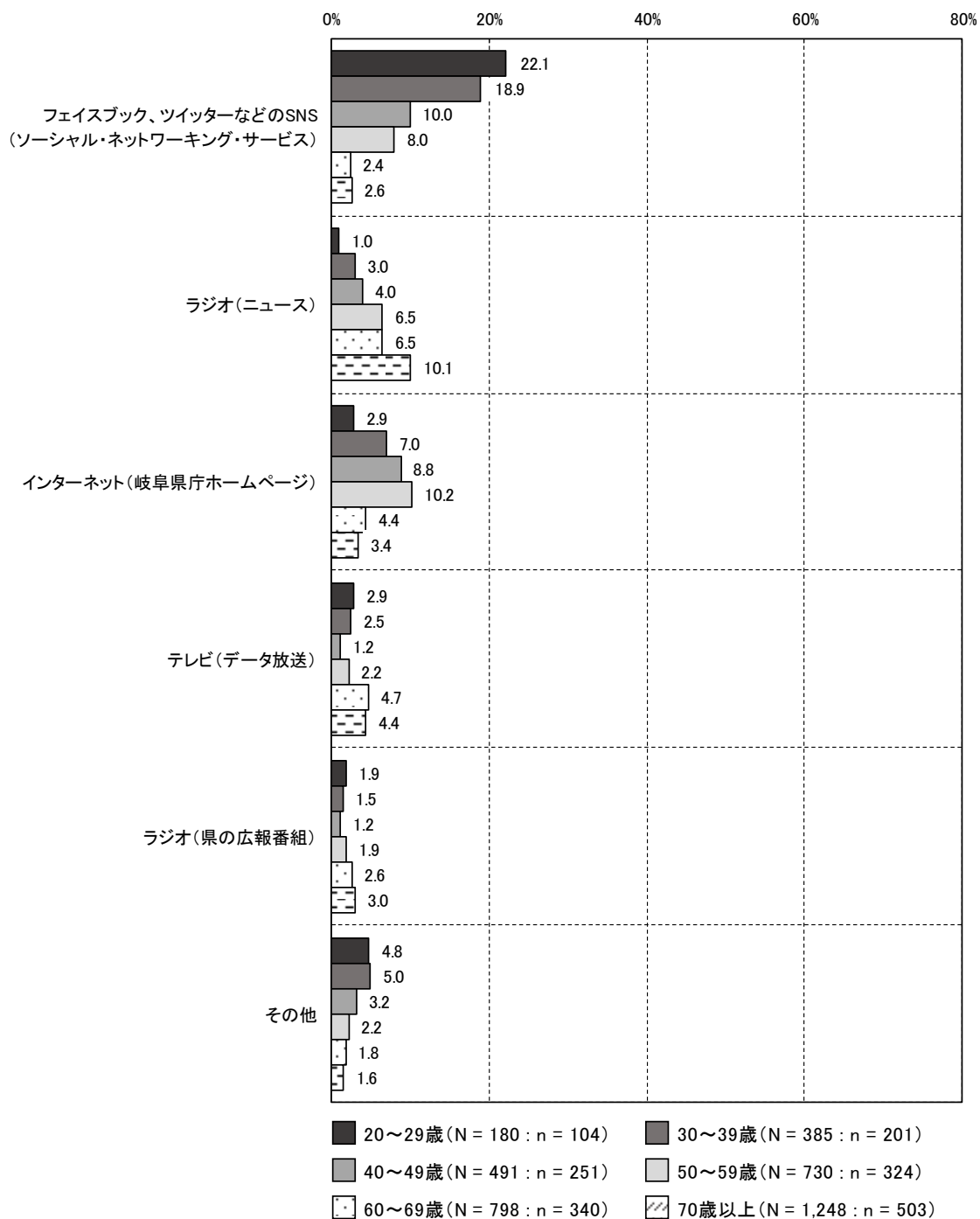
年代別（図8-4）で見ると、20歳代、30歳代、50歳代では「テレビ（ニュース）」、40歳代では「インターネット（ニュース）」、60歳代、70歳以上では「新聞の記事」が最も高くなっている。

図8-4【年代別】施策や事業についての情報の入手方法



※ N=総回答数 n=回答者数

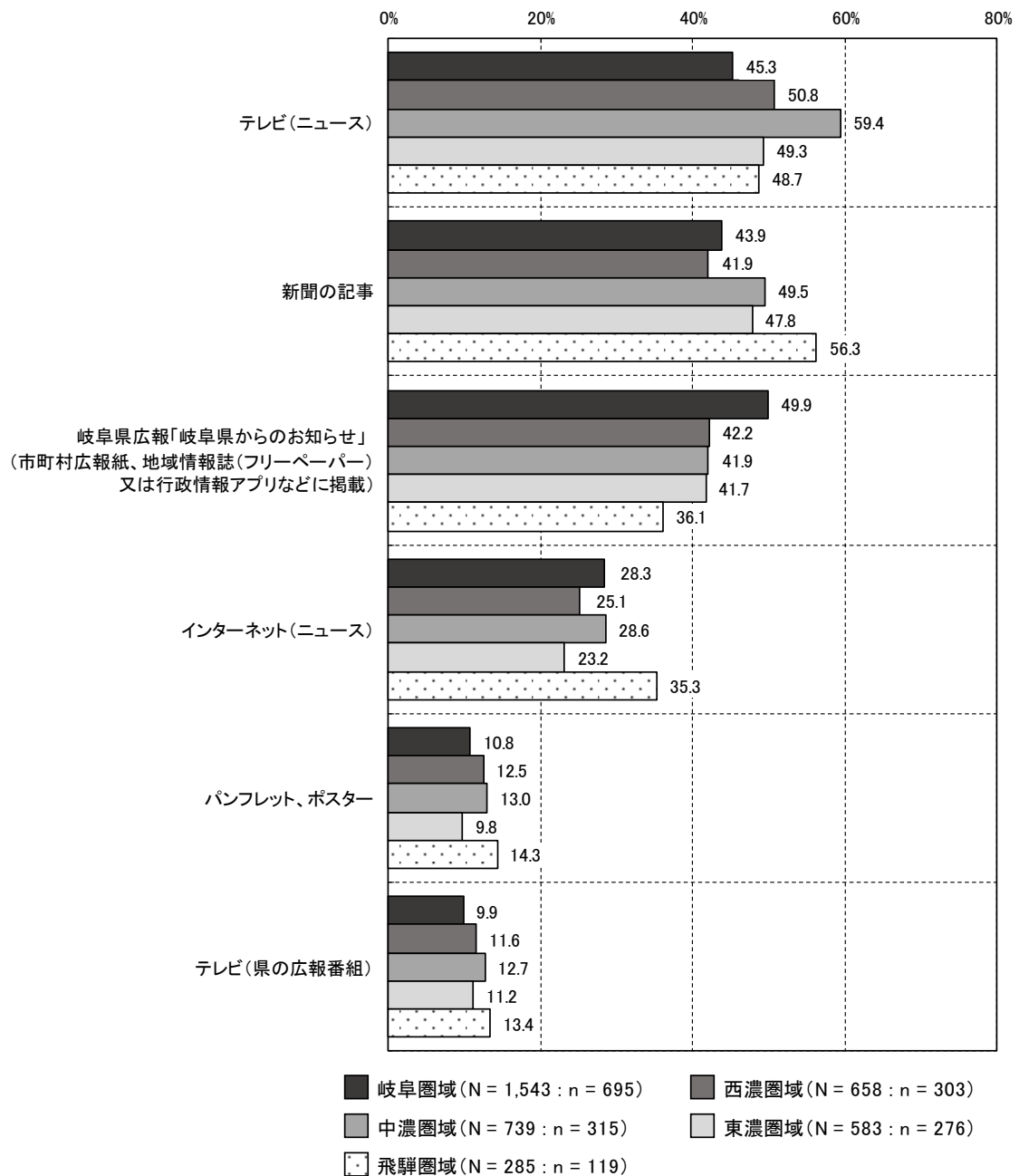
図 8-4 【年代別】 施策や事業についての情報の入手方法（続き）



※ N=総回答数 n=回答者数

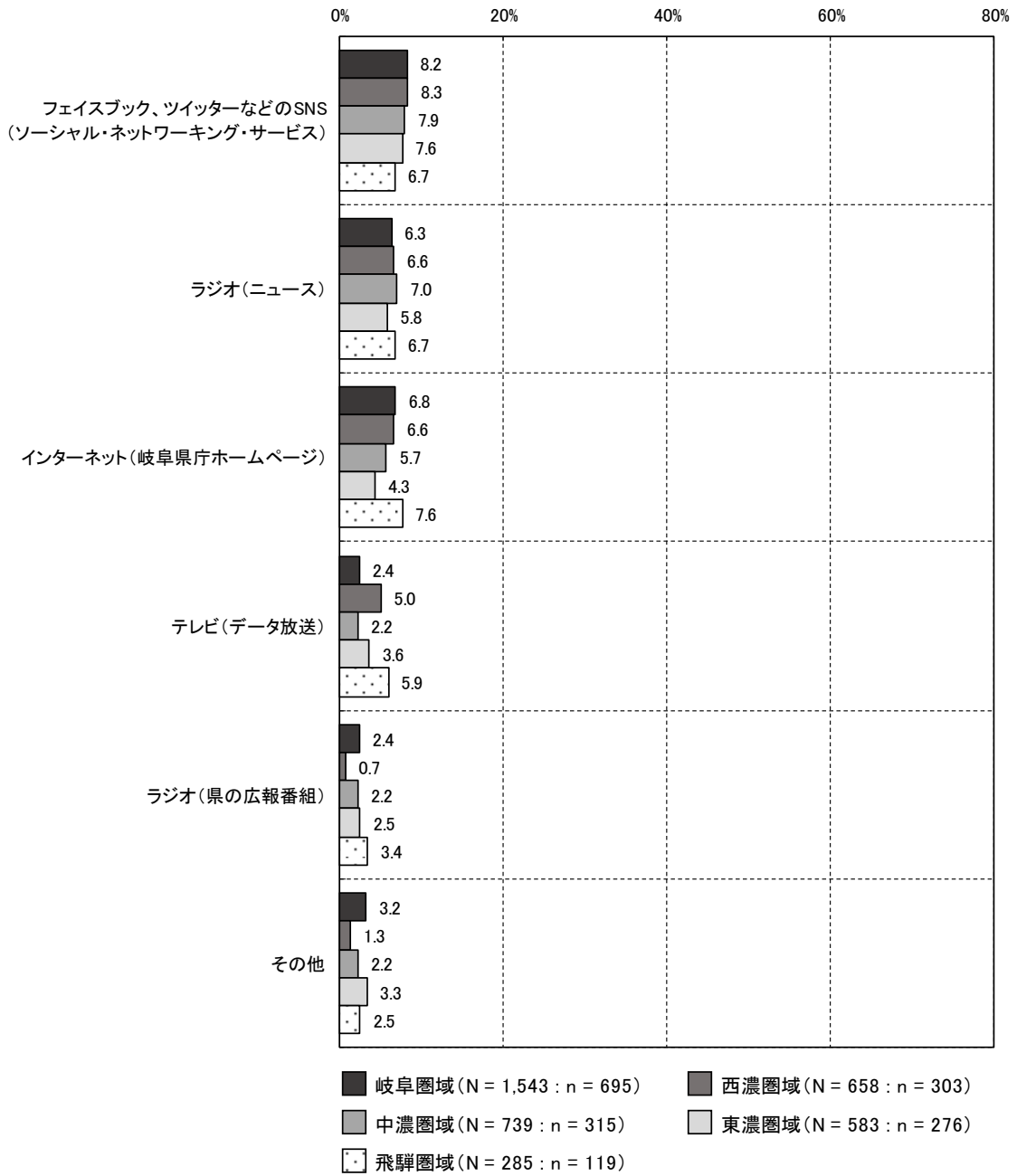
居住圏域別（図 8-5）で見ると、岐阜圏域では「岐阜県広報「岐阜県からのお知らせ」、西濃圏域、中濃圏域、東濃圏域では「テレビ（ニュース）」、飛騨圏域では「新聞の記事」が最も高くなっている。

図 8-5 【居住圏域別】 施策や事業についての情報の入手方法



※ N=総回答数 n=回答者数

図 8-5 【居住圏域別】 施策や事業についての情報の入手方法（続き）



N=総回答数 n=回答者数

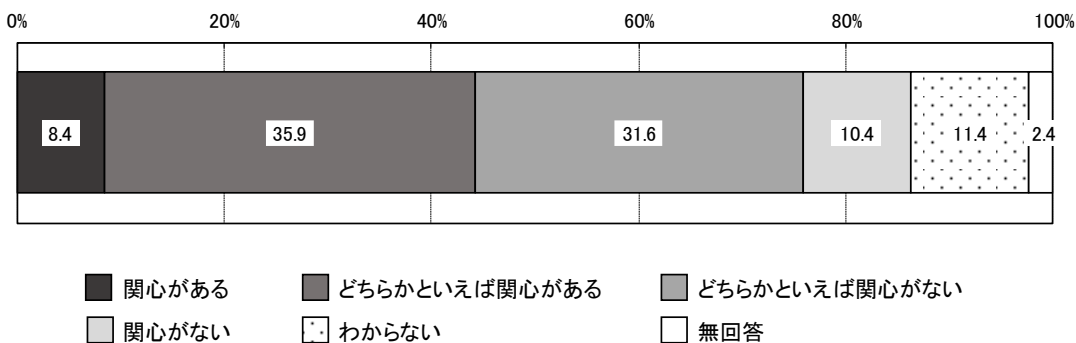
問9 県事業への関心の有無

問9 あなたは、岐阜県が行っている事業やその進め方について、関心をお持ちですか。
(1つだけ)

全体(図9-1)で見ると、「どちらかといえば関心がある」が35.9%と最も高く、次いで「どちらかといえば関心がない」(31.6%)、「関心がない」(10.4%)の順となっている。

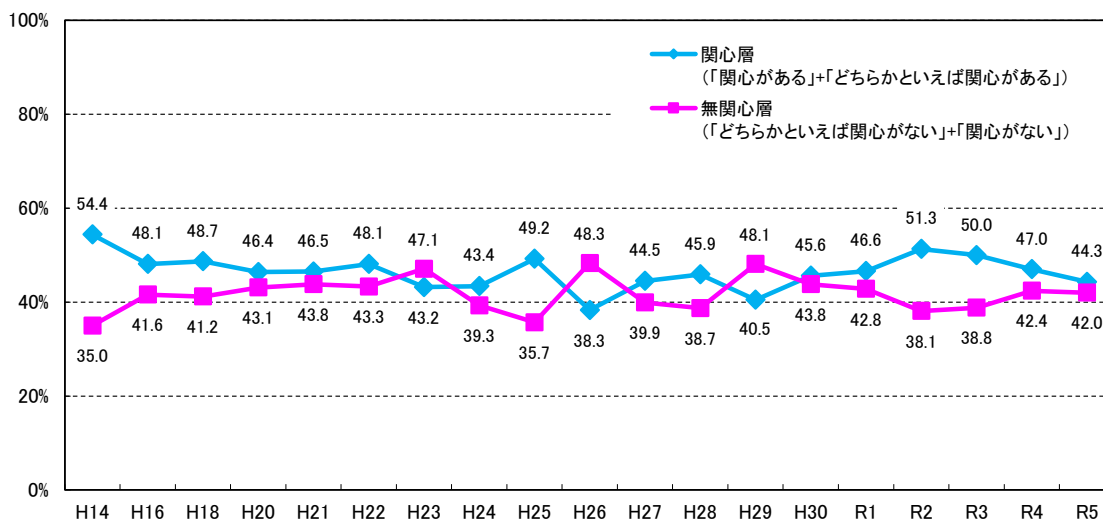
図9-1 県事業への関心の有無

回答者数(n = 1,758)



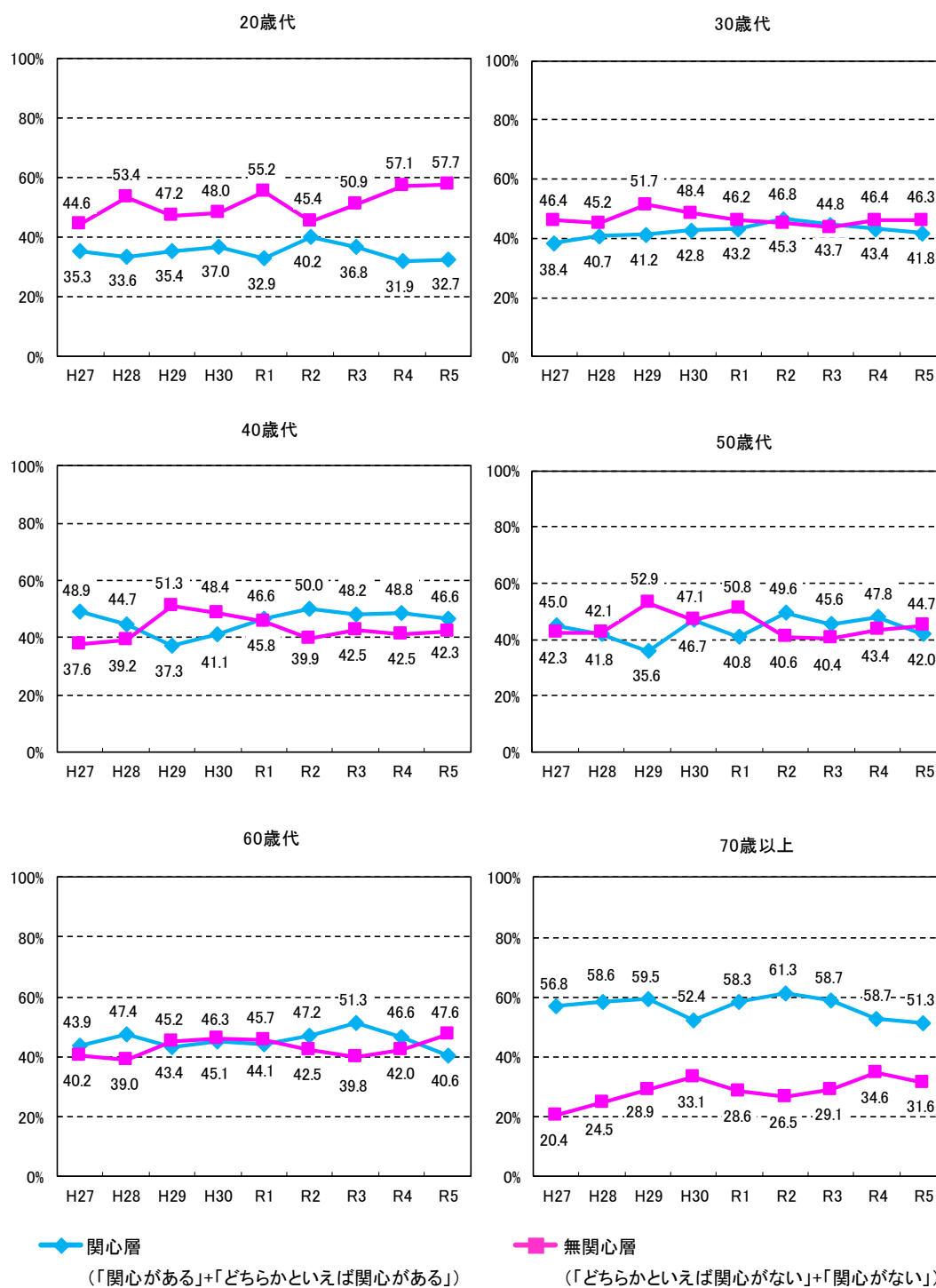
経年変化(図9-2)で見ると、令和5年は、前年より「関心層」(「関心がある」+「どちらかといえば関心がある」)が2.7ポイント減少し、「無関心層」(「どちらかといえば関心がない」+「関心がない」)が0.4ポイント減少しており、引き続き「関心層」が「無関心層」を上回っている。

図9-2【経年変化】県事業への関心の有無



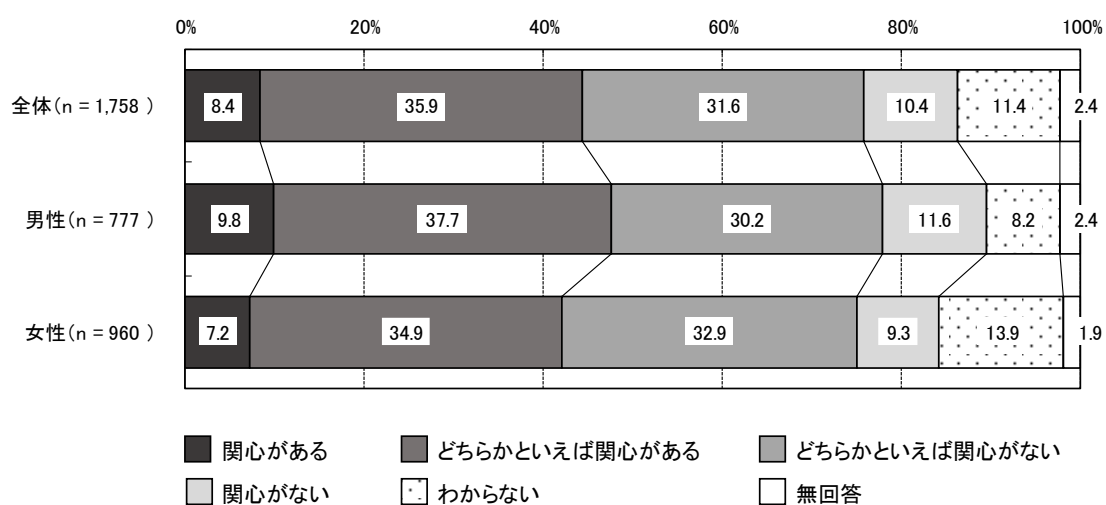
年代別の経年変化（図9-3）でみると、「関心層」において、20歳代では前年に比べて若干増加しているが、その他の年代においてはいずれも前年に比べて「関心層」が減少している。50歳代、60歳代では、前年に比べて「無関心層」と「関心層」が入れ替わった。70歳以上では一貫して「関心層」が「無関心層」より高くなっている。

図9-3 【経年変化(年代別)】 県事業への関心の有無



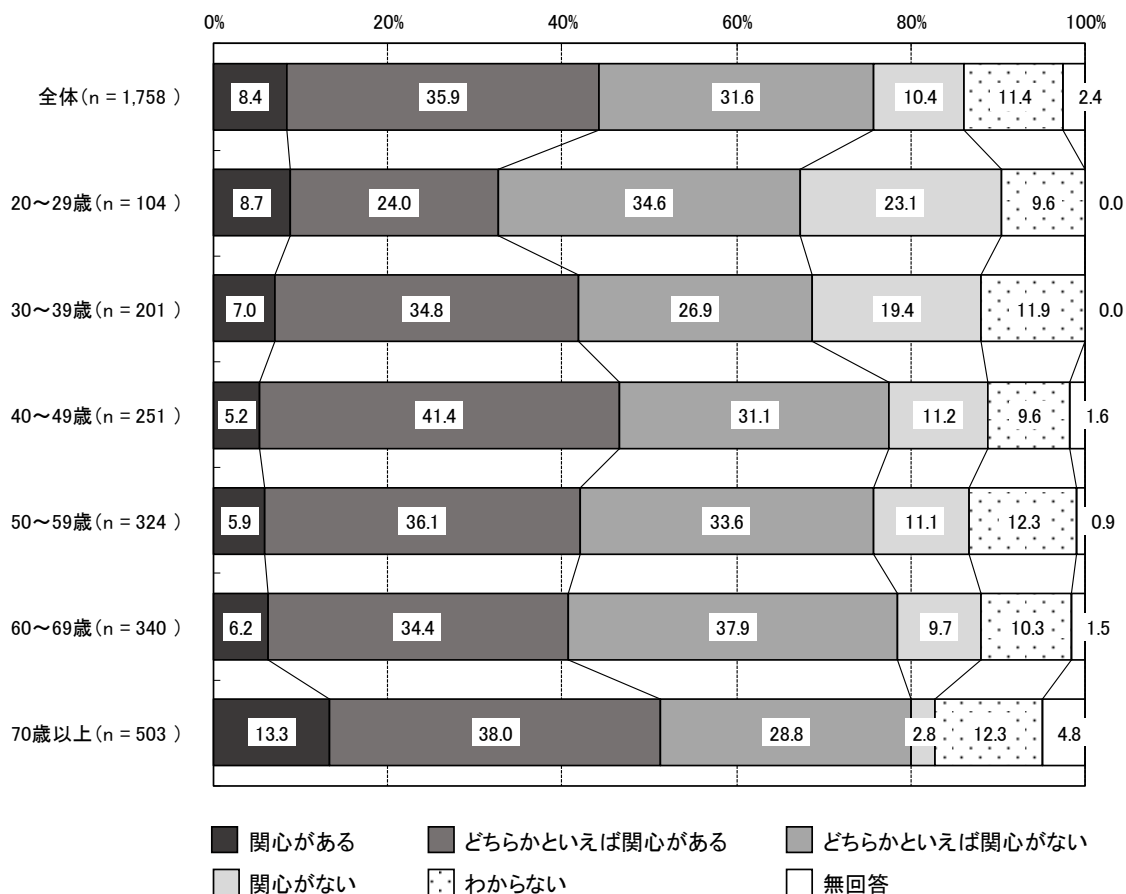
性別（図 9-4）でみると、男女ともに「どちらかといえば関心がある」が最も高くなっている。

図 9-4 【性別】 県事業への関心の有無



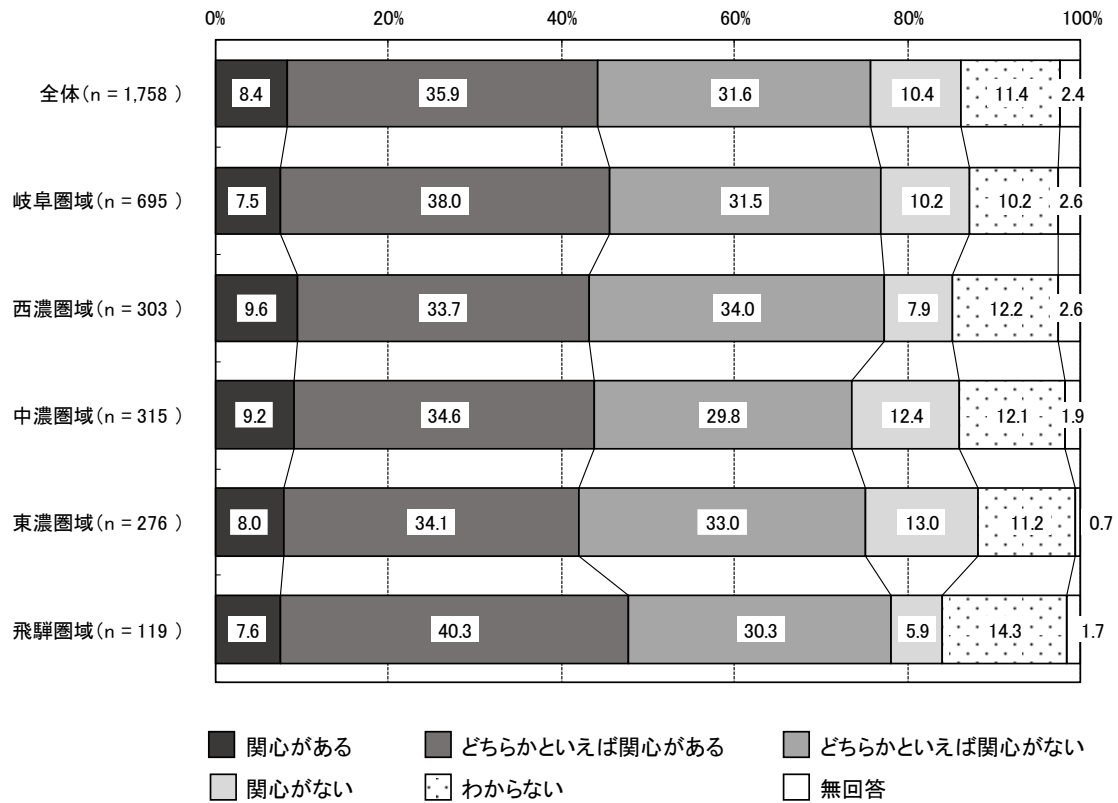
年代別（図 9-5）でみると、20 歳代、60 歳代を除くいずれの年代においても「どちらかといえば関心がある」が最も高くなっている。20 歳代、60 歳代では「どちらかといえば関心がない」が最も高くなっている。

図 9-5 【年代別】 県事業への関心の有無



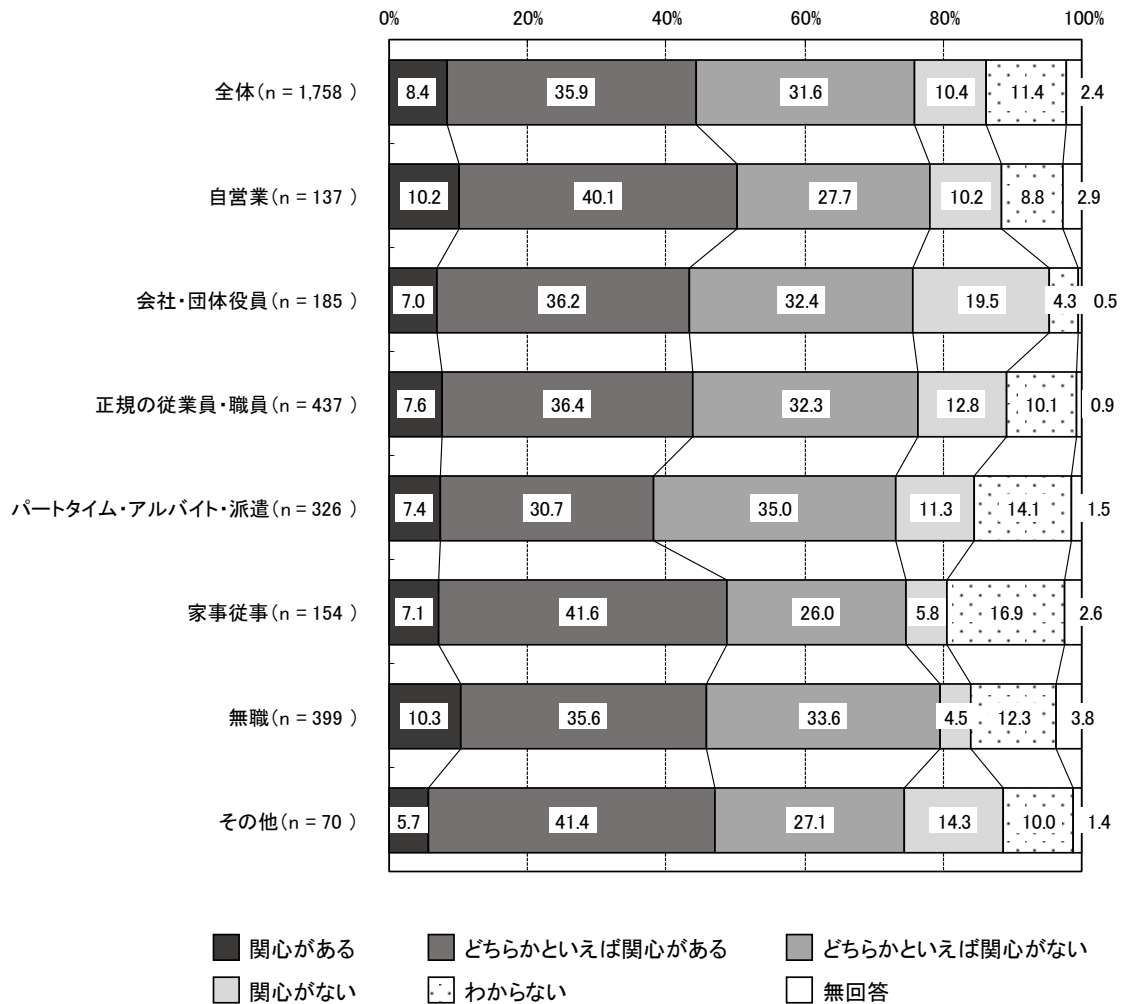
居住圏域別（図 9-6）で見ると、西濃圏域を除くいずれの圏域においても「どちらかといえば関心がある」が最も高く、西濃圏域では「どちらかといえば関心がない」が最も高くなっている。

図 9-6 【居住圏域別】 県事業への関心の有無



職業別（図 9-7）で見ると、パートタイム・アルバイト・派遣を除くいずれの職業においても「どちらかといえば関心がある」が最も高く、パートタイム・アルバイト・派遣では「どちらかといえば関心がない」が最も高くなっている。

図 9-7 【職業別】 県事業への関心の有無



※ その他には、自由業、学生を含む。

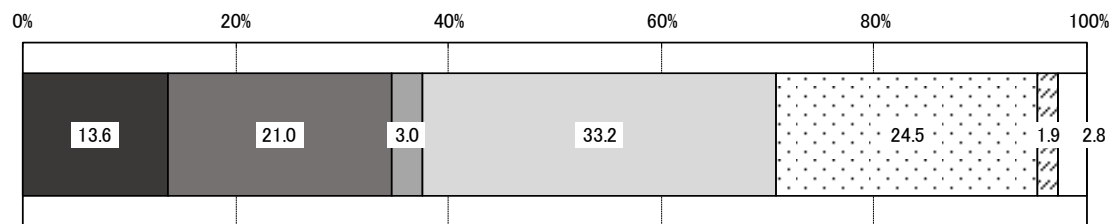
問9-2 県事業に関心がない理由

問9-2 「どちらかといえば関心がない」「関心がない」と答えた方にお尋ねします。
 あなたが、岐阜県が行っている事業やその進め方に関心がないのは、
 どのような理由からですか。（1つだけ）

全体（図9-2-1）でみると、「県の施設を利用したり、県の仕事に接する機会が少ないから」が33.2%と最も高く、次いで「自分たちの意見が反映されるとは思えないから」（24.5%）、「県がどのような仕事をしているのか知らないから」（21.0%）の順となっている。

図9-2-1 県事業に関心がない理由

回答者数(n = 738)※

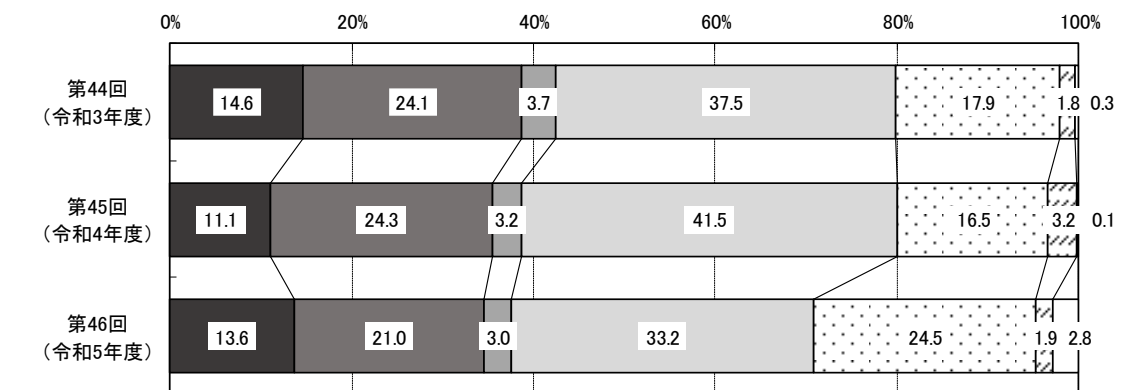


- 県の行政そのものに興味がないから
- 県がどのような仕事をしているのか知らないから
- 県の仕事は、自分に関係がないから
- 県の施設を利用したり、県の仕事に接する機会が少ないから
- 自分たちの意見が反映されるとは思えないから
- その他
- 無回答

※ 問9で「どちらかといえば関心がない」「関心がない」と答えた方のみ

前々回・前回比較（図9-2-2）でみると、令和5年は、前年より「自分たちの意見が反映されるとは思えないから」が8.0ポイント増加している。

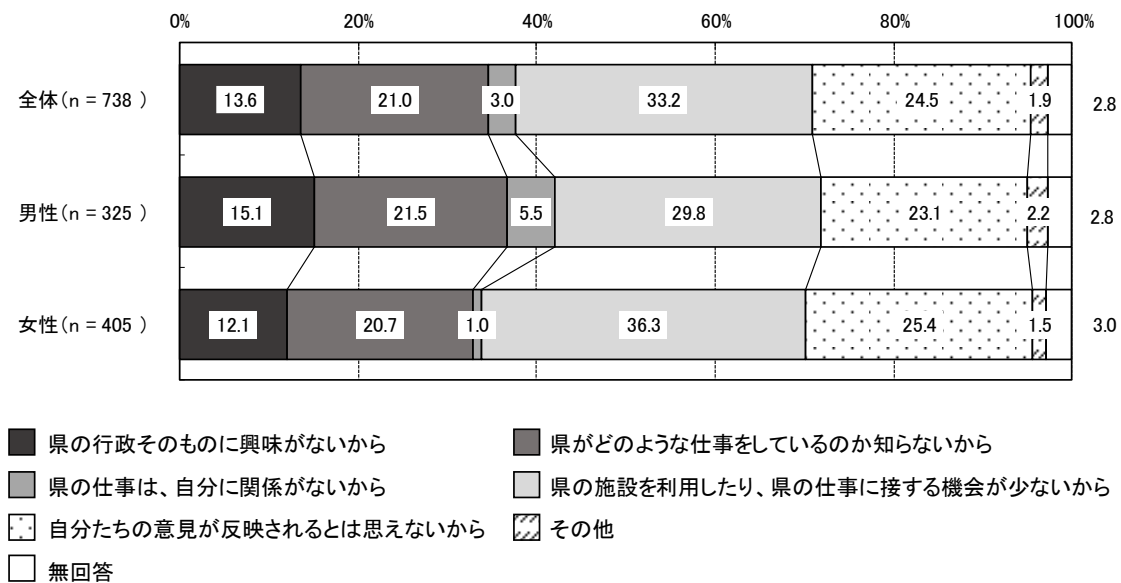
図9-2-2 【前々回・前回比較】 県事業に関心がない理由



- 県の行政そのものに興味がないから
- 県がどのような仕事をしているのか知らないから
- 県の仕事は、自分に関係がないから
- 県の施設を利用したり、県の仕事に接する機会が少ないから
- 自分たちの意見が反映されるとは思えないから
- その他
- 無回答

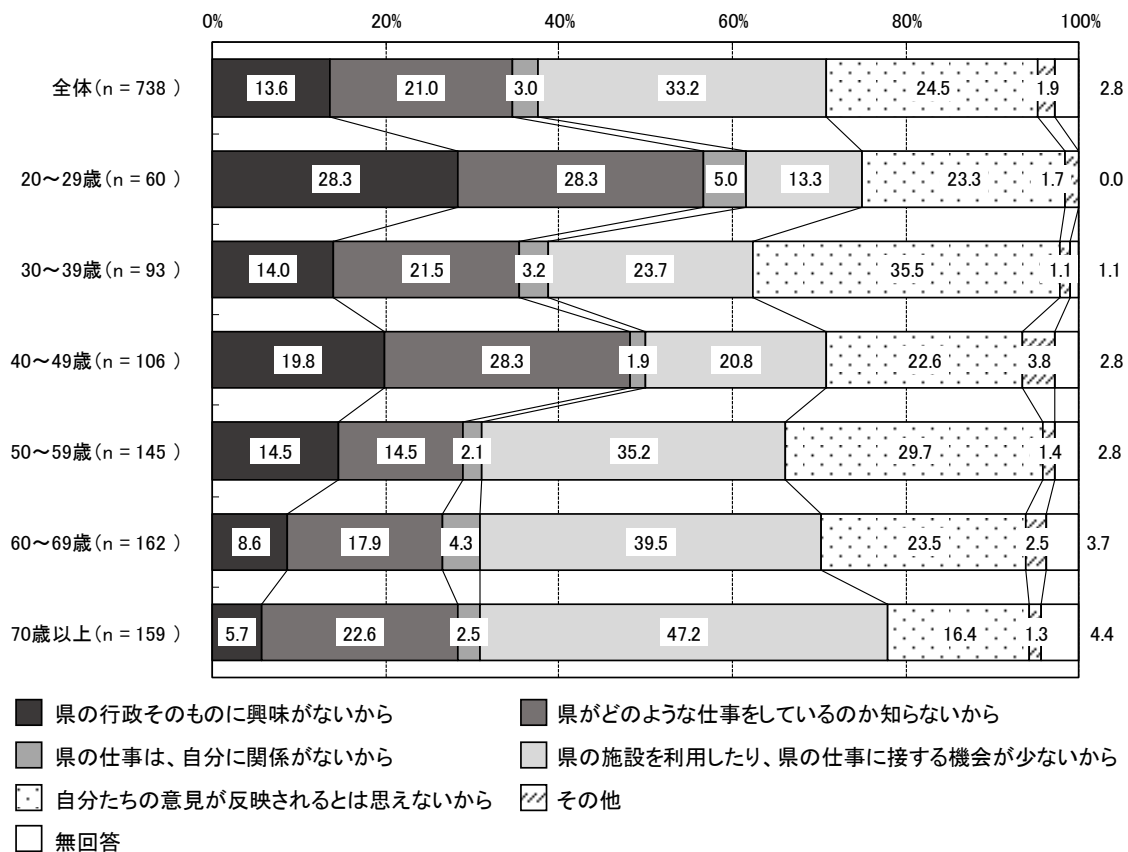
性別（図 9-2-3）で見ると、男女ともに「県の施設を利用したり、県の仕事に接する機会が少ないから」が最も高く、女性が男性より 6.5 ポイント高くなっている。

図 9-2-3 【性別】 県事業に関心がない理由



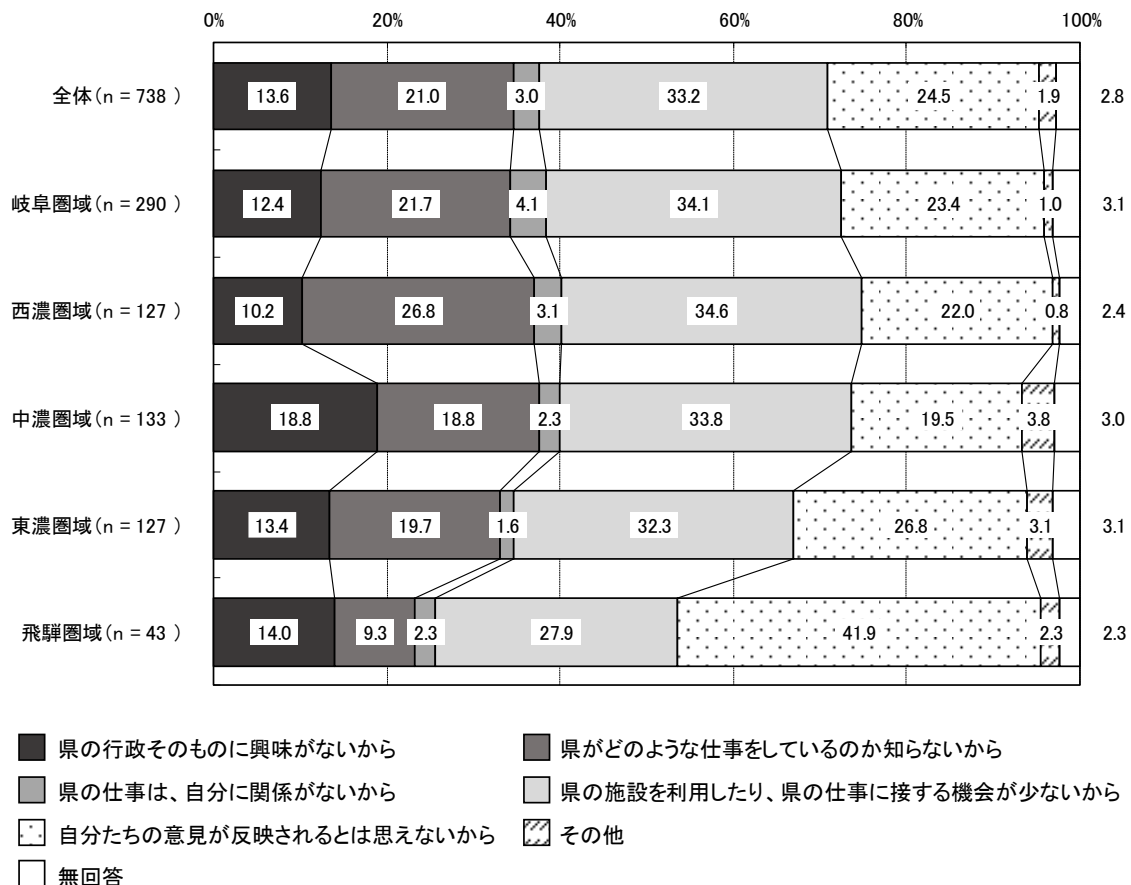
年代別（図 9-2-4）で見ると、20 歳代、40 歳代では「県がどのような仕事をしているのか知らないから」（20 歳代では「県の行政そのものに興味がないから」が同率）、30 歳代では「自分たちの意見が反映されるとは思えないから」、50 歳代、60 歳代、70 歳以上では「県の施設を利用したり、県の仕事に接する機会が少ないから」が最も高くなっている。

図 9-2-4 【年代別】 県事業に関心がない理由



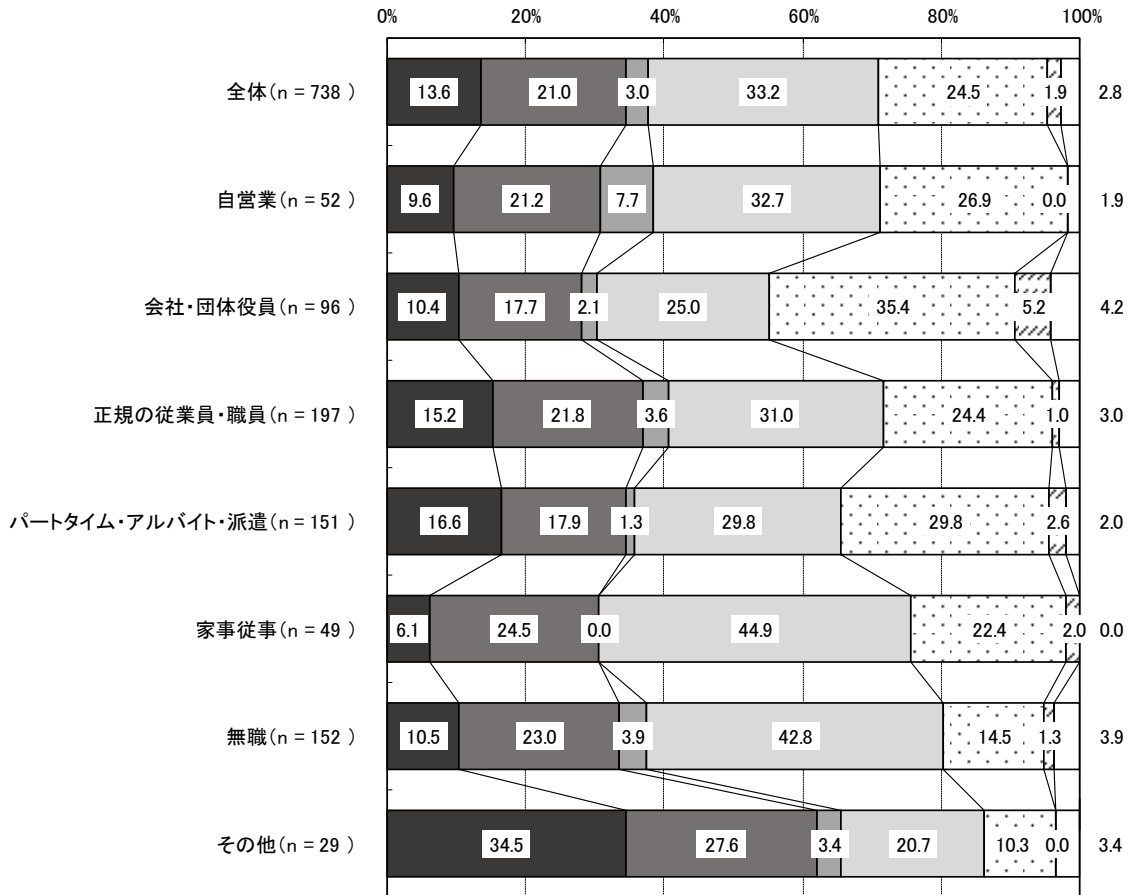
居住圏域別（図 9-2-5）で見ると、飛騨圏域を除くいずれの居住圏域においても「県の施設を利用したり、県の仕事に接する機会が少ないから」が最も高く、飛騨圏域では「自分たちの意見が反映されるとは思えないから」が最も高くなっている。

図 9-2-5 【居住圏域別】 県事業に関心がない理由



職業別（図 9-2-6）でみると、会社・団体役員、その他を除くいずれの職業においても「県の施設を利用したり、県の仕事に接する機会が少ないから」が最も高くなっている（パートタイム・アルバイト・派遣では「自分たちの意見が反映されるとは思えないから」が 29.8%と同率）。会社・団体役員では「自分たちの意見が反映されるとは思えないから」が最も高くなっている。

図 9-2-6 【職業別】 県事業に関心がない理由



- 県の行政そのものに興味がないから
- 県がどのような仕事をしているのか知らないから
- 県の仕事は、自分に関係がないから
- 県の施設を利用したり、県の仕事に接する機会が少ないから
- 自分たちの意見が反映されるとは思えないから
- その他
- 無回答

※ その他には、自由業、学生を含む。

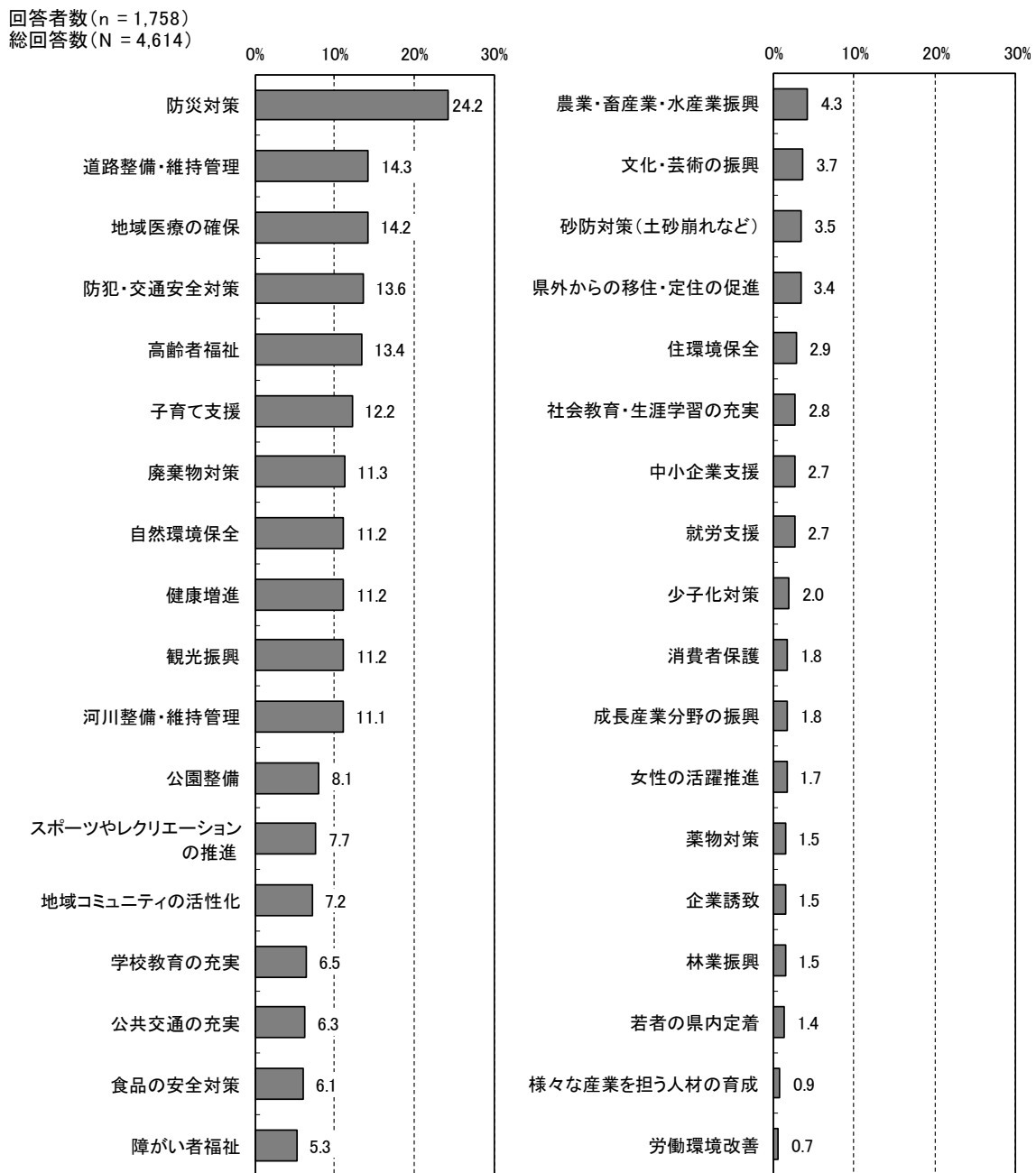
問10 県の取組でよくやっていると思う分野、努力が足りないと思う分野

問10 あなたが、県の取組についてよくやっていると思うのは、どの分野ですか。
また、努力が足りないと思うのは、どの分野ですか。（それぞれ5つまで）

【県の取組でよくやっていると思う分野】

全体（図10-1）でみると、「防災対策」が24.2%と最も高く、次いで「道路整備・維持管理」（14.3%）、「地域医療の確保」（14.2%）の順となっている。

図10-1 県の取組でよくやっていると思う分野



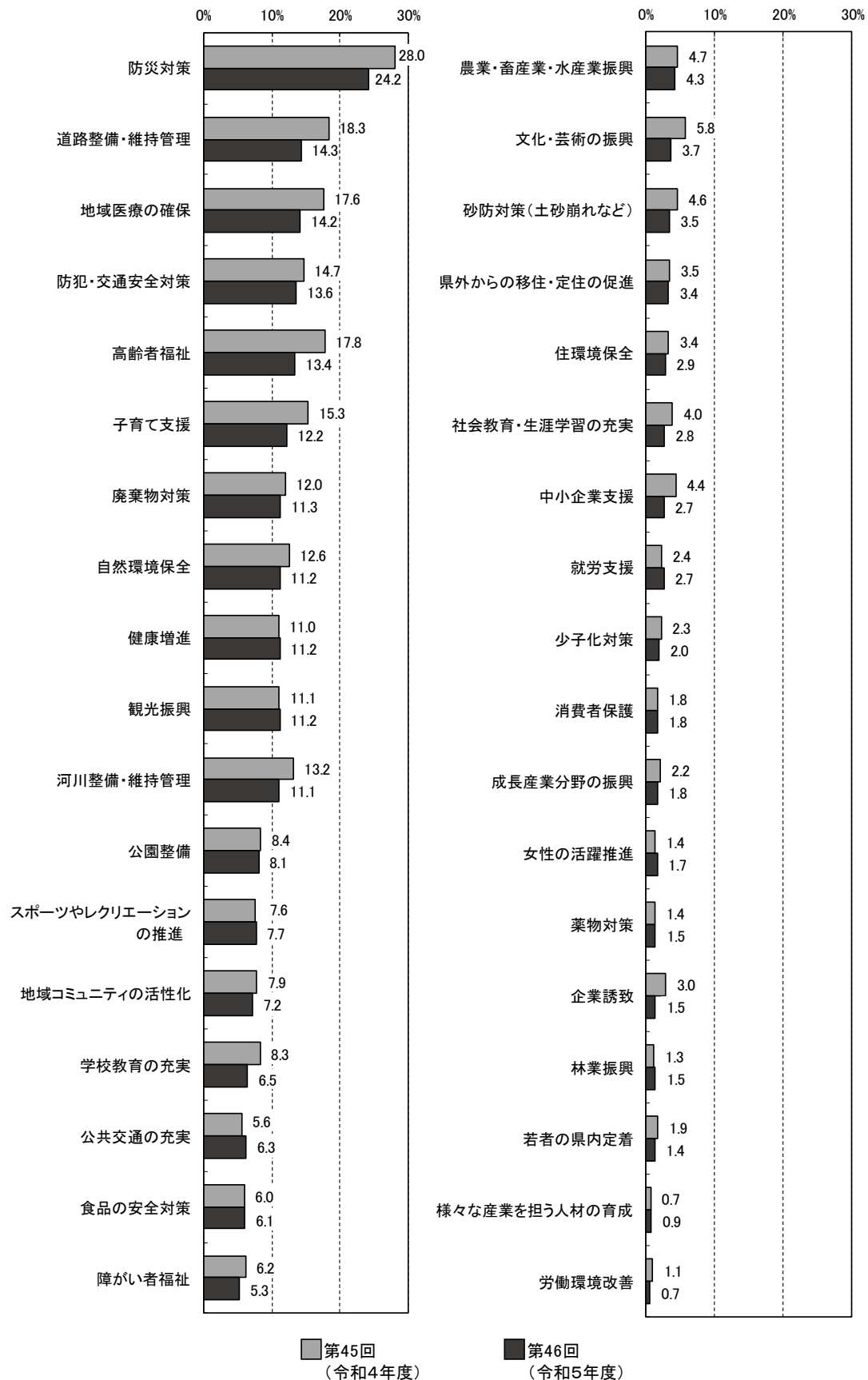
※ 成長産業: 岐阜県においては、航空宇宙、医療福祉機器、医薬品、食料品、次世代エネルギーを位置づけている。(令和5年度現在)

※ 本問における選択肢は、図表の構成上、以下のとおり略して表示しているものがある。

・住環境保全: 騒音・振動・大気・土壌対策などの住環境保全

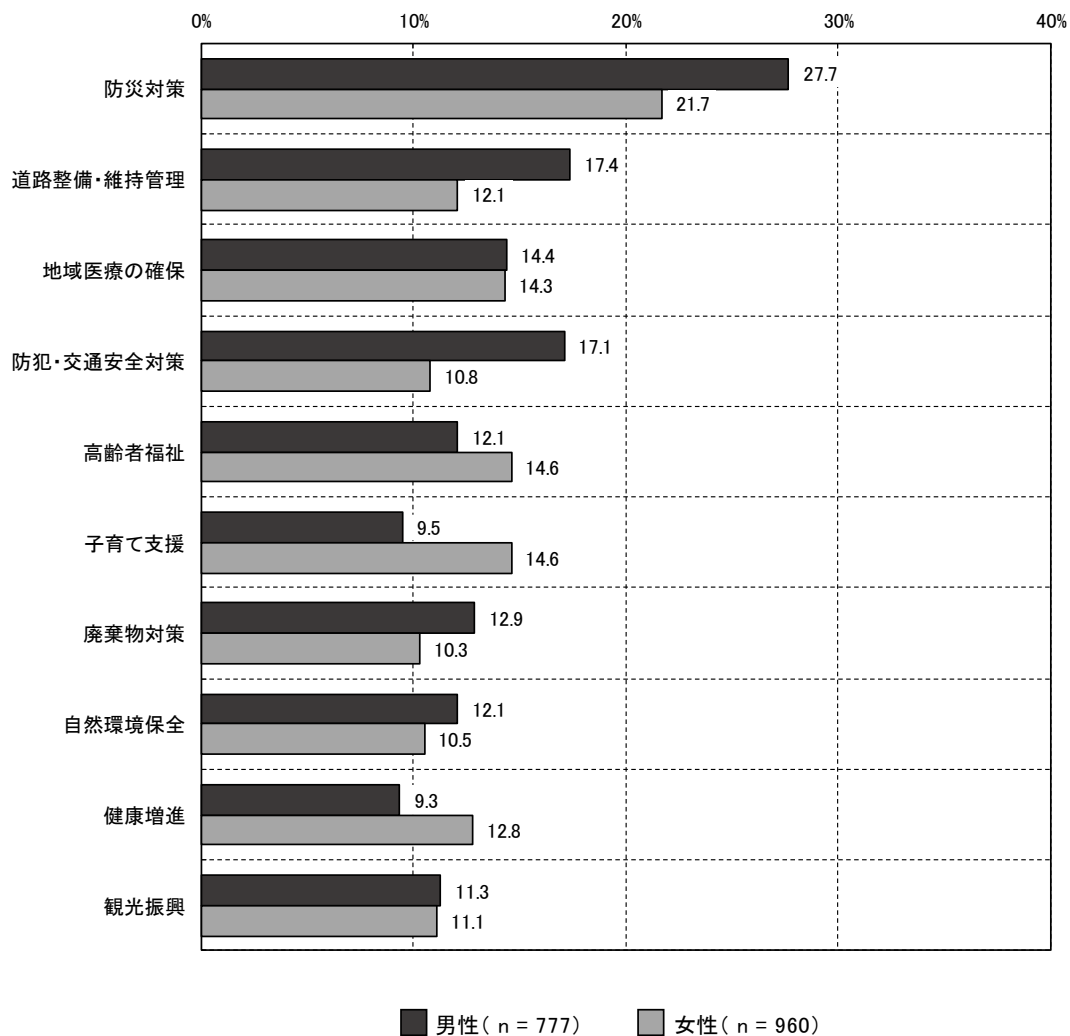
前回比較（図 10-2）で見ると、前回に続き「防災対策」が最も高く、次いで「道路整備・維持管理」となっている。前回第 4 位の「地域医療の確保」は第 3 位となっている。

図 10-2 【前回比較】県の取組でよくやっていると思う分野



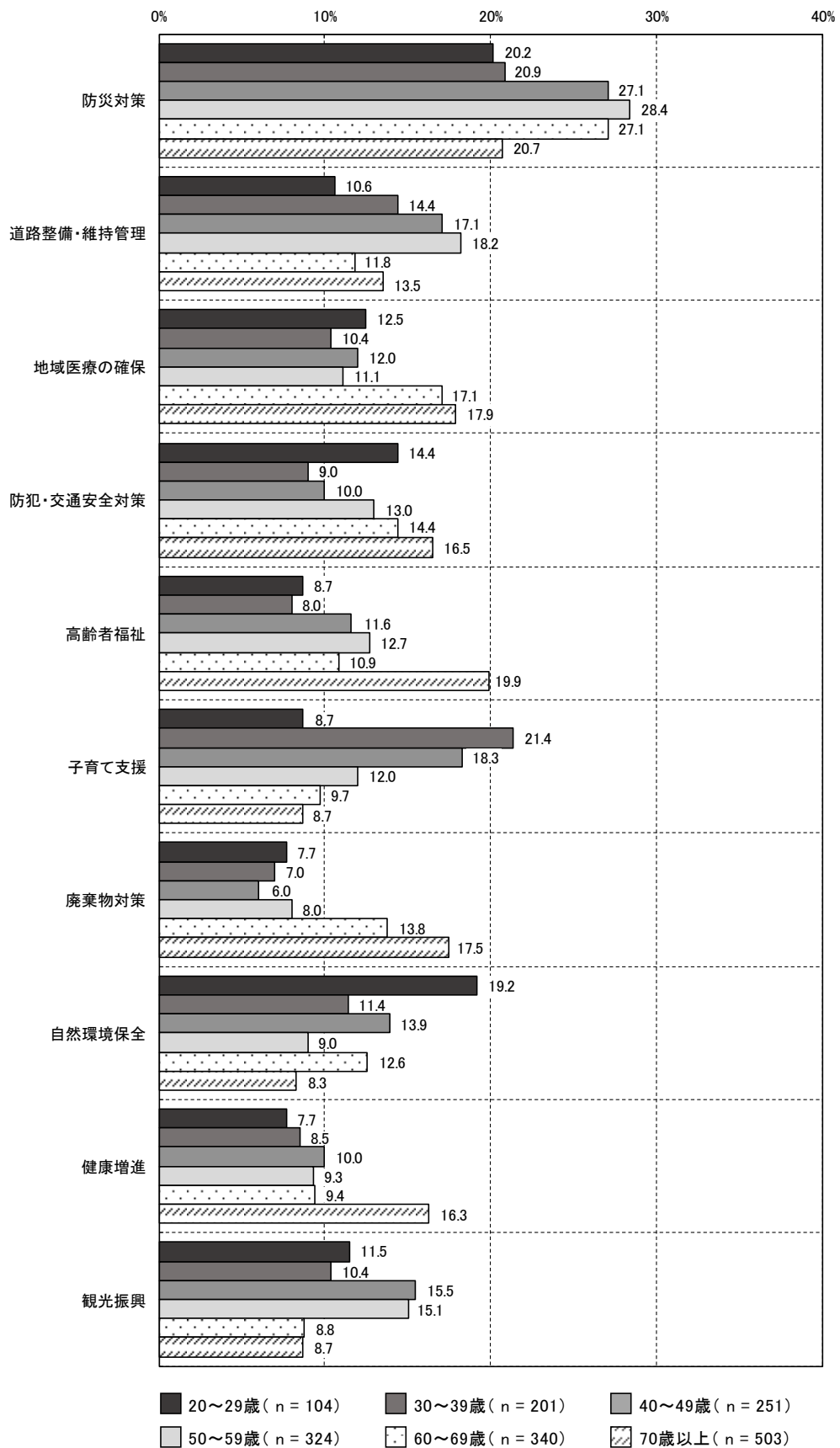
性別（図 10-3）で見ると、男女ともに「防災対策」が最も高く、次いで、男性では「道路整備・維持管理」が 17.4%、女性では「高齢者福祉」「子育て支援」がともに 14.6%となっている。

図 10-3 【性別】 県の取組でよくやっていると思う分野(上位 10 施策)



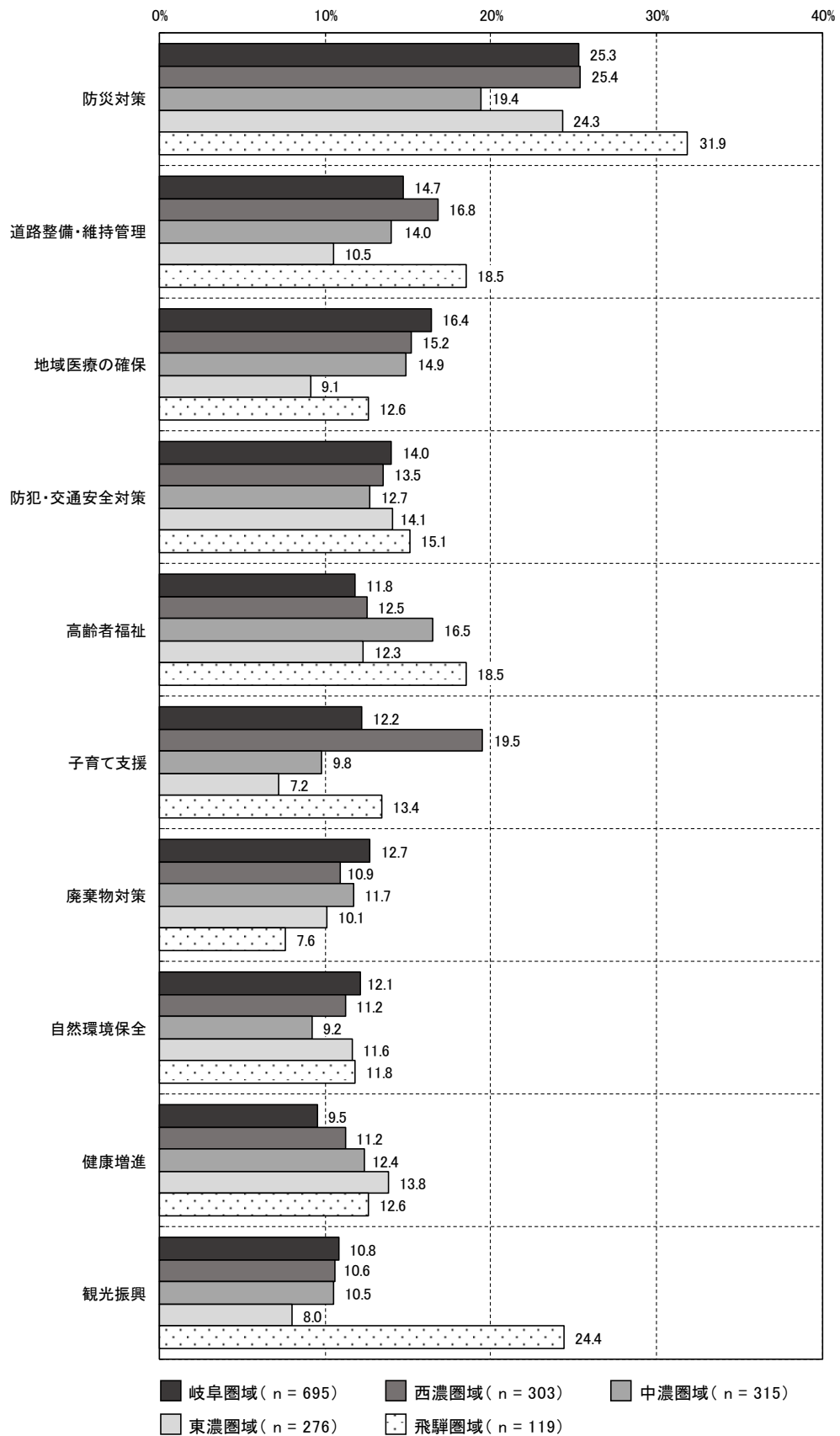
年代別（図 10-4）で見ると、30 歳代を除くすべての年代で「防災対策」が最も高く、30 歳代では「子育て支援」が最も高くなっている。

図 10-4 【年代別】 県の取組でよくやっていると思う分野(上位 10 施策)



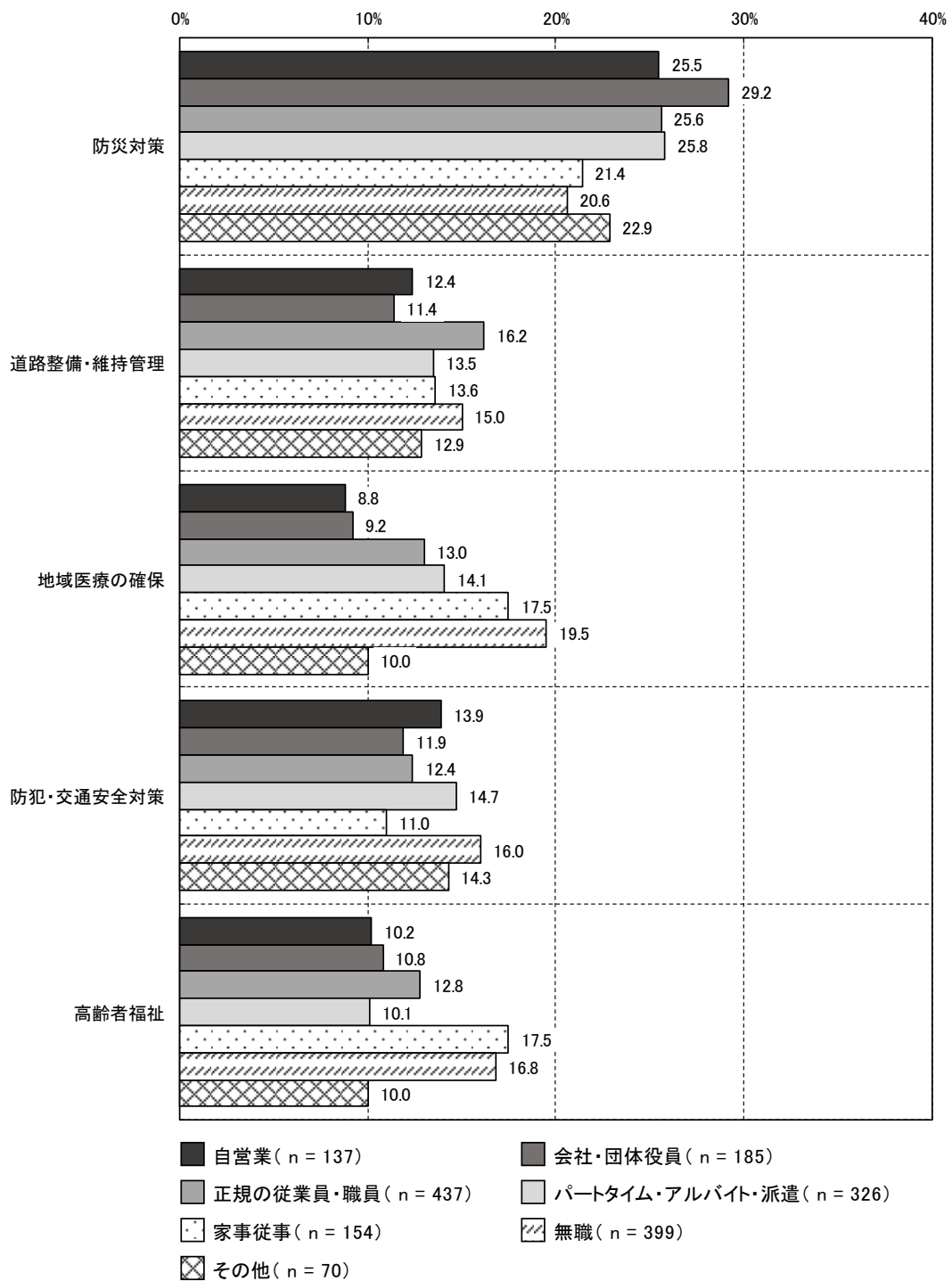
居住圏域別（図 10-5）で見ると、いずれの居住圏域においても「防災対策」が最も高くなっている。飛騨圏域では「観光振興」が24.4%と、他の圏域に比べて高くなっている。

図 10-5 【居住圏域別】 県の取組でよくやっていると思う分野(上位 10 施策)



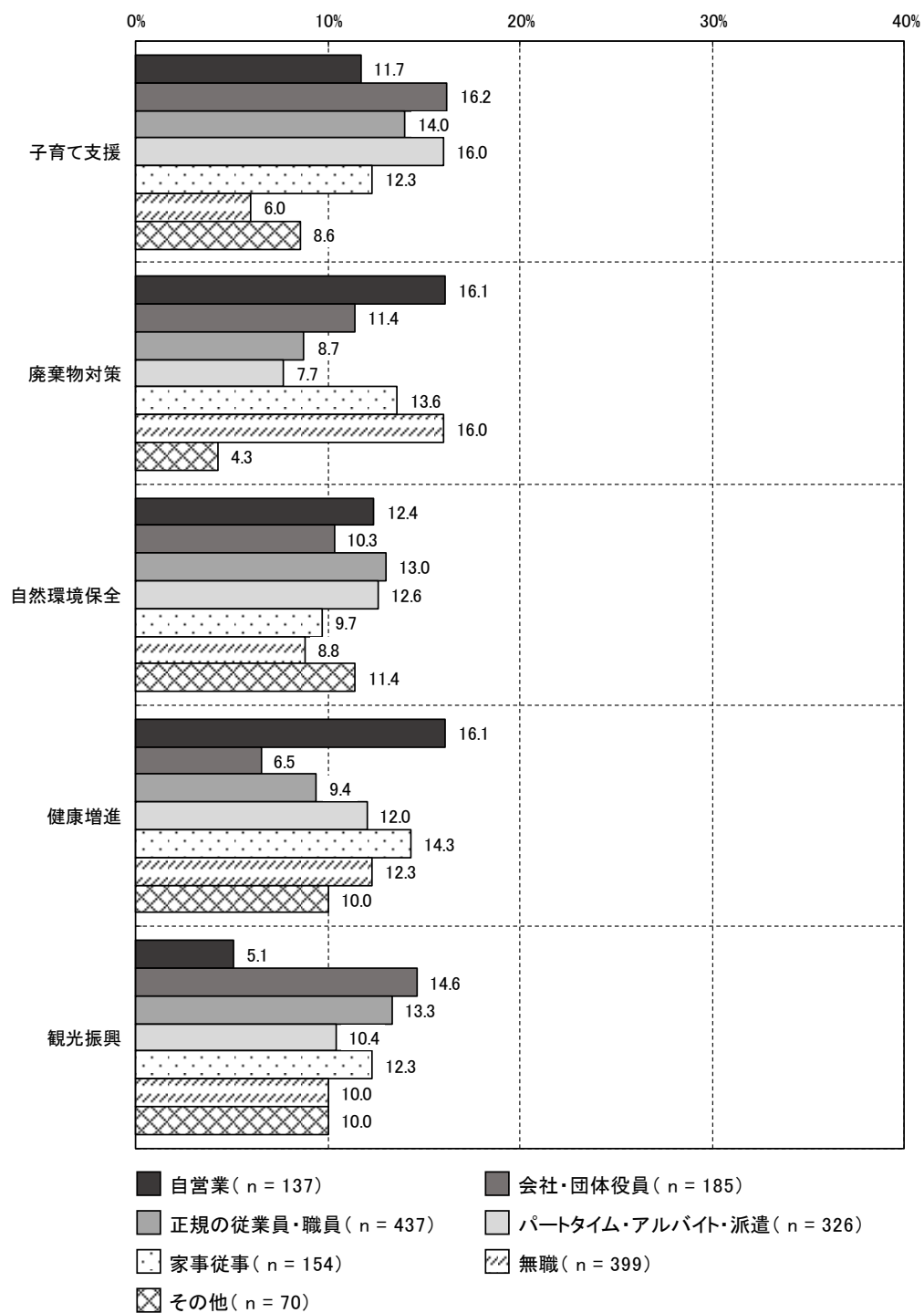
職業別（図 10-6）でみると、いずれの職業においても「防災対策」が最も高くなっている。

図 10-6 【職業別】 県の取組でよくやっていると思う分野（上位 10 施策）



※ その他には、自由業、学生を含む。

図 10-6 【職業別】 県の取組でよくやっていると思う分野(上位 10 施策) (続き)

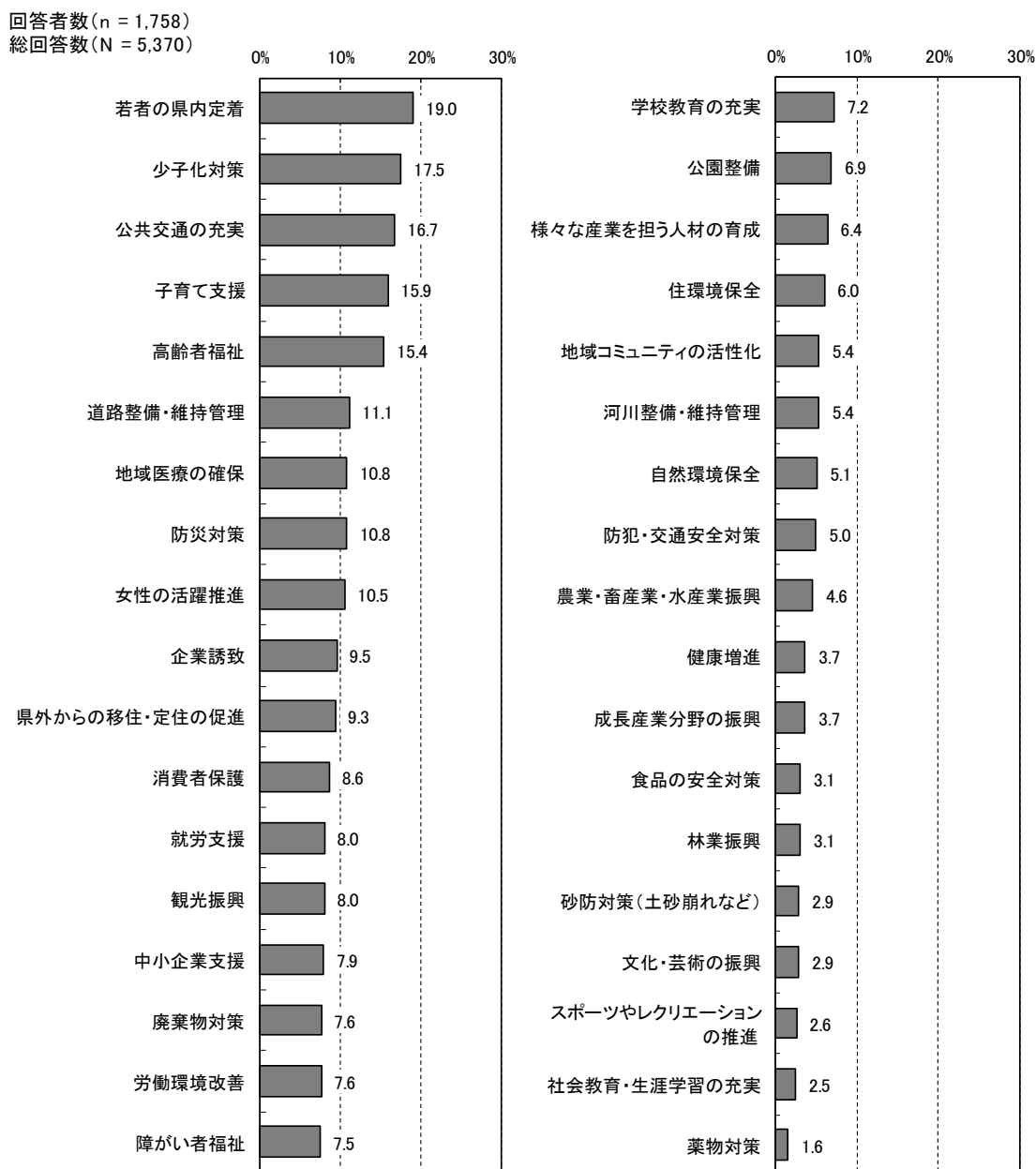


※ その他には、自由業、学生を含む。

【県の取組で努力が足りないと思う分野】

全体（図 10-2-1）で見ると、「若者の県内定着」が 19.0%と最も高く、次いで「少子化対策」（17.5%）、「公共交通の充実」（16.7%）の順となっている。

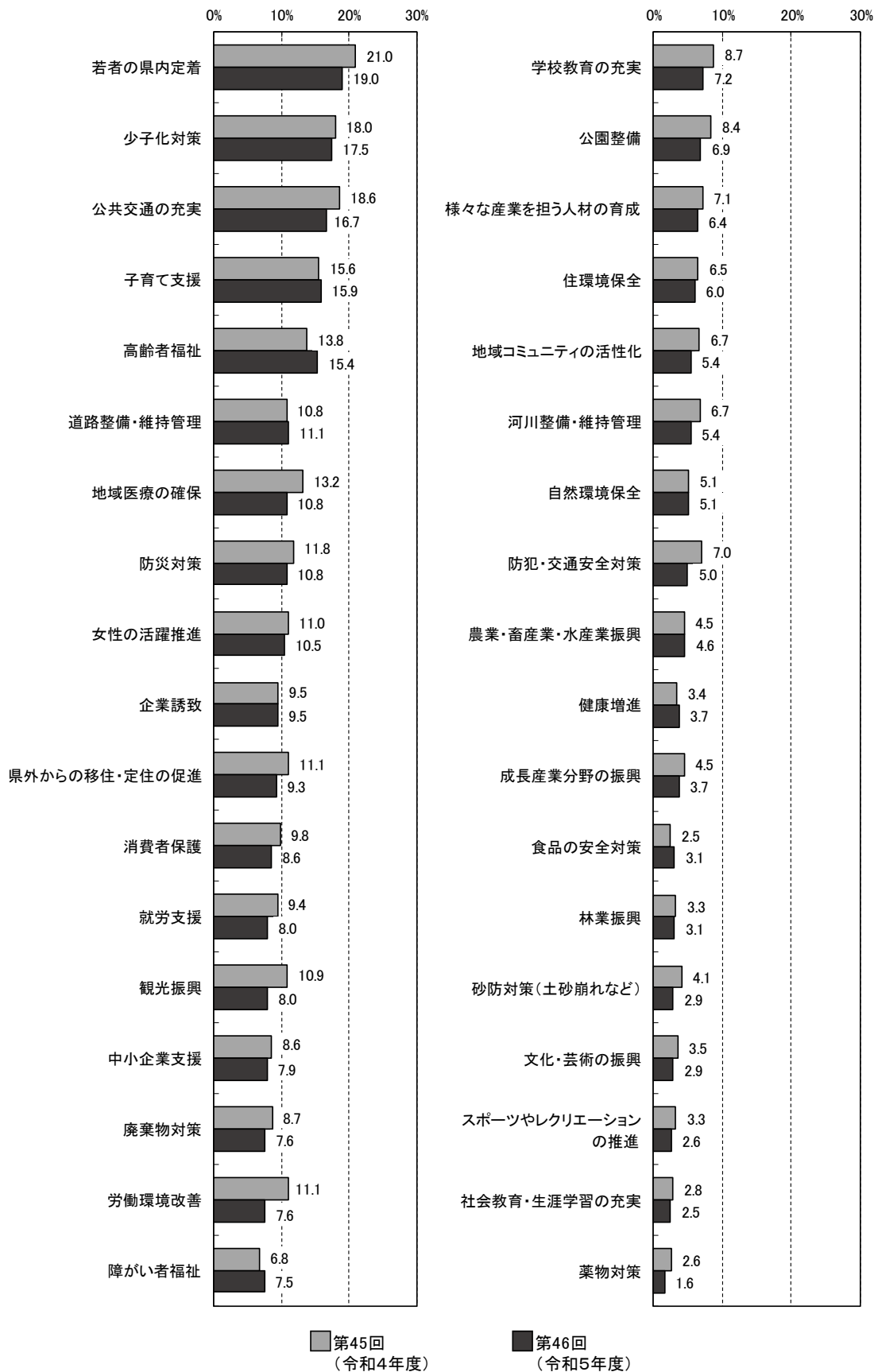
図 10-2-1 県の取組で努力が足りないと思う分野



※ 本問における選択肢は、図表の構成上、以下のとおり略して表示しているものがある。
・住環境保全: 騒音・振動・大気・土壌対策などの住環境保全

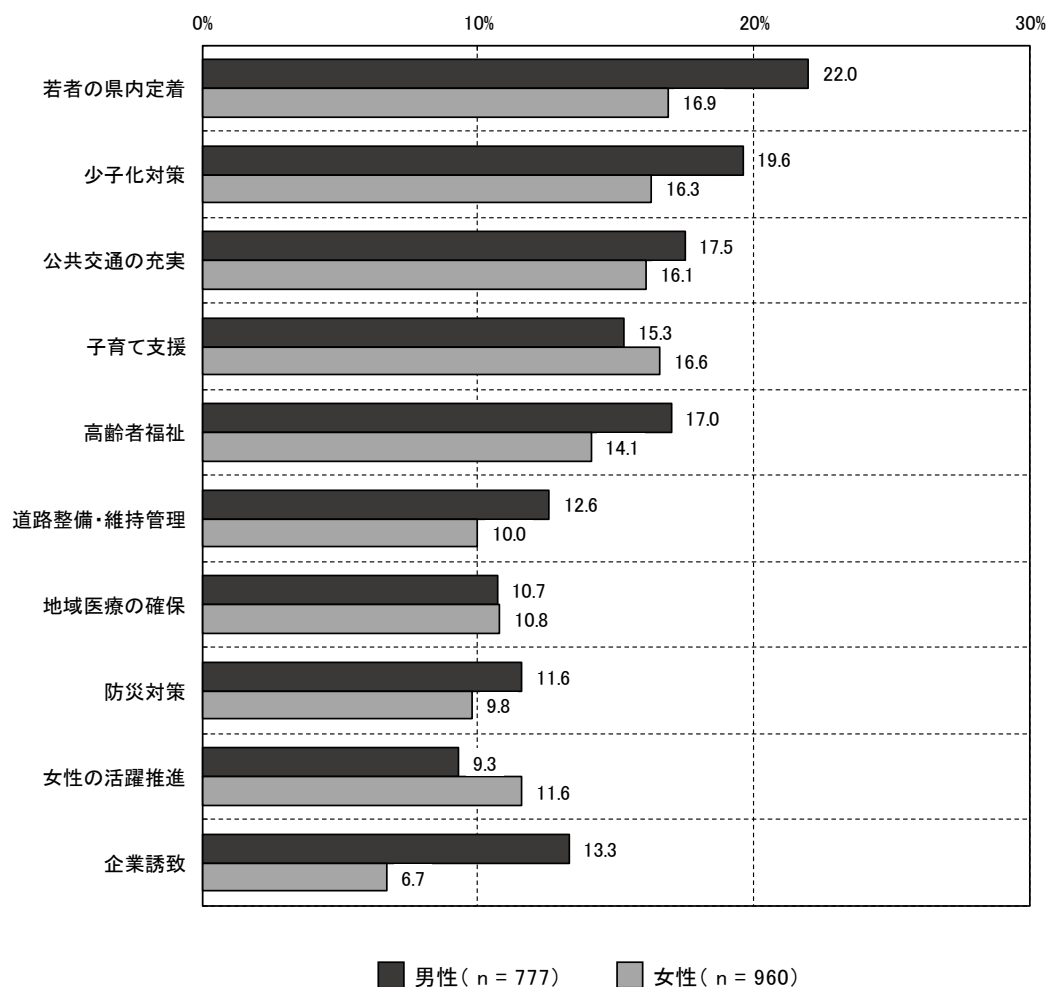
前回比較（図 10-2-2）でみると、前回・今回と一貫して「若者の県内定着」が最も高くなっている。

図 10-2-2 【前回比較】県の取組で努力が足りないと思う分野



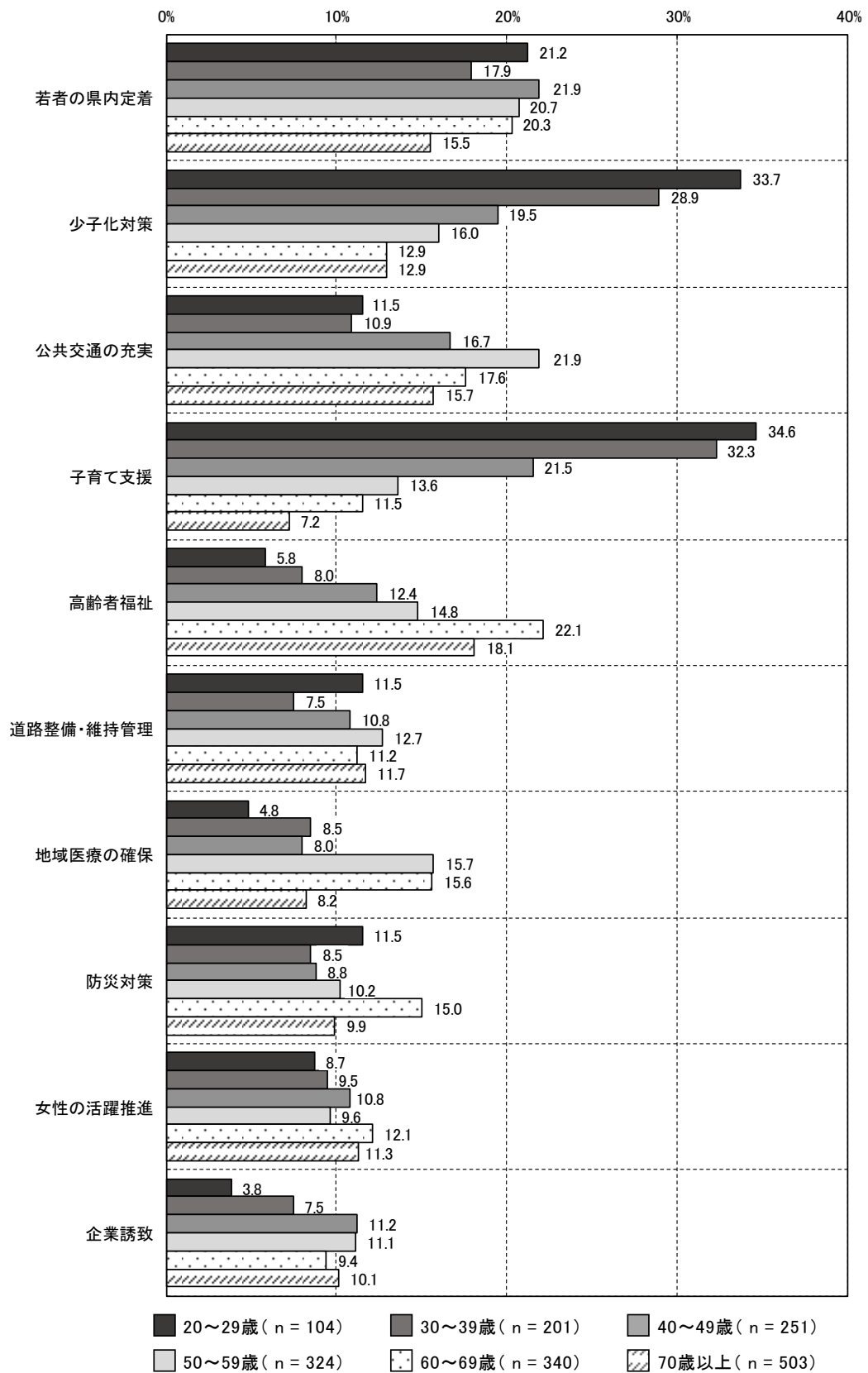
性別（図 10-2-3）で見ると、男女ともに「若者の県内定着」が最も高く、次いで、男性では「少子化対策」、「公共交通の充実」、女性では「子育て支援」、「少子化対策」の順となっている。

図 10-2-3 【性別】 県の取組で努力が足りないと思う分野(上位 10 施策)



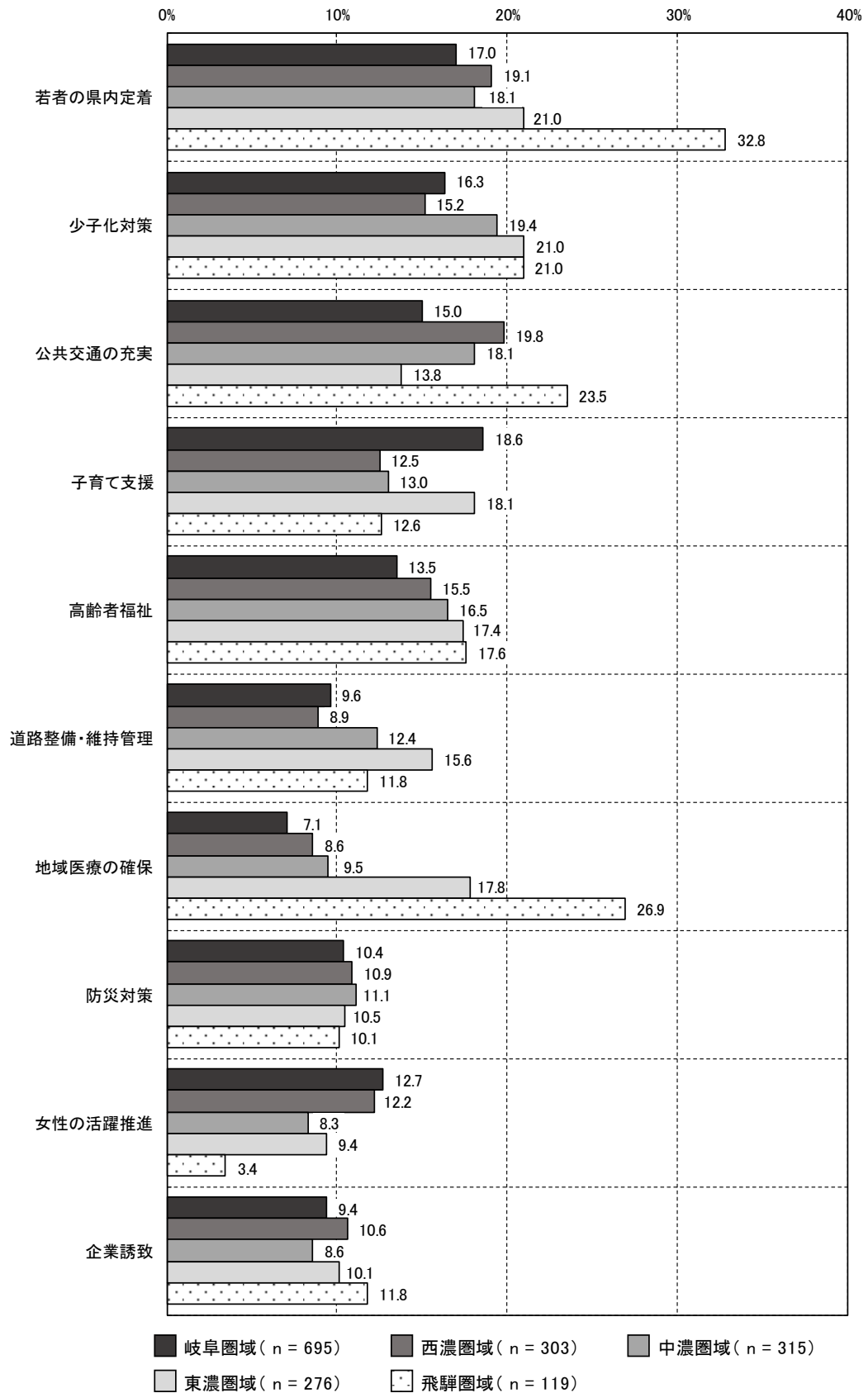
年代別（図 10-2-4）で見ると、20 歳代、30 歳代では「子育て支援」、40 歳代では「若者の県内定着」、50 歳代では「公共交通の充実」、60 歳代、70 歳以上では「高齢者福祉」が最も高くなっている。

図 10-2-4 【年代別】 県の取組で努力が足りないと思う分野(上位 10 施策)



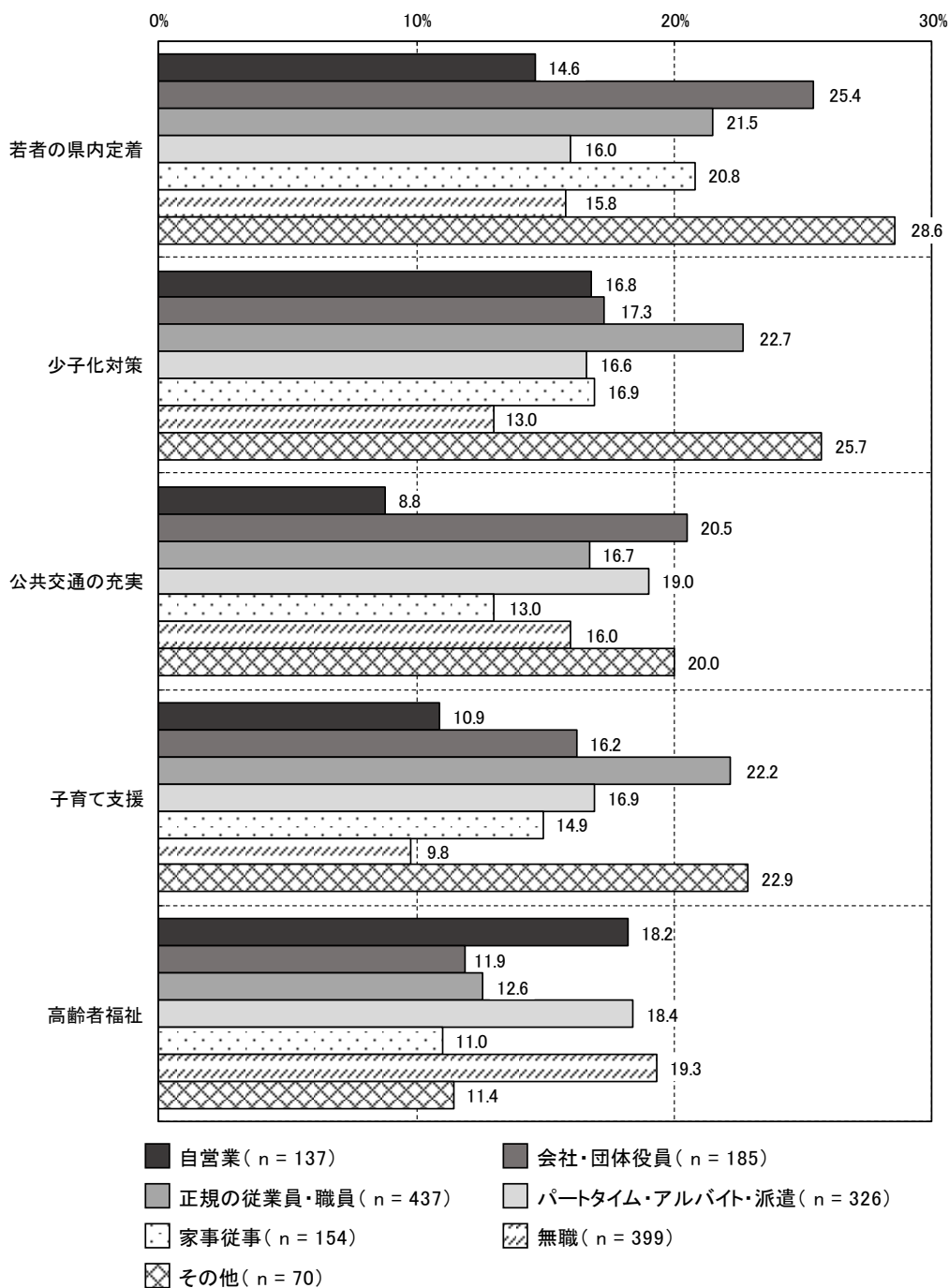
居住圏域別（図 10-2-5）でみると、岐阜圏域では「子育て支援」、西濃圏域では「公共交通の充実」、中濃圏域では「少子化対策」、東濃圏域では「若者の県内定着」「少子化対策」、飛騨圏域では「若者の県内定着」が最も高くなっている。

図 10-2-5 【居住圏域別】 県の取組で努力が足りないと思う分野(上位 10 施策)



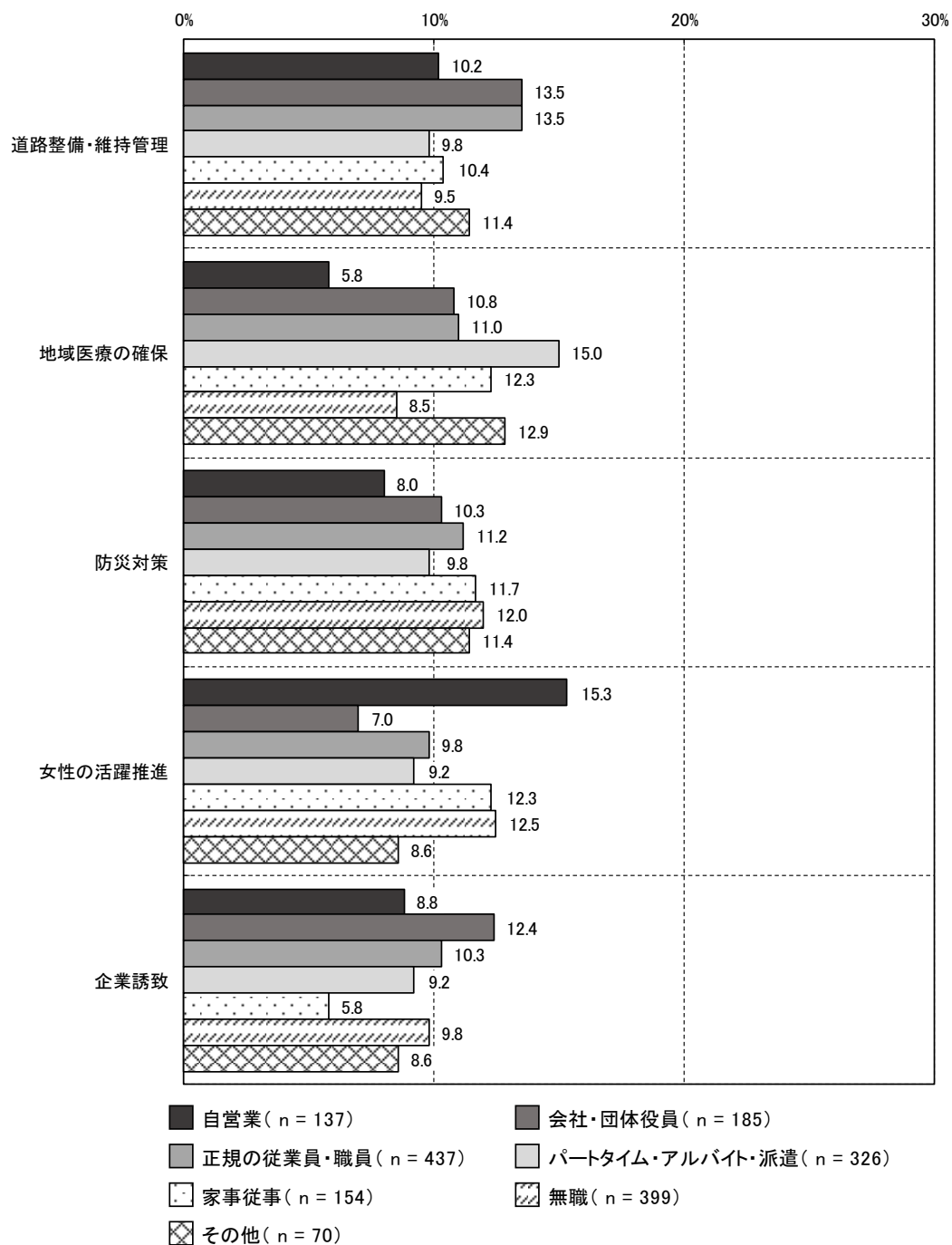
職業別（図 10-2-6）でみると、会社・団体役員、家事従事、その他では「若者の県内定着」、正規の従業員・職員では「少子化対策」、パートタイム・アルバイト・派遣では「公共交通の充実」、自営業、無職では「高齢者福祉」が最も高くなっている。

図 10-2-6 【職業別】 県の取組で努力が足りないと思う分野(上位 10 施策)



※ その他には、自由業、学生を含む。

図 10-2-6 【職業別】 県の実施で努力が足りないと思う分野(上位 10 施策) (続き)



※ その他には、自由業、学生を含む。

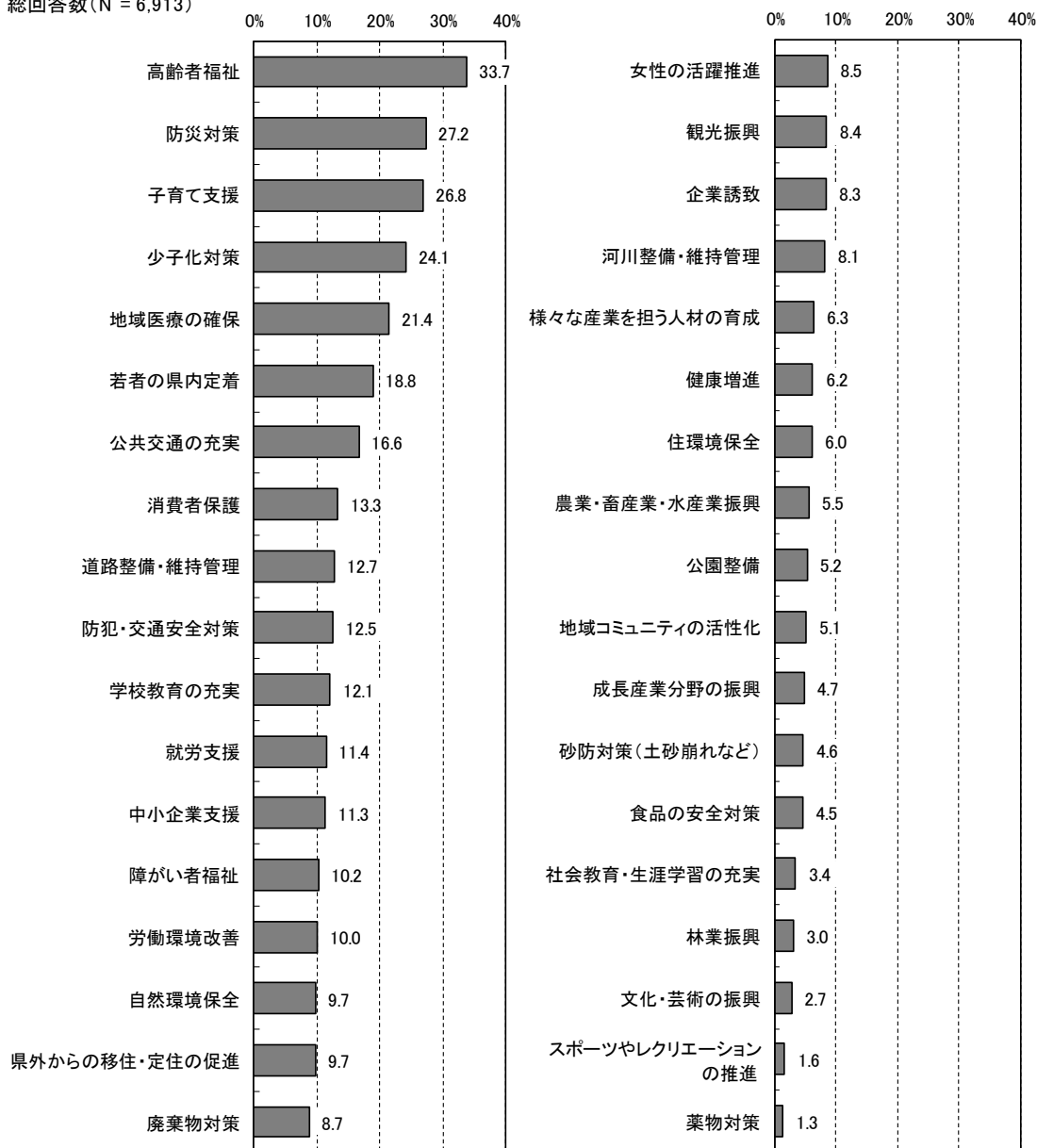
問11 重点的に進めるべきだと思う分野

問11 あなたは、今後、県がどのような分野を重点的に進めるべきだと思いますか。
(5つまで)

全体(図11-1)でみると、「高齢者福祉」が33.7%と最も高く、次いで「防災対策」(27.2%)、「子育て支援」(26.8%)の順となっている。

図11-1 重点的に進めるべきだと思う分野

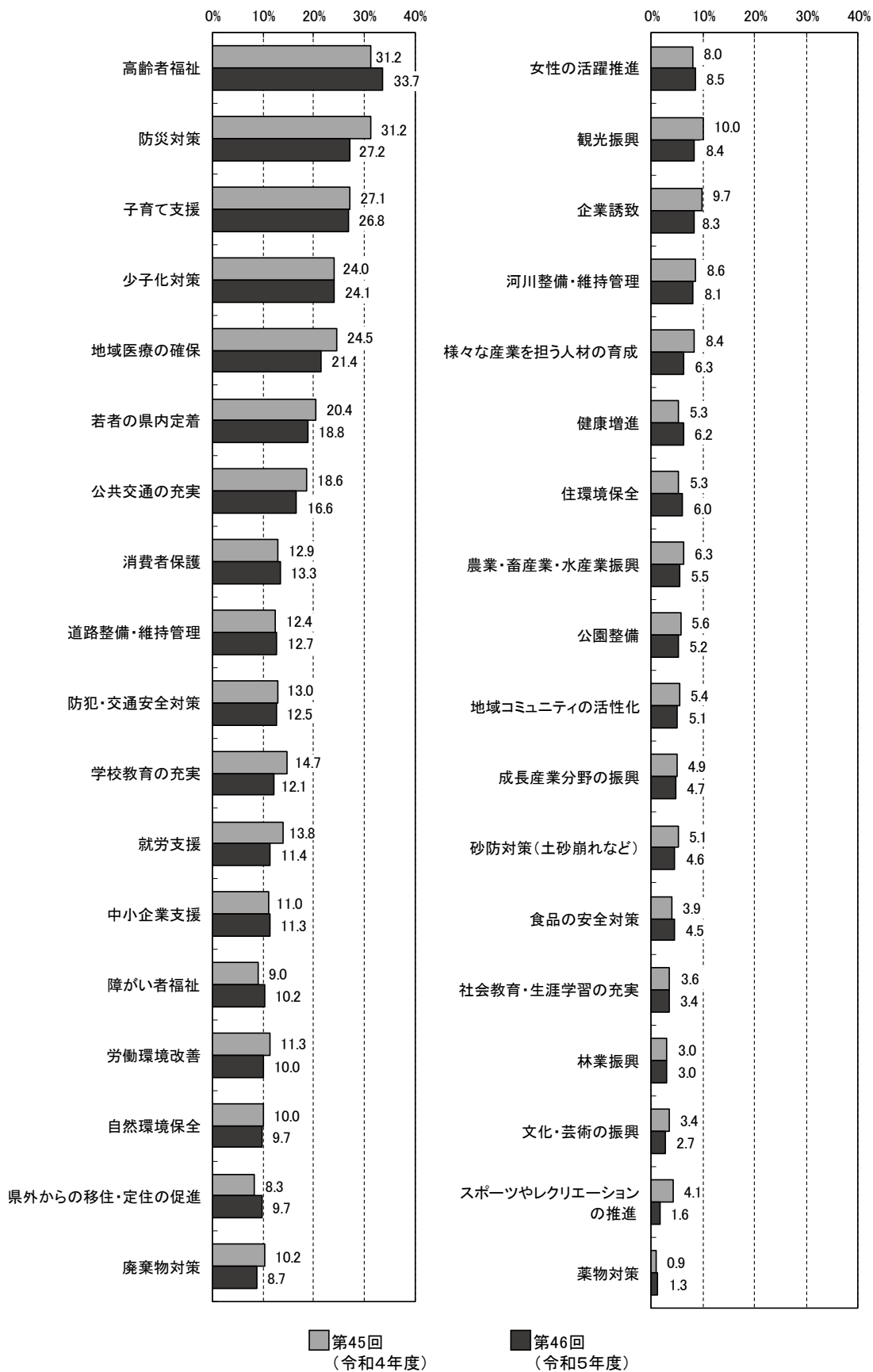
回答者数(n = 1,758)
総回答数(N = 6,913)



※ 本問における選択肢は、図表の構成上、以下のとおり略して表示しているものがある。
・住環境保全: 騒音・振動・大気・土壌対策などの住環境保全

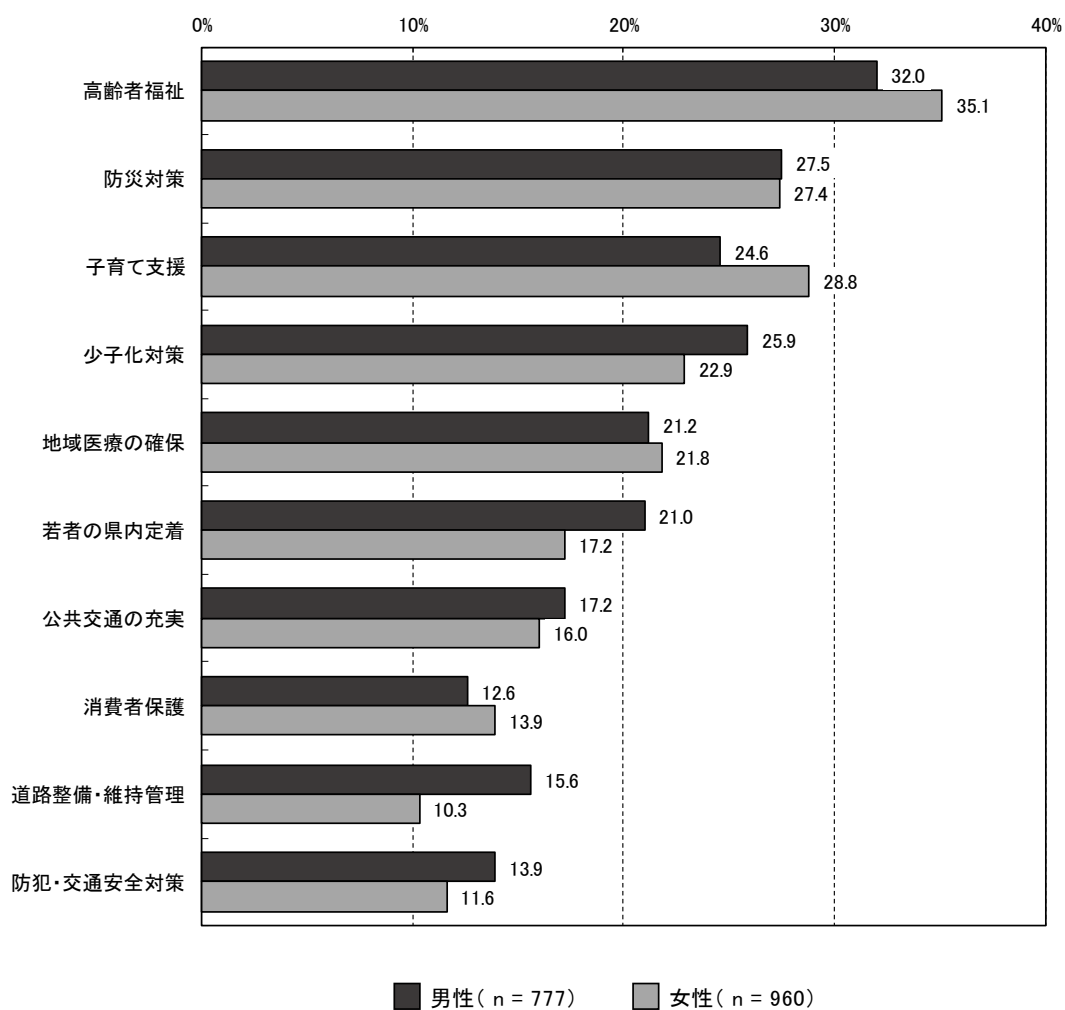
前回比較（図 11-2）で見ると、前回に続いて「高齢者福祉」が最も高くなっている。

図 11-2 【前回比較】重点的に進めるべきだと思う分野



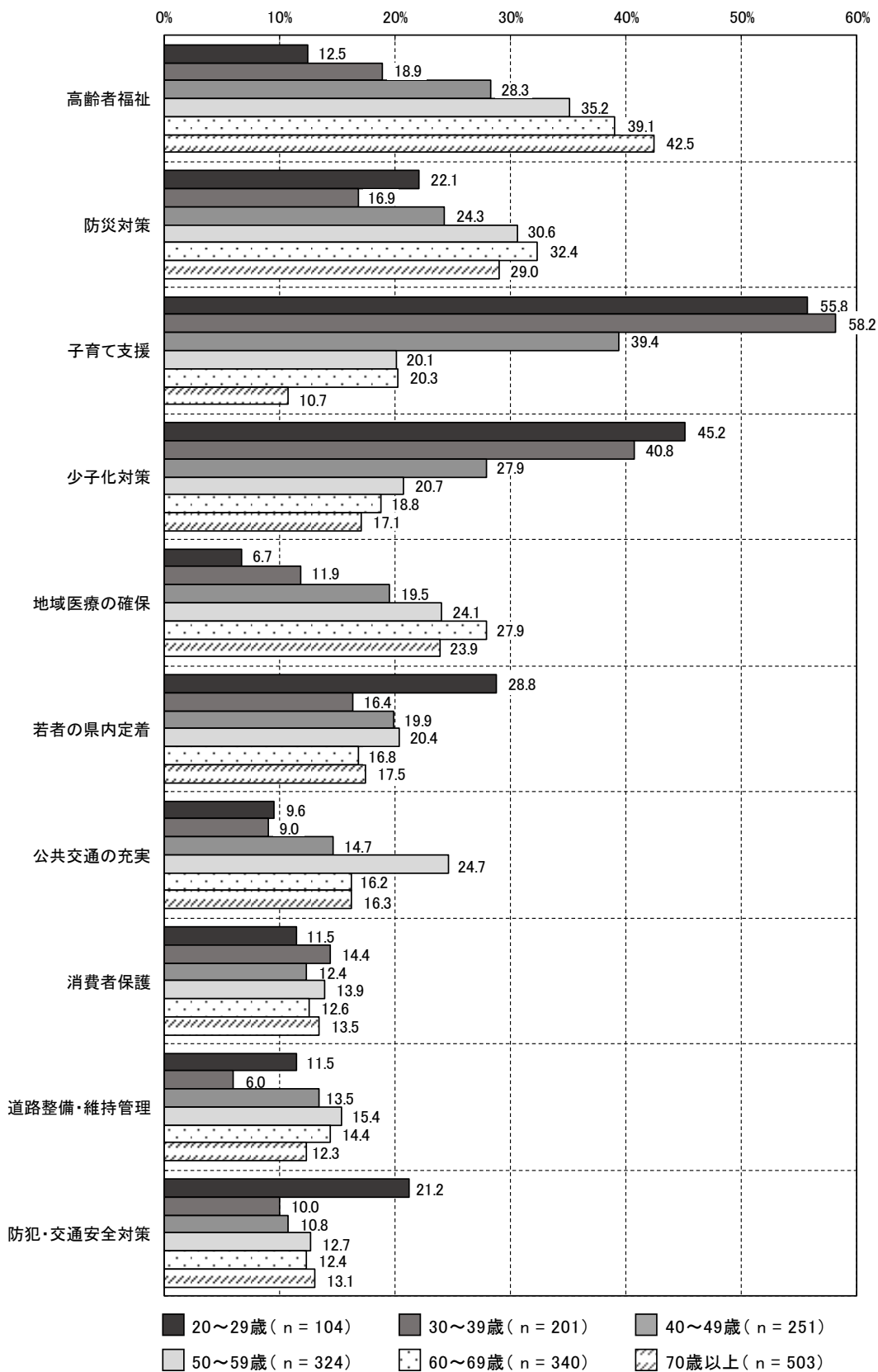
性別（図 11-3）で見ると、男女ともに「高齢者福祉」が最も高く、次いで男性では「防災対策」、「少子化対策」、女性では「子育て支援」、「防災対策」の順となっている。

図 11-3 【性別】 重点的に進めるべきだと思う分野(上位 10 施策)



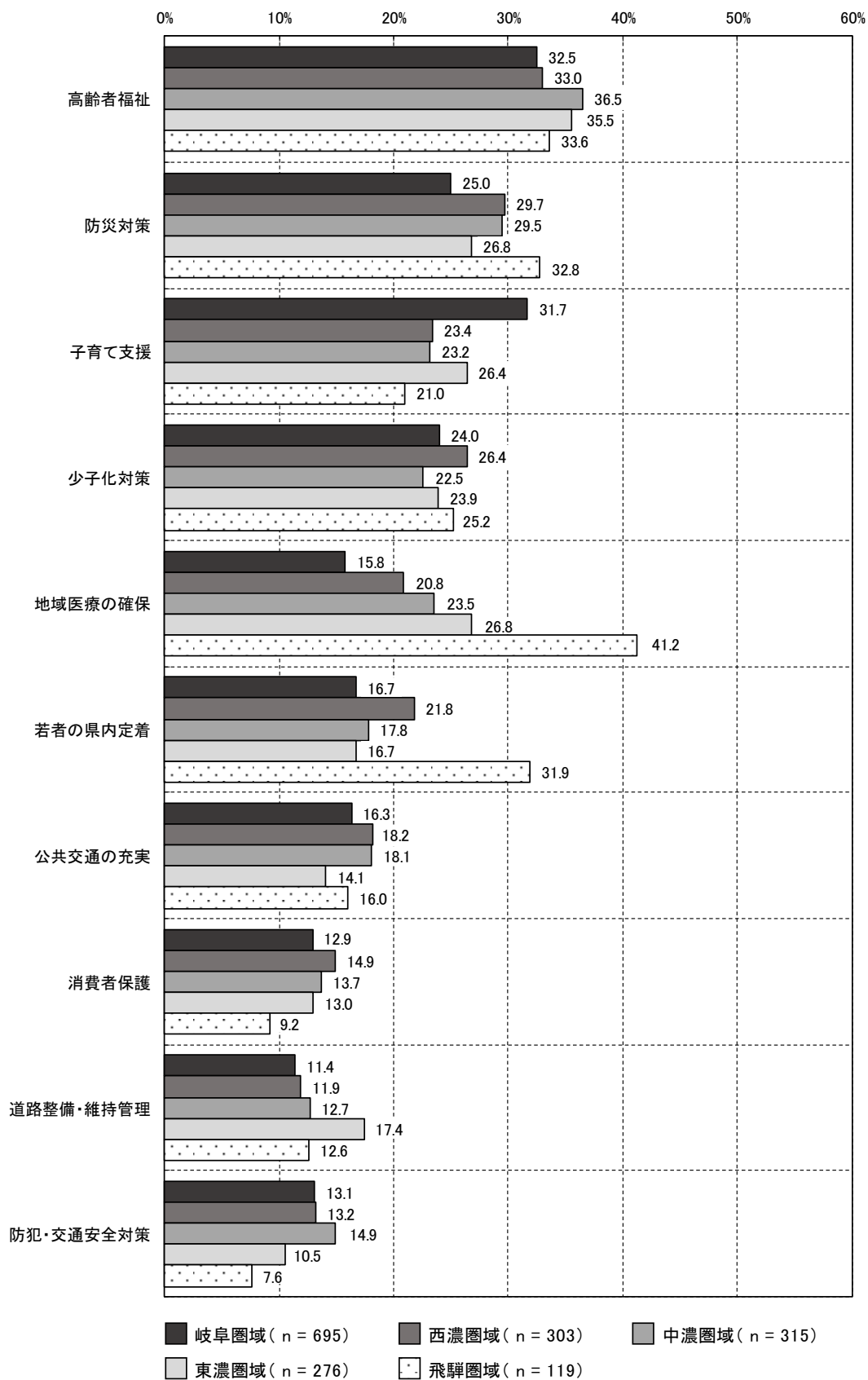
年代別（図 11-4）で見ると、20 歳代、30 歳代、40 歳代は「子育て支援」が最も高く、50 歳代、60 歳代、70 歳以上では「高齢者福祉」が最も高くなっている。

図 11-4 【年代別】重点的に進めるべきだと思う分野(上位 10 施策)



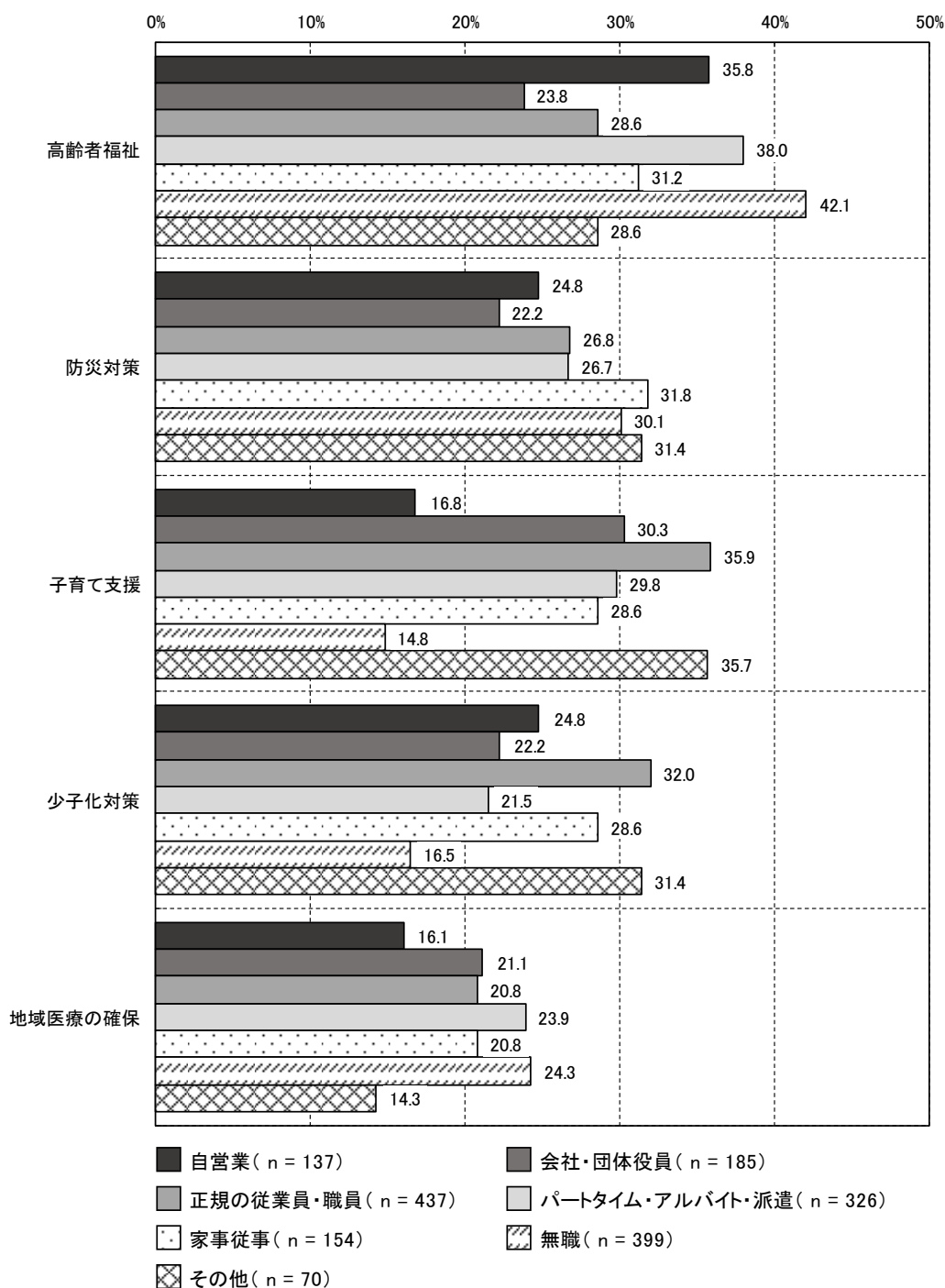
居住圏域別（図 11-5）で見ると、飛騨圏域を除くいずれの圏域においても「高齢者福祉」が最も高くなっており、飛騨圏域では「地域医療の確保」が最も高くなっている。

図 11-5 【居住圏域別】重点的に進めるべきだと思う分野(上位 10 施策)



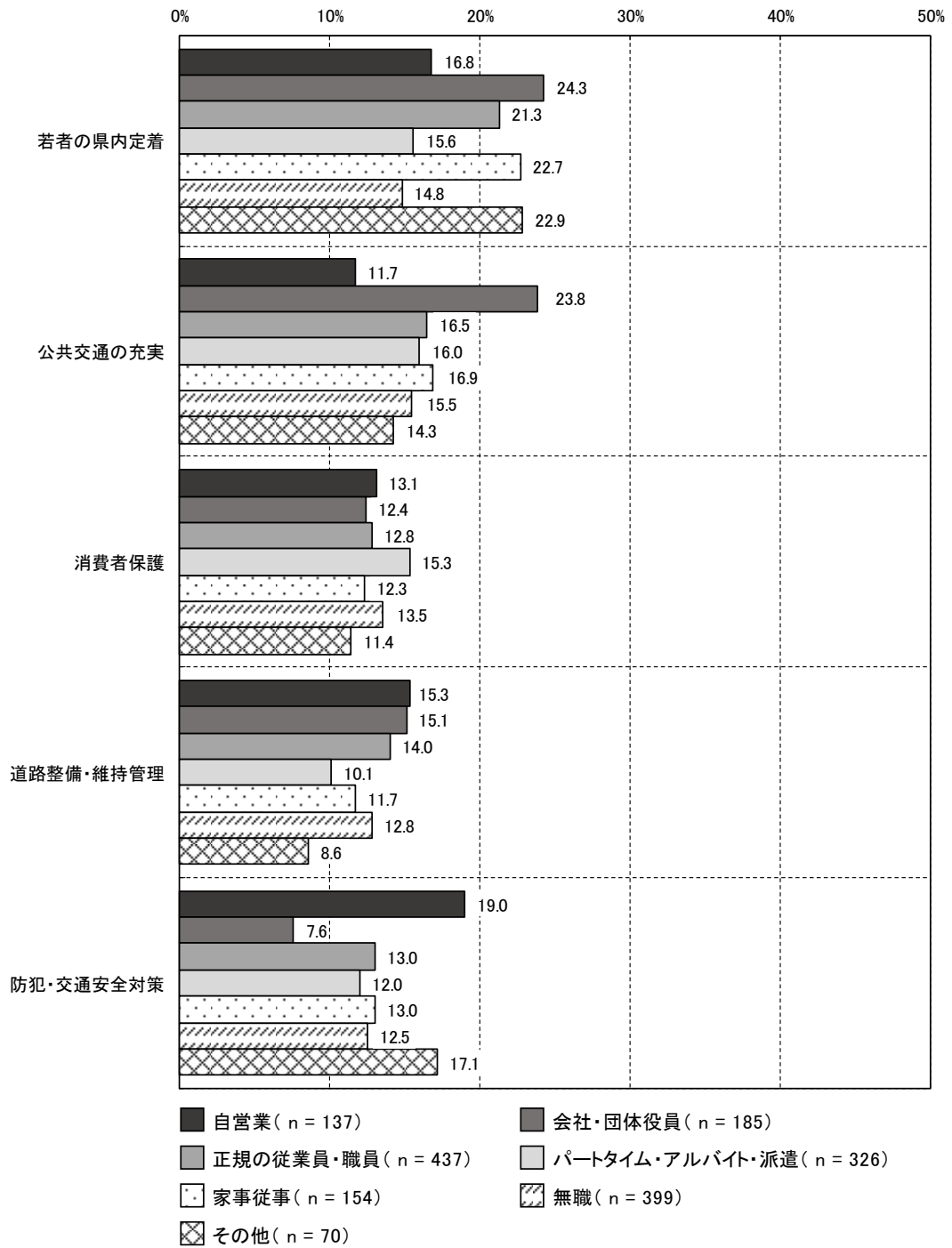
職業別（図 11-6）で見ると、自営業、パートタイム・アルバイト・派遣、無職では「高齢者福祉」が、家事従事では「防災対策」が、会社・団体役員、正規の従業員・職員、その他では「子育て支援」がそれぞれ最も高くなっている。

図 11-6 【職業別】 重点的に進めるべきだと思う分野(上位 10 施策)



※ その他には、自由業、学生を含む。

図 11-6 【職業別】 重点的に進めるべきだと思う分野（続き）



※ その他には、自由業、学生を含む。